

科目名	宗教学的人間学		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修
担当教員	福島 寅太郎			
開講期	後期			
授業概要	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報も取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。			
達成目標	「到達目標」 ・宗教学的「ものの見方」を理解する。 ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。			
受講資格	家政学部人間生活学科 1年	成績評価 方法	試験成績（60点）出席状況（60%以上）・授業への理解度8割、合とする。	
教科書	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。			
参考書	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。			
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。			
自学自習	・事前学習：当日の内容についての予習を忘れずにしてください(1時間)。 ・事後学習：与えられた課題を期間内に完成すること(1時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。
2	神中心の宗教	神に視点を置いてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神論的宗教と無神論的宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。
3	人間主義的宗教	人間に視点を置いてみると、宗教の中には、人間中心のものがあ、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれぞれである。
4	神秘主義的宗教と預言者の宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。
5	汎神論的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリヤデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。
11	救済の原理と価値観の転	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。
13	宗教的人間（1）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。
14	宗教的人間（2）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。

平成29年度

科目名	宗教学的人間学		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単 位 必修
担当教員	福島 寅太郎			
開講期	後期			
授業概要	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教学的“ものの見方”を理解する。 ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。 			
受講資格	家政学部人間生活学科 1年	成績評価 方法	試験成績（60点）出席状況（60%以上）・授業への理解度8割、合とする。	
教科書	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。			
参考書	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。 			
オフィスタイム	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。			
自学自習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：当日の内容についての予習を忘れずにしてください(1時間)。 ・事後学習：与えられた課題を期間内に完成すること(1時間)。 			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。
2	神中心の宗教	神に視点をおいてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神論的宗教と無神論的宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。
3	人間主義的宗教	人間に視点をおいてみると、宗教の中には、人間中心のものがああり、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれぞれである。
4	神秘主義的宗教と預言者の宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。
5	汎神論的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。
11	救済の原理と価値観の転	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。
13	宗教的人間（1）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。
14	宗教的人間（2）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。

科目名	哲学的人間学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択
担当教員	小阪 康治			
開講期	後期			
授業概要	<p>この講義は、前期で哲学を講義したので、それを基礎にさらに思想的な訓練を深めていくことを目的とします。前期は聞くのが主の講義でした。後期では、考えて表現することを練習しようと思っています。そのためには読むことと書くことを中心に講義を進めていくつもりです。テーマや内容は、受講者と相談しながら変えることもあります。</p> <p>[履修カルテの評価項目]</p> <p>① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度体験できたか。</p>			
達成目標	<p>この講義は、前期で哲学を講義したので、それを基礎にさらに思想的な訓練を深めていくことを目的とします。前期は聞くのが主の講義でした。後期では、考えて表現することを練習しようと思っています。そのためには読むことと書くことを中心に講義を進めていくつもりです。テーマや内容は、受講者と相談しながら変えることもあります。</p> <p>[履修カルテの評価項目]</p> <p>① 哲学的な知識は身についたか。 ② 哲学的な考え方についてどの程度理解できたか。 ③ 哲学的に考えを書くことがどの程度体験できたか。</p>			
受講資格	特になし		成績評価 方法	書くことを通じて、考えを養うので、最終成績は、毎回のレポートの総合でつけます。それだけではなく、講義時間内の発言などの積極性、加算して、最終成績にします。出席回数は規定通りに適用します。 読んで理解する。30% 論理的に書く。50% 講義中の積極的な発言。20%
教科書	受講生と相談して決める。			
参考書	必要に応じて指示する			
学生への要望	この講義は、何よりも書くことを練習するので、そのつもりで積極的に各課題に取り組んでほしい。前期の講義の内容を主に、学生諸君の興味、関心、また社会状況においてテーマを設定するつもりです。			
オフィスタイム	火、水曜日昼休み。研究室			
自学自習	予習より復習を重視して欲しい。各回のテーマの中から試験問題が出るので、講義後、ノートの整理だけでなく、テーマについての自分の考え方をまとめておくことと試験時に良い結果が出ると思う。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義の内容、目的、方法の説明	物事を考え、分析し、自分の考えをまとめて、それを表現するとはどういうことかを、まず皆で考えてみます。それから講義の進め方、やり方などを説明します。必要な用紙等の配布、参考書を使用するかどうか、皆で相談します。
2	幸福について考える	幸福について、皆で意見を出し合ってから、このテーマについて書いてみる。
3	どんなふうにして人は物事を知るか	物事を知るというのはどういうことか。正確に知る、だいたいの知識でいい場合。皆で話してみたら、このテーマについて書きます。
4	福祉について	社会福祉がこれから社会の重要な問題になります。専門に学んでいる人だけでなく一般の人でも考えておかねばならない問題でしょう。今回はこのテーマです。
5	嘘について	嘘をつくと他人から信用されなくなりますが、もっと大規模には社会が成り立たなくなります。嘘がどういう結果をもたらすのか、なぜ嘘はどこの社会でも嫌われているのかを、考えます。
6	企業の不祥事について	どの学科を卒業しても、ほとんどの学生は会社に勤めます。しかし企業では不祥事がたくさん起こっています。そういうときに自分はどういう態度を取るのか、あらかじめ考えておかねばなりません。
7	大学の特色について	本学の特色は、初代学長の家庭の守護性を基本として、いろいろな学問を教えるところにあります。今回はこの理念についてです。
8	自己決定について	他人に迷惑を掛けなければ何をしてもいい、というのは一応の原則です。ところが安楽死とか、臓器提供とか、自分の判断がひじょうに難しい状況が、最近では起こっています。自己決定は単純な問題ではありません。今回はこういう課題について、書いてみます。
9	書くということについて	今回はこれまで7回書いてきた経験を振り返ってもらいます。
10	大学生活について	一年の後期になり大学生活にも慣れたので、このあたりで自分の大学生活を考えてみたい。
11	少子化について	少子化は現代社会のいろいろなところに影響を及ぼしています。年金問題、社会の活力の低下なども、皆さん自身に降りかかってくる。皆さんはこれから結婚して子どもをつくる時期に入っていきます。今回はそういう観点からこの問題を考えてみます。
12	愛とは何か	愛というの、今の時期のみなさんにとっては、関心があるし、けっして副次的などうでもいい問題ではありません。今回は愛について各自の考えを深め、明確にってもらいます。
13	家庭とは何か	本学の教育理念は、ドイツの哲学者であり教育学者であるオットー・フリードリッヒ・ボルノー先生の思想の影響を強く受け、先生の思想を受け継いでいます。いろいろな講義の中で、本学の家庭についての考えを教えられたと思いますが、今回は家庭について各自に考えてもらいます。
14	環境問題	原発事故にみるまでもなく、環境問題はもともと現代社会の根本を揺るがす問題だったのです。福島県民はとくにこの問題を避けては通れません。
15	考えるということについて	最後に、このテーマで書いて、今学期のまとめにします。

平成29年度

科目名	人間発達学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	堀 琴美		
開講期	前期		
授業概要	人は生涯にわたって発達を続けます。大人になっても、年をとっても、人間として生きる意味を探求し、円熟し、次の世代を育てて、いのちと社会のバトンをつないでいきます。また、子どものころの発達は、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。		
達成目標	【達成目標】 ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。 ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。 ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など、重要な概念を理解する。		
受講資格	人間生活学科2年生 (生活総合コースは必修)	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（75%）、 授業態度・発言内容・レポート（25%）、 欠席が多い場合の減点あり。
教科書	授業でレジュメや資料を配布する。		
参考書	テーマ別に授業で紹介する。		
学生への要望	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることができるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れていきたいと思っております。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。		
オフィスタイム	水曜IV限、木曜I限、臨床心理学研究室。		
自学自習	事前学習：キーワードを調べてノートにメモをする。あるいは、参考文献の関連箇所を読んで理解しておく。 事後学習：授業の中で出てきた重要な概念や用語については、ノートを確認して、必ず覚えておくこと。また、不明な用語は調べてノートに記録しておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。 発達心理学とは何か。

科目名	家政学原論 I		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 2年 2単位 選択
担当教員	安田 純子			
開講期	前期			
授業概要	家政学原論 (Principles Home Economics) は、家政学の領域において根本・基礎を学び、家政学関連科目における専門の各論の土台となる科目です。 家政学原論 I では、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。家政学の歴史や発展、家政学の研究の目的・対象、研究の原理を学び、次いで家政学の理論を学びます。			
達成目標	家政学原論 I では、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。 本授業では、人間を大切に考え、健全な（家庭）生活を求め、人間生活を総合的に捉え、生活上の課題に対する解決策をも考える家政学への誘いをし、専門的研究への道づけも目指します。 履修カルテの評価項目：評価項目は、以下の3点です。 ①家政学の発祥と展開について、女性の生きる姿勢や勇気を学び、女性の教養観の葛藤や、その苦労や活躍を理解し、家政学の下地の理解につなげることができたか。 ②家政学の構造について問題を整理し理解できたか。 ③今日の（家庭）生活について見つめ直し、人間生活の真の豊かさとは何か、人間の成長にとって家庭の意義とは何かについて問題意識を深めることができたか。			
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修 家政学部人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修 家政学部 食物栄養学科2年 2単位 必修	成績評価 方法	15回の授業において、小レポートと最終回に筆記試験を課す。 100点満点で、筆記試験は60%、レポートは20%の配点、さらに、授業態度が真摯で熱心で積極的である方には合計点に加算し、満点は100点となる。	
教科書	教科書は定めない。 尚、必要な文献は、毎回の授業中に教示する。			
参考書	関口富左編著「家政哲学」家政教育社 他授業中に参考書や資料名を挙げる。図書館にて参照。			
学生への要望	学問的要望 授業は暗記ではない。考察できる力を養う。したがって、課題などに対して、図書館やインターネット等で調べ、常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深めて欲しい。 日常的要望（守るべきこと） 授業態度については、学生としての本分を貫き、飲食等の行為、スマホを離さない態度、隣人とおしゃべりなどは厳禁であり、授業に集中すること。レポートは指定された日程を守り提出すること。			
オフィスタイム	水曜日と木曜日の午前 場所は、創学館N.O. 1 研究室			
自学自習	新聞に目を通すなど常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深める。 授業後、復習としてノート整理などをしてまとめておく。（合わせて2時間程度）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス 家政学への接近	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の構成と進め方 ・その他の説明、受講生の確認 ・授業への導入 家政学とはどういう学問か

平成29年度

科目名	家政学原論Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	影山 彌			
開講期	後期			
授業概要	本講義は家政学の学問的基礎を確立するために、家政学を哲学的に究明し、家政哲学を樹立した。このことは、家族生活並びに個人の生活、即ち家政学の拠り所となる家政学原論を成立させる。従ってその重要性を捉え、家政学の本質を敷衍する。よって、この本質的視点より人々の生活の安定性へ寄与することを意図し且つ生活への還元を図る。			
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ①家政学の定義が理解できたか。 ②家政学における空間性・時間性についてどのくらい理解できたか。 ③「住むとはどんなことか」について理解できたか。			
受講資格	人間生活学科2年生 食物栄養学科2年生	成績評価 方法	受講態度（10%）、レポートあるいはテスト（90%）	
教科書	関口富左編『家政哲学』家政教育社			
参考書	関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 この参考書は 図書館にありますので、読んでください。			
学生への要望	予習、復習更に疑義等の解明について討議できるように種々の疑問点をす提起すること。			
オフィスタイム	(影山) 金曜日を除く昼休み(12:00~12:50) 創学館4階No.2研究室 (深谷) 火曜日(12:00~12:40)教務部			
自学自習	予習：当日の内容を配付資料で確認しておくこと(1時間) 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめをする(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	家政から家政学へ	家政学原論とは何か、家政学概論とは何か、原論と概論の違いについて意味内容の違いについて学びます。 家政から家政学への歴史について学び、また、日本の大学で家政学部から名称変更になった大学とその理由について話します。 本学の家政哲学研究の歩みと東北北海道地区の家政学原論開講状況について話します。

平成29年度

科目名	家族関係学	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 4年 2単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	前期		
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。教職(家庭科)の必修科目であるため、家庭科の「家族関係学」の学習領域を意識し、家族と福祉に重点を置いた内容とする。		
達成目標	①少子社会の定義や現状を理解している。②高齢社会の定義や現状を理解している。③5回の課題レポートを提出し、最終課題レポートをまとめて提出する。		
受講資格	人間生活学科4年生、食物栄養学科4年生、専攻科1年生	成績評価 方法	①課題レポート50点 ②授業中のリアクションペーパー10点 ②最終レポート40点
教科書	なし。プリントを配布します。		
参考書	その都度紹介します。		
学生への要望	課題レポート(宿題)の提出は5回ありますが、授業内容をこのシラバスで確認し、事前学習として主体的に学ぶことを求めます。		
オフィスタイム	木曜I限または水曜I限、家政学館4階被服学研究室		
自学自習	事前学習: 課題レポートの作成、課題レポートがない回には読んでくるべき資料を事前配布する(1時間) 事後学習: 次回の課題レポートの作成、課題レポートがない回には授業で学んだ資料からポイントをノートに箇条書きし要点を復習する(1時間) 最終課題レポートは、図書館へ行き関連図書を探し、独自性のあるレポートを作成すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家庭の意義について考える。

科目名	生活経営学Ⅰ		対象 単位数 必修	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	深谷 笑子, 大泉 由美			
開講期	前期			
授業概要	本授業では、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究をも駆使し、健全な生活を築くために多面的な考え方を学ぶ。 「人間守護」の理念に基づく家庭（内部空間）と社会（外部空間）の調ある生活は、価値観の多様化傾向が時間の経過とともに広がる現代社会には不可欠な課題である。そこで、生活経営の基本的要因である「人・物・財貨（金）・時間」を中心に家庭・社会の両空間の調ある望ましい生活経営の在り方を考える。			
達成目標	①内部空間と外部空間が密接不離であることが理解できる。 ②私たちは、組織の中にいることが理解できる。 ③家庭経済の仕組みが理解できる。			
受講資格	人間生活学科 2年生以上	成績評価 方法	テスト60%、授業中の課題20%、 受講態度（発表含む）20%	
教科書	必要に応じて資料を配付する。			
参考書	『新しい生活経営学』関口富左・関口修共著家政教育社出版 『家政哲学』関口富左編著 家政教育社 『組織の中の人間行動』三村敏子他著 有斐閣 『人間と空間』O.Fボルノー著 大塚恵一訳 せりか書房 その他適宜授業中に紹介する。			
学生への要望	・新聞や雑誌に目を通し、社会の状況に関心をくけてください。 ・多くの生活体験を通し、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むんでください。			
オフィスタイム	深谷 月曜日12時30分～12時45分（教務部） 大泉 火曜日2限 木曜日1限 （創学館4階No.2研究室）			
自学自習	・予習：事前に出される課題について、書籍や新聞、インターネット等を利用して調べておく。（1時間） ・復習：授業内容をノートにまとめ、テスト等に備える。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・授業の概要と進め方の説明
2	人間の生活する空間	・本日のニュースの発表。 ・人間が生活するためには家庭（内部空間）と社会（外部空間）は密接不離な関係にあること、両者の関係が如何に重要な関係にあるかを基本テーマに理解する。
3	組織体①	・本日のニュースの発表。 ・組織体とは何かということを経過を踏まえ理解する。 ※組織とは何かについて予め調べておくこと。
4	組織体②	・本日のニュースの発表。 ・組織体の管理・運営方法、その基本的な要因を内部空間の健全なる発展に活用することを前提として、組織体の管理・運営を学び、併せて外部空間の組織的構成についてもその意義を考える。具体的に、企業の目標を達成するために組織各部署の役割を理解し、家庭の目的とどのように異なっているかを理解する。 ※学生は、一般企業、学校等の組織を調べ、組織図を書いてみる。
5	組織体③	・本日のニュースの発表。 ・前回に引き続き、組織体の管理・運営の方法を具体的に学習し、生活への活用について理解を深める。 ※ここ迄の学習の理解度を確認するためのレポートの提出を課す。
6	計画	・本日のニュースの発表。 ・計画とは何かを具体的に知ることは、家庭（内部空間）の安定確保と更なる発展を図るためにも不可欠な課題である。 ・計画の基本的な内容（意義）について学び、計画の中には長期計画と短期計画があることを解説する。 ・計画と予定の意味を理解する。
7	計画の限界	・本日のニュースの発表。 ・ここでは計画の限界を知り、如何にして計画を是正するかを考えると共に計画を内部空間の管理・運営に活用するかについて理解する。特に、今日の社会においては、自然災害等により、絶対がなくなり、何を信じてよいか分からない現状である。このような状況の中では、計画をしても限界があるので、そのような時に情報を多く持っていることが大切であることを理解する。
8	統制	・本日のニュースの発表。 ・人間は常に何らかの自己統制（管理）を行い周囲の人々との調和を図りつつ生活をしているが、組織体の健全な運営のためには意識的（規則・規程）に統制（管理）を行わなければならない。内部空間にあっても合理的な自己規制をはじめとして約束事（規則・規程）がある。人間が集団化し何らかの行為を行うには統制を図ることになる。統制について基礎的な知識を理解し活用できる。
9	経営の要因	・本日のニュースの発表。 ・これまで学習した基礎的な内容を更に深めるため、経営の要因である「人・物・財貨（金）・時間」について統制の在り方を項目別及び総合的に学ぶ。 ※ここ迄の学習の理解度を確認するためのレポートの提出を課す。
10	指導・リーダーシップ	・本日のニュースの発表。 ・人間が生まれ育つ過程では常に何らかの指導が行われている。家庭教育や学校教育・社会教育が例示されるが、外部空間の組織体にあっても組織体の目的を達成するため指導（教育）は重要な課題である。そこで私達の生活に必要な指導とは、どのような事なのかを基礎的に、リーダーシップは外部空間の組織体ばかりでなくあらゆる生活において大切な事柄である。ここでは、リーダーシップとは何かと云うことを学ぶ。もっとも身近な家庭のリーダーシップ、地域社会のリーダーシップについて考える。また、リーダーの成立、リーダーの資質、リーダーの影響力等多様な価値観が増幅される現代社会での指導的役割を果たすリーダーの重要性について考える。 ※内容について簡単な理解度テストをおこなう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	人間と時間、生活と時間	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・私たちにとって、時間は何物にもかえがたいほどの関わりがあるが、それにもかかわらず重要視されていないのは何故か。人間と時間、生活と時間について考える。
12	家庭経済	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・家庭経済の仕組みとして家計、家庭経済及び国民経済について学ぶ。家計を企業や政府とのかかわりでその重要性を理解する。
13	家計の構成・家計簿	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・総務省の『家計調査』のデータを利用し家計について考える。 ・家計簿のつけ方(PC使用)を実践しながら具体的なお金の管理ができる。 ・家族のライフステージに合わせて、家計の課題も変わっていくことを理解する。
14	消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・現代の消費生活や消費問題に理解を深める。 ・経済の高度成長と大量消費生活、「消費者」の登場と消費者保護、消費のサービス化と情報革命等について学び、生活者としてよりよい生活の在り方を考える。
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のニュースの発表。 ・講義内容の総括

科目名	保育学		対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	岡本 宏二			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。</p> <p>②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。</p> <p>③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。</p> <p>〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①子どもたちの発達や発育について、医学的・生物学的に理解するができたか。</p> <p>②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。</p> <p>③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。</p>			
受講資格	教職（中学・家庭科）履修者及び上記対象学生。	成績評価方法	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。	
教科書	指定なし。授業毎に資料配布。			
参考書	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名			
学生への要望	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。			
オフィスタイム	木曜日 I、II (9:30～11:30) 家政学館4F被服学研究室（難波）。不在の場合もありますので授業終了後確認してください。 火～金 (12:00～12:50) 8 3 3 研究室（山上）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(4/7・難波)	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。
2	保育を考える(4/14・山上)	1) 未熟な状態で生まれるヒト ※保育の必要性を他の動物の生誕と比較して考える。
3	保育を考える(4/21・山上)	1) 文化の中の人間 ※ヒトは文化的環境の中で成長していくことを野生児の事例から学ぶ。
4	子どもの発達①(4/28・難波)	1) 母体の健康管理と子どもの誕生 2) 乳幼児の生理機能 ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。 3) 子どもの心身の発育・発達 ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。
5	子どもの発達②(5/12・難波)	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割 ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。 3) 子どもの言語・知能の発達 ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。
6	子どもの発達③(5/19・難波)	1) 子どもの運動について ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことによって引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。 2) 子どもの睡眠と成長について ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、栄養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について、研究事例を取り上げて解説する。
7	子どもの発達④(5/26・藤田)	1) 子どもの発達課題の理解 ※子どもの発達を理解し、同時に発達に伴う課題について学ぶ。
8	子どもの心とからだについて①(6/2・藤田)	1) 子どもの病気と対処法 ※子どもの主な病気と、家庭における子どもの症状に対する対処法を学ぶ。
9	子どもの心とからだについて②(6/9・難波)	1) 子どもを取り巻く環境について ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。 2) 保育体験学習の事前指導 ※子どもを観察して、子どもについて身近に考えて見ましょう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	保育体験学習(6/11・難波)	1)「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。 ※附属幼稚園 特別保育参観日を見学(学園第一体育館)
11	日本の幼稚園の始まり(6/19・山上)	東京女子師範学校附属幼稚園について知る。
12	日本の保育の始まり(6/23・山上)	倉橋惣三の保育論を学ぶ。
13	保育所の始まり(6/30・山上)	子守学校について知る。
14	子どもとのかかわり(7/14・難波)	1)子どもの遊びについて ※子どもの遊びを通して、発達にあわせた遊びとはどのようなものか考えていく。1)子どものタイプと対応方法について ※近年研究が進められている子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。1)保育実習 ※保育体験学習を通して、子どもについて理解を深める。
15	子育て支援と様々なタイプについて、保育学のまとめ(7/21・難波)	1)児童福祉について 2)子育て支援について ※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。 3)これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。

平成29年度

科目名	社会調査法		対象 単位数 必選	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	後期			
授業概要	社会調査というもの有何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標とした。			
達成目標	社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年生 短期大学部 専攻科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点 (15点×2回) ②課題 (レポート) 70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	水曜日 8:30~12:00 食品衛生学・経営管理学研究室			
自学自習	事前学習：次回の授業の内容をプリント等から確認すること (1時間)。 事後学習：ノート・プリントを見直して、授業の内容を復習すること (1時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学習する。
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学習する。
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学習する。
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学習する。
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学習する。
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学習する。
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学習する。
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学習する。 小テスト (1回目)
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学習する。
10	サンプリング	調査対象の選び方について学習する。
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学習する。
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学習する。
13	データの集計方法	情報の集約、代表値 (平均) から相関係数について学習する。
14	調査報告とデータの管理	調査の報告と報告後のデータの管理について学習する。
15	まとめ	これまでの学習内容について確認と復習を行う。 小テスト (2回目)

平成29年度

科目名	社会福祉実習Ⅰ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	<p>1. 社会福祉実習の科目の目的は、指導者の指導・助言をうけながら、講義で学んだ知識・技術をもって利用者との人間的な関わりを深め、利用者のニーズを理解・判断する能力を養い、さらに介護等に関する実際的な対処能力を実習体験とおして身につけることである。</p> <p>2. 社会福祉実習Ⅰは、社会福祉実習Ⅱ（施設実習1週間）及び社会福祉実習Ⅲ（施設実習1週間）が円滑に実施できるようにするための事前指導を具体的に受けることと、実習を総括するための事後指導について行うものである。</p>			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設の種別が理解できている。 ・社会福祉施設の利用者像が理解できている。 <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①社会福祉施設の役割をどの程度理解できたか。 ②社会福祉施設で生活する利用者のニーズをどの程度理解できたか。 ③社会福祉施設で必要とされる介護技術、コミュニケーション技術をどの程度習得できたか。 			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	出席40%、課題30%、試験30% 欠席により減点有	
教科書	宮田和明他編「5訂社会福祉実習」（第3版）中央法規出版			
参考書	特になし			
学生への要望	大学での学習と現場体験実習のつなぎとなる科目であることを理解して取り組んでください。			
オフィスタイム	月曜日の4時限目、金曜日の4時限目 創学館4階 No.6研究室			
自学自習	<p>予習：毎回、その項目について調べ、ノートにまとめる。（30分）</p> <p>復習：授業内容のポイントをノートにまとめる。（30分）</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	実習の全体をとらえる目的、課題、形態	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 科目の位置づけ ・社会福祉実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの全体を通してのポイントを学ぶ。 ・社会福祉実習Ⅰの全体と流れを学ぶ。

平成29年度

科目名	社会福祉実習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	授業全体の内容の概要 ・実習時間の構成は、1日8時間、6日間の実習となる。 ・実習の内容は、福祉施設やそこで行われているサービスについて理解する。 ・また、対象となる利用者のニーズについて学ぶ。 ・実習期間中に1度、巡回指導教員による巡回指導を実施する。		
達成目標	・在宅サービスおよび施設サービスについて理解できている。 ・基本的な介護技術、コミュニケーション技術について修得している。 【履修カルテの評価項目】 ①実習施設の役割をどの程度理解できたか。 ②実習施設で生活する利用者のニーズをどの程度理解できたか。 ③大学で学んだ介護技術、コミュニケーション技術をどの程度実践できたか。		
受講資格	社会福祉実習Ⅰ 受講済みの学生	成績評価 方法	実習施設による評価 70% 日誌・巡回指導時の面談 30%
教科書	特になし		
参考書	事前指導のため、随時プリントを配布します。		
学生への要望	生活の場をお借りしての実習なので、そのことを十分理解してください。また、学外で行われる貴重な機会ですので、積極的な態度で臨んでください。		
オフィスタイム	月曜日 3時限目、金曜日 3時限目		
自学自習	予習：社会福祉施設や利用者について理解を深める（30分） 復習：日誌のまとめ（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	事前指導①	・実習に当たり、最終確認を行う ・日誌の配布 ・学生調書の配布と記載

平成29年度

科目名	社会福祉実習Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	<p>授業全体の内容の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習時間の構成は、1日8時間、6日間の実習となる。 ・実習の内容は、福祉施設やそこで行われているサービスについて理解する。また、対象となる利用者のニーズについて学ぶ。 ・実習期間中に1度、巡回指導教員による巡回指導を実施する。 ・社会福祉実習Ⅱで行った施設とは別の種別での実習を行う。 			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における社会福祉施設の役割が理解できている。 ・施設で生活している利用者の特徴や思いが理解できている。 ・コミュニケーション技術が習得できている。 <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実習施設の役割をどの程度理解できたか。 ②実習施設で生活する利用者のニーズをどの程度理解できたか。 ③大学で学んだ介護技術、コミュニケーション技術をどの程度実践できたか。 			
受講資格	社会福祉実習Ⅰ・Ⅱ 受講済みの学生	成績評価 方法	実習施設による評価	
教科書	特になし			
参考書	事前・事後指導のため、随時プリントを配布します。			
学生への要望	多様な施設での実習を体験することにより、地域社会には様々な福祉サービスを提供している人がいることを理解してほしいと思います。			
オフィスタイム	金曜日 13時～16時 創学館No.6研究室			
自学自習	<p>予習：実習で体験した疑問点を文献等で調べる。(30分)</p> <p>復習：指導内容についてまとめる。(1時間)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	事前指導①	<ul style="list-style-type: none"> ・実習にあたり、最終確認を行う 日誌の配布 個人調書の確認

平成29年度

科目名	社会福祉原論		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 選択
担当教員	熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	現代社会における福祉制度と福祉政策の展開やその概念と意義について学ぶ。 また、現代社会の生活問題に注目しつつ福祉政策の現状と課題について考察する。			
達成目標	現代社会における福祉課題が理解できている。 社会的困難を抱えている人々とそのニーズについて理解できている。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース 生活総合コース	成績評価 方法	期末試験 80% 小テスト 20% 出席状況により減点あり	
教科書	毎週、プリントを配布します			
参考書	現代社会と福祉 中央法規			
学生への要望	常に新聞等に目を通し、現代社会問題に着目してください。			
オフィスタイム	火曜日の5時限目・金曜日の3限目（創学館4階 No.6研究室）			
自学自習	予習：シラバスを参考とし、関連するキーワードについて調べる。（1時間） 復習：配布資料のポイントをノートにまとめる。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業に関するガイダンスを行う。 現代社会問題について考える。
2	福祉制度の概念と理念	現代社会における福祉制度の意義や理念について理解する
3	社会の変化と福祉Ⅰ	日本の伝統的な社会から近代社会への変化に伴う福祉ニーズの発生と、福祉国家が成立するまでの市民権の確立の経過について学ぶ
4	社会の変化と福祉Ⅱ	福祉国家がどのような経過を経て変容していったか、現代社会の変化と比較しながら社会福祉の変化を理解する。 また福祉政策の現代的課題について知る。
5	福祉と福祉政策Ⅰ	価値規範としての福祉がどのようなものかを知る。社会福祉が従来のような高齢者・障害者・児童・困窮者を対象とするものから普遍化し拡大していること、反面福祉政策から漏れる場合があるという限定的な部分も理解する。
6	福祉と福祉政策Ⅱ	複雑多様化している日本の社会福祉問題に対して、政策の担い手である社会福祉士にどのような役割と機能があるのかを理解する。
7	福祉の原理をめぐる哲学と倫理	社会福祉の原理をめぐる展開されたわが国の戦後の社会福祉理論および社会福祉思想を学ぶ。 人々の望ましい生活のありようを、社会が積極的に支える思想とはどのようなものかを考える。
8	社会政策と福祉政策	社会政策の中の福祉政策という捉え方をし、そのあとから、社会政策体系の中の福祉政策体系がどのようなものになっているかを知り、マクロからミクロに捉えていく。
9	福祉政策の発展過程Ⅰ	社会福祉の歴史的発展を概観する。福祉政策がいかに近代化してきたかを知る。
10	福祉政策の発展過程Ⅱ	戦後改革と高度経済成長期の福祉政策について学ぶ。
11	少子高齢化時代の福祉政策Ⅰ	現代社会の大きな課題である少子高齢社会について概観する。その中での福祉政策の調整と進展についてどのように進められてきたかを知る。
12	少子高齢化時代の福祉政策Ⅱ	1990年代から2000年代以降の社会福祉政策について、どのように調整と進展がなされ、調整から改革へ方策が変化しているかを知る。
13	福祉政策における必要と資源Ⅰ	社会福祉制度を必要とする人々のニーズとは何か。常に日本の社会において必要が有り、みとめられてきたからこそ、福祉政策として発展してきた。その考え方について学ぶ。
14	福祉政策における必要と資源Ⅱ	人々の持つ福祉ニーズとは何か、そしてそれをどのように判断し、サービスを決定していくのか。その基準とは何か、判定について学び、福祉政策の資源についても知る。
15	まとめ	講義を振り返り、まとめを行う。

平成29年度

科目名	社会保障論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	添田 祐司		
開講期	前期		
授業概要	社会保障は、国民に社会的な危険・事故からの回避と回復を可能とするセーフティーネットの制度である。福祉国家の重要な政策である社会保障の理念、目的、機能および手段などを理解し、安定した人間生活に社会保障が果たす役割と、社会保障制度が整備されてきた歴史と背景について考える。		
達成目標	①社会保障制度の全体像（どのような制度が含まれるか）について理解できたか。 ②社会保障の各制度の役割と対象について理解できたか。 ③現代の貧困問題や社会的弱者の生活実態について関心が深まったか。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70%、コメントシート30%。 出席状況により減点あり。
教科書	「わかる・みえる社会保障論 一事例でつかむ社会保障入門」今井 伸 編、株みらい		
参考書	「新・社会福祉士養成講座 社会保障」中央法規		
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No.2 研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートにまとめること（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。 私たちの生活と社会保障について考える。

平成29年度

科目名	レクリエーション活動援助法	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	佐藤 喜也		
開講期	前期		
授業概要	1 遊び・レジャー・レクリエーションの我が国における現代的な意義を伝える。 2 Therapeutic Recreation Serviceの基本的な考え方と、社会福祉領域におけるレクリエーション援助の方法について伝える。 3 学んだ学生が社会福祉の現場に出たとき、実践的に役立つアクティビティを伝える。		
達成目標	1 遊び・レジャー・レクリエーションの我が国における現代的な意義を伝える。 2 Therapeutic Recreation Serviceの基本的な考え方と、社会福祉領域におけるレクリエーション援助の方法について伝える。 3 学んだ学生が社会福祉の現場に出たとき、実践的に役立つアクティビティを伝える。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	期末テスト 50点 日常の受講態度 50点
教科書	レクリエーション支援の基礎 (公財) 日本レクリエーション協会		
学生への要望	1 実技があるため活動的な服装で出席すること 2 実技及びグループワークには積極的に参加すること		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	コミュニケーションワーク 論2	授業の進め方、成績の評価方法等について（ガイダンス） アイスブレーキングの方法と進め方
2	基礎理論 演習	レクリエーション支援者の役割 レクリエーションアクティビティの体験
3	事業論 演習	レクリエーション事業の基本 レクリエーションアクティビティの体験
4	事業論 演習	レクリエーション事業の企画と演出 レクリエーションアクティビティの体験
5	事業論 演習	レクリエーション事業の安全管理 レクリエーションアクティビティの体験
6	支援論 演習	目的志向型レクリエーションワーク レクリエーションアクティビティの体験
7	支援論	コミュニケーションと相互作用 目的にあわせたアクティビティの選択
8	支援論	目的にあわせたアクティビティの提供 生活支援とレクリエーション
9	支援論	参加者に合わせたアレンジ法
10	指導実習	参加者に合わせたアレンジの実際
11	コミュニケーションワーク 論1	レクリエーション支援者にとってのホスピタリティと ホスピタリティトレーニング
12	コミュニケーションワーク 論2	アイスブレーキングのプログラミング
13	支援論	社会福祉とレクリエーション セラピューティックレクリエーションサービス
14	支援論	福祉レクリエーション援助プログラムの展開
15	基礎理論	レクリエーション運動の歴史と制度 レクリエーションとは何か

平成29年度

科目名	高齢者福祉論	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	高齢者の特性や生活実態についてのイメージを、その置かれている社会・経済的状況及び歴史的背景を学ぶことで理解を深める。 また、わが国の急速な高齢化に伴う高齢者問題の発生及び福祉ニーズの高まりを捉えるとともに、高齢者福祉とその関連施策について、介護保険制度に焦点をおいて、法制度及び実践の現状を理解する。		
達成目標	高齢者の特性や生活実態について理解する。 高齢者の福祉ニーズについて理解する。 介護保険制度を中心とした法制度及び福祉サービスについて理解する。 【履修カルテ評価項目】 ①高齢者の生活実態についてどの程度理解できたか。 ②要介護高齢者を支える介護サービスについてどの程度理解できたか。 ③高齢者福祉施設の種類の役割についてどの程度理解できたか。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70%、課題30% 欠席・授業態度で減点あり
教科書	社会福祉士養成講座 13 『高齢者に対する支援と介護保険制度』、		
参考書	授業の中で随時紹介します		
学生への要望	日頃から、高齢者に連する新聞記事等に関心を持ってください。		
オフィスタイム	火曜日の5時限目 金曜日の13時から16時 創学館4階 No.6研究室		
自学自習	予習：教科書を読み、当日の内容の理解に努める。(1時間) 復習：当日の内容を整理し、ノートにまとめる。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・高齢者の特性 ・高齢者の社会的理解 ・高齢者の身体的理解 ・高齢者の精神的理解
2	少子高齢社会と高齢者	・少子高齢社会と社会的問題 ・少子高齢社会と社会的問題 ・高齢者を取り巻く状況と諸問題 ・健康、介護、経済等
3	高齢者の雇用	・就労の動向と就労支援制度の概要 ・高齢者等の雇用の安定等に関する法律
4	高齢者保健福祉の発展 (1)	・高齢者保健福祉が時代の変化とともにどのように発達してきたかを学ぶ 第2次世界大戦までの高齢者福祉 高齢者福祉の基盤整備期—老人福祉法の制定— 高齢者福祉の発展期—施設福祉から在宅福祉へ— 福祉見直し論と社会福祉改革、
5	高齢者保健福祉の発展 (2)	・高齢者福祉の理念が時代の変化とともにどのように発達してきたかを学ぶ ゴールドプランと介護保険制度の創設 今後の高齢者福祉—福祉サービスの質の向上と利用者の権利擁護—
6	高齢者支援の関係法規	・老人福祉法 ・高齢者の医療の確保に関する法律 ・高齢者虐待防止法 ・その他の関係法規 バリアフリー新法、高齢者の居住の安定確保に関する法律、権利擁護と成年後見制度
7	介護保険制度の基本的枠組み	・介護保険制度の全体像 ・介護保険制度の目的と理念 ・保険財政 ・保険者と被保険者
8	介護保険制度の仕組み	・要介護認定の仕組みとプロセス ・保険給付 ・介護報酬 ・地域支援事業 ・介護保険事業計画 ・サービスの質の確保
9	介護保険サービスの体系	・介護保険サービスにおける専門職の役割と実際 ・居宅サービス ・施設サービス ・介護予防サービス ・地域密着型サービス
10	高齢者を支援する組織と役割	・行政機関地域包括支援センター ・社会福祉協議会 ・ボランティア団体、NPO

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	高齢者支援の方法と実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援の方法 個人・家族・グループ・地域・ケアマネジメント ・ 介護保険法における連携と実際
12	高齢者を支援する専門職の役割と実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職の役割と実際 ・ 多職種連携 ・ 専門職の倫理
13	認知症施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の認知症施策について概観する。 ・ 地域で行われている取り組みについて調べ、発表する。
14	高齢者福祉の課題と福祉専門職の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の展望についてグループワークを行い、福祉専門職の関わり方について各自の考えを発表する。
15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のまとめと補足説明を行う

平成29年度

科目名	児童福祉論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	添田 祐司			
開講期	後期			
授業概要	子どもや子育て家庭を取り巻く社会環境の変化と、子ども家庭福祉の具体的ニーズについて理解し、子ども家庭福祉の理念、実施体制、サービスの現状と課題について学び、実践に役立てることを目標とする。			
達成目標	①近年の日本における子どもと家庭の諸問題等について、どの程度理解できたか。 ②子ども家庭福祉に関する法律や制度等について、どの程度理解できたか。 ③国内外の子ども家庭福祉の歴史について、どの程度理解できたか。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70%、コメントシート30%。出席状況により減点あり。	
教科書	新・社会福祉士養成講座15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」中央法規			
参考書	適宜指示する。			
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No. 2研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートにまとめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。
2	現代社会と子ども家庭	近年の社会状況と、子ども・家庭の諸問題やニーズについて理解する。
3	子ども家庭福祉とは何か1	子ども家庭福祉の定義や内容について理解する。
4	子ども家庭福祉とは何か2	子どもと家庭の権利保障と歴史について学ぶ。
5	子ども家庭福祉にかかわる法制度1	子ども家庭福祉の計画的進展と支援制度について学ぶ。
6	子ども家庭福祉にかかわる法制度2	子ども家庭福祉の法体系と実施体制について理解する。
7	子ども家庭福祉にかかわる法制度3	子ども家庭福祉にかかわる専門職について理解する。
8	子ども家庭にかかわる福祉・保健1	子どもの貧困防止、母子保健、障害のある子どもとその家庭への支援について理解する。
9	子ども家庭にかかわる福祉・保健2	児童の健全育成や保育制度について理解する。
10	子ども家庭にかかわる福祉・保健3	近年の子育て支援施策の動向やひとり親世帯への支援について理解する。
11	子ども家庭にかかわる福祉・保健4	社会的養護や非行児童・情緒障害児への支援について理解する。
12	子ども家庭にかかわる福祉・保健5	児童虐待への対応や女性の福祉について理解する。
13	子ども家庭への援助活動1	相談援助活動の必要性やその方法について学ぶ。
14	子ども家庭への援助活動2	施設ケアや地域援助活動、ネットワークについて学ぶ。
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。

平成29年度

科目名	障害者福祉論		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択
担当教員	村田 清			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。</p>			
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。</p>			
受講資格	人間生活学科福祉コース3年生	成績評価 方法	出席状況・学習態度（50）、定期試験等（50）総合的に評価する	
教科書	特に指定しない			
参考書	障害者福祉論（ミネルヴァ書房）			
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートを取り、予習復習をすること			
オフィスタイム	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション・障害とは	法律にみる障害の定義、ICFによる障害のとらえ方、しょうがいの表記の仕方などを通して、障害とはどういうことが考えられる。
2	障害者福祉の基本的視点	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンなど障害者福祉の新しい視点について学習する。
3	障害者福祉のあゆみ	戦前から戦後にかけての障害者福祉、高度経済成長期以後の発展過程、障害者福祉の転換と国際的動向について学習する。
4	障害者福祉に関する制度や法律	障害者基本法・その改正の動向、身体者障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者健康福祉法等を学習する。
5	障害者の生活実態とニーズ	障害者の生活とニーズを理解し、暮らしや就労等の実情把握から現実の支援へとどうつなげていくかを学習する。
6	障害者総合支援法の概要	総合支援法の成立の背景や目的・理念について学び、給付や事業の全体像、サービスの実際やこれからの方向について学ぶ。
7	障害福祉サービスの利用プロセス	福祉サービス支給決定の流れ、介護給付や訓練等給付、利用者負担、障害支援区分、利用計画や支援者の連携等利用プロセスについて学習する。
8	相談支援	総合支援法における相談支援の概要や相談支援専門員の役割、相談支援と協議会の関係など、相談支援にかかわる実際について学習する。
9	就労支援	就労支援施策の全体像と雇用の促進について、障害者雇用促進法の概要や関係機関の役割を学び、障害者雇用推進の現状について学習する。
10	成年後見制度と 権利擁護	障害者虐待防止法、障害者の権利条約、差別解消法や成年後見制度、日常生活支援事業制度、苦情解決制度等の権利擁護に関する諸制度を学習する。
11	障害者プランにおける専門職の役割	市町村計画、当事者参加、民間活動等を学び、ケアマネジメントの手法や障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。
12	障害者の文化スポーツ	障害者の社会参加、生活環境の改善及び文化やスポーツ、福祉レクリエーション活動などの地域交流について学習する。
13	障害者支援のニーズと対応	身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害等様々な障害について理解し、それぞれの特別な支援ニーズと対応について学ぶ。
14	事例研究	個別事例を通して、障害者支援の実際について学ぶ。
15	まとめ	障害者福祉の課題とこれからの方向について総合的に学ぶ。

科目名	社会福祉援助技術論Ⅰ		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	熊田 伸子			
開講期	後期			
授業概要	<p>1. 相談援助の理念、概念と範囲について理解する。 2. 社会福祉援助技術の必要性を知る。 3. 相談援助における権利擁護の意義と範囲を理解する。 4. 社会福祉援助技術の体系と主な援助技術の方法及び内容を理解する。 5. チームワークの大切さとメンバーとしての自覚を知る。 6. 社会福祉士の役割（総合的・包括的援助及び地域福祉の基盤整備と開発）と意義を理解する。 7. 精神保健福祉士の役割と意義を理解する。 8. 介護保険法の居宅及び施設サービス計画の意義と概要を理解する。</p> <p>本科目の担当教員は熊田伸子と添田祐司で、下記の通りの分担となります。 第1回～第8回 添田祐司 第9回～第15回 熊田伸子</p>			
達成目標	<p>援助技術の体系及び具体的な方法が理解できている。 【履修カルテの評価項目】 ①ソーシャルワーク専門職として、社会福祉士が果たすべき役割としての援助技術の必要性とあり方を理解できたか。 ②社会福祉相談援助の理念、概念、範囲を理解できたか。 ③社会福祉援助技術の体系と主な援助技術の方法及び内容を理解できたか。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース 1年	成績評価 方法	定期試験100%、出席状況により減点あり	
教科書	新・社会福祉士養成講座6 「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	ソーシャルワークの機能を理解し、実践できるようにしよう。			
オフィスタイム	熊田 月曜日Ⅲ時限、金曜日Ⅲ時限 創学館4F、No.6研究室 添田 月曜日Ⅲ・Ⅳ時限（12:50～16:00） 創学館4F、No.2研究室			
自学自習	予習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義、社会福祉サービスと援助活動の関係、対人援助でのコミュニケーションの重要性	◎社会福祉士の役割と意義 ◎現代社会と地域生活 ◎対人援助でのコミュニケーションの重要性
2	社会福祉援助活動の理念	◎相談援助の定義と構成要素 ◎人権尊重、権利擁護、自立支援、生態論、循環型社会
3	専門職の概念と範囲	◎相談援助の形成過程Ⅰ ◎専門職の構造と要素、倫理・哲学、専門知識、専門技術を知る
4	援助技術の体系と対象	◎相談援助の形成過程Ⅱ ◎体系と対象、直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術を知る
5	共通課題 専門職と援助技術の関係 相談援助の理念Ⅰ	◎相談援助の理念 ◎福祉専門職と援助技術の関係
6	専門援助技術の体系及び内容 相談援助の理念	◎相談援助の理念Ⅱ ◎個別援助技術（ケースワーク）の理解を知る
7	集団援助技術（グループワーク）の理解 専門職倫理と倫理的ジレンマ	◎1. 専門職倫理の概念 2. 倫理綱領の意義と内容 3. 実践における倫理的ジレンマ ◎集団援助技術（グループワーク）の理解をする
8	地域援助技術（コミュニティワーク）の理解 総合的、包括的相談援助の全体像	◎1. 総合的、包括的な相談援助の動向とその背景 2. 地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座、パラダイムシフト 3. 地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能、基本的視座 ◎総合的、包括的相談援助を支える理論 1. ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点 2. ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質 ◎地域援助技術（コミュニティワーク）の理解をする
9	ケアマネジメント技術の基本的理解と介護保険法 相談援助にかかる専門職の概念と範囲	◎1. 相談援助専門職の概念 2. 相談援助専門職の範囲 ◎ケアマネジメント技術の基本的理解と介護保険法を学ぶ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	社会福祉援助活動の展開過程、実践的理解と技術を知る 総合的、包括的相談援助における専門職機能	◎総合的、包括的相談援助における専門職機能の展開 ◎社会福祉援助活動の展開過程、実践的理解と技術（MDS-CAPS他）を知る
11	居宅介護支援の理解、居宅サービス計画	◎社会福祉士の行う居宅介護支援の展開過程 実践的理解と技術、MDS-CAPS他を具体的に知ろう
12	チームワーク他	◎関連職種との連携 ◎チームワーク ◎情報の共有と個人情報 ◎ボランティアの活用と育成、ボランティアコーディネーションを学ぶ
13	チームワーク他	◎関連職種との連携 ◎チームワーク ◎情報の共有と個人情報 ◎ボランティアの活用と育成、ボランティアコーディネーションを学ぶ
14	社会福祉士のための相談援助	◎そのいろいろを学ぶ ◎地域包括支援センターについて学ぶ
15	施設福祉サービス計画まとめ	◎施設福祉サービス計画を学ぶ 施設利用者のための個別支援計画の作成とその運用を学ぶ ◎まとめ

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	島野 光正			
開講期	前期			
授業概要	<p>1. 社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。 2. 援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。 3. 福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。 1. 社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。 2. 援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。 3. 福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。</p>			
達成目標	<p>1. 社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。 2. 援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。 3. 福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。 1. 社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。 2. 援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。 3. 福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。</p>			
受講資格	社会福祉援助技術論Ⅱの終了を原則とする	成績評価 方法	出席状況及びレポートにより評価する	
教科書	新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ（中央法規出版）			
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提にすすめます。			
オフィスタイム	後期 毎週月曜日5講時講義			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	・オリエンテーション ・相談援助とは	<p>・講義の概要と到達目標について ・講義の進め方について ・予習復習について</p> <p>◎社会福祉士と社会福祉援助技術 1. ソーシャルワーカーの具体的な事例 2. 仕事からとらえたソーシャルワーカーの定義と枠組み 3. ソーシャルワークを構成する要素 4. ソーシャルワークの職場 5. ソーシャルワーカーが所属する組織</p>
2	・社会福祉における援助活動の意義 ・相談援助の構造と機能	◎社会福祉援助技術の意義 1. ソーシャルワークの構造 2. ソーシャルワークにおけるニーズ 3. ソーシャルワークの機能
3	・社会福祉士における援助活動の意義 ・人と環境の相互作用	◎社会福祉士における援助活動の意義 1. 人と環境 2. 環境の意味 3. 人と環境の全体性 4. システムの作動とサイバネティクス 5. システム理論によるひとつのソーシャルワーク論
4	・社会福祉専門職と社会福祉援助技術 ・相談援助における援助関係	◎ソーシャルワーカーとは ◎専門援助活動、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の定義 1. 援助関係の意義 2. 援助関係の形成プロセスに影響する要因 3. 援助構造と援助関係 4. 援助関係の質と自己覚知 5. 援助関係とミクロからマクロ実践領域
5	・専門援助技術と倫理 ・相談援助の展開過程Ⅰ	◎倫理的ジレンマ、専門性の構造と三つの要素、倫理・哲学、専門知識、専門技術とエンパワメント 1. 相談援助の展開過程の流れ 2. ケース発見 3. 受理面接（インテーク） 4. 問題把握からニーズ確定まで 5. ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで 6. 事前評価から支援目標・目標設定まで 7. 支援目標から支援の計画（プランニング）まで 8. 支援の計画（プランニング）から支援の実施まで
6	・専門的援助関係とコミュニケーション ・相談援助の展開過程Ⅱ	◎援助関係、コミュニケーション、共感、信頼関係 1. 経過観察（モニタリング） 2. 再アセスメントと支援の強化 3. 支援の終結と効果測定、評価、アフターケア 4. 予防的対応とサービス開発
7	・ソーシャルワーカーの専門性 ・相談援助のためのアウトリーチ技術	◎倫理綱領、自己覚知と他者理解 1. アウトリーチの意義と目的 2. アウトリーチの方法と留意点
8	・専門援助技術をめぐるわが国及び諸外国の動向 ・相談援助のための契約の技術	◎社会福祉援助技術の理解と動向、諸外国の動向、日本の動向、歴史 1. 契約の意義と目的 2. 契約の方法と留意点

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	・社会福祉援助活動の共通課題 ・相談援助のためのアセスメント技術	◎契約、面談、記録、評価など 1. ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、援助関係、面接 2. アセスメントで得るべき情報 3. アセスメント面接で得た情報の使い方
10	・社会福祉援助技術の体系と内容 ・相談援助のための介入の技術	◎援助概念、体系、総合化 1. 介入の意義と目的 2. 介入の方法と留意点
11	・社会福祉援助技術の構成 ・相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術	◎直接援助技術（個別援助技術、集団援助技術） 1. 経過観察（モニタリング） 2. 再アセスメント 3. 効果測定 4. 評価とサービス開発
12	・間接援助技術 ・相談援助のための面接の技術	◎地域援助技術、社会調査法、運営管理、社会福祉活動法、社会福祉計画法 1. 相談援助における面接の目的 2. 相談援助における面接の展開 3. 面接において用いられる技術とコミュニケーション 4. 面接援助における面接の形態
13	・その他の関連技術 ・相談援助のための記録の技術	◎ネットワーク、ケアマネジメント、カウンセリング、コンサルテーション ◎介護保険法における居宅サービス計画と施設サービス計画 1. 記録の意義とその活用目的 2. 記録の種類と活用 3. 記録の活用目的と種類との関係 4. 記録の方法とIT化（倫理的配慮について） 5. 記録の技術の実際例と今後の課題
14	・専門職種との職種連携（チームアプローチ） ・相談援助のための交渉の技術	◎意義と内容、統合化とチームによる対応、社会福祉援助技術の展開過程 1. 交渉の意義と目的 2. 交渉の方法 3. プレゼンテーションの技術
15	・記録と計画	◎記録と計画 まとめ

科目名	社会福祉援助技術論Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	島野 光正			
開講期	後期			
授業概要	<p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。 2. 援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 3. 援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。 また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。</p>			
達成目標	<p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。 2. 援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 3. 援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。 また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。</p> <p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。</p>			
受講資格	社会福祉援助技術論Ⅱの終了を原則とする	成績評価 方法	出席状況および定期試験により評価する	
教科書	新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ（中央法規出版）			
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提に進めます。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、人と環境の相互作用、相談援助における対象の理解	◎講義の概要の説明 ◎社会福祉援助技術の適用領域と対象分野 1. 社会福祉援助活動の概念と定義 2. 相談援助の対象を動とらえるか。
2	相談援助の対象、ケアマネジメント	◎過程、援助関係、面接技術、アウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発を理解する 1. ケアマネジメントの基本 2. ケアマネジメントの過程 3. ケアマネジメントにおけるアセスメントの特徴 4. ケアプランの作成・実施の特徴 5. ケアマネジメントの特徴 6. ケアマネジメントとソーシャルワークの関係
3	分野別社会福祉援助技術、グループを活用した相談援助	◎分野別社会福祉援助技術、対象別社会福祉援助技術 1. グループを活用した相談援助 2. 自助グループを活用した相談援助
4	個別援助技術の展開過程、コーディネーションとネットワークワーキング	◎インターク、アセスメントとプランニング、援助の展開期（援助実施、モニタリング）、援助の終結期を具体的に学習する。 1. コーディネーションの目的と意義 2. コーディネーションの方法、留意点 3. ネットワーキングの意義と目的 4. ネットワーキングの方法 5. 地域福祉を推進するための総合的なネットワークの形成とシステム化
5	集団を活用した集団援助技術の展開過程、相談援助における社会資源の活用・調整・開発	◎援助の準備期（グループの計画、形成計画、波長合わせ、援助チームとの合意、他） 援助の開始期（グループの特徴、援助者の役割、援助者の援助技術）援助の作業期（評価） 援助の終結期（終結の評価、終結期の計画の確認、記録まとめ） 1. 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的 2. 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル 3. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル
6	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチⅠ	◎展開過程を学ぶ 1. 実践モデルとその意味 2. 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル 3. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル
7	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉調査法の理論と技術を学ぶ 1. 心理社会的アプローチ 2. 機能的アプローチ 3. 問題解決アプローチ 4. 課題中心アプローチ 5. 危機介入アプローチ 6. 行動変容アプローチ
8	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉計画法の理論と技術を学ぶ 1. エンパワメントアプローチ 2. ナラティブアプローチ 3. その他の実践アプローチ 4. 実践アプローチをめぐる課題
9	社会福祉の運営管理、スーパービジョンとコンサルテーションの技術	◎社会福祉の運営管理を学ぶ 1. スーパービジョンの意義と目的 2. スーパービジョンの方法と留意点 3. コンサルテーション
10	社会活動の倫理と技術、ケースカンファレンスの技術	◎社会活動の倫理と技術、ネットワーク（多職種、他機関との連携を含む） 1. ケースカンファレンスの意義と目的 2. ケースカンファレンスの運営と展開過程 3. ケースカンファレンスの実際 4. ケースカンファレンスの評価と普遍化
11	ケアマネジメントとによる直接援助、相談援助における個人情報の保護	◎ケアマネジメントの目的と概念、構成要素、展開過程を学ぶ 1. 相談援助と個人情報保護 2. 個人情報とは 3. 個人情報保護の考え方 4. 個人情報保護制度の展開 5. 個人情報保護の制度 6. 相談援助における個人情報保護の課題

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	介護保険法下でのケアマネジメント、相談援助における情報通信技術（ICT）の活用	◎介護保険法下でのケアマネジメント、ケアマネジャー養成と四角などを学ぶ 1. 情報通信技術（ICT）と福祉情報 2. 相談援助における情報通信技術の活用 3. 事例分析の目的と意義 4. 事例分析の方法と留意点
13	記録とスーパービジョン、事例研究・事例分析	◎記録とスーパービジョン、個人情報の保護と留意点を学ぶ 1. 事例研究の方法 2. 事例研究の方法と留意点 3. 事例分析の目的と意義 4. 事例分析の方法と留意点
14	効果測定と評価	◎効果測定と評価を学ぶ ◎事例1～5を学ぶ
15	まとめ	◎授業のまとめ

科目名	社会福祉援助技術論Ⅳ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	熊田 伸子, 添田 祐司			
開講期	前期			
授業概要	・社会福祉援助技術Ⅰ～Ⅲで学んだ基礎的な援助技術論と援助技術演習、現場実習を結びつけることを目的とする 第1回～第8回 熊田伸子 第9回～第15回 添田祐司			
達成目標	・相談援助に関する知識と技術について理解し、現場実習で実践できる。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	定期試験100点 出席状況により減点あり	
教科書	新・社会福祉士養成講座8 「相談援助の理論と方法Ⅱ」（中央法規）			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・ソーシャルワークの機能を理解し、実践できるようにしてください。			
オフィスタイム	熊田 金曜日Ⅲ・Ⅳ時限（12:50～16:00） 創学館4F、No. 6研究室 添田 月曜日Ⅲ・Ⅳ時限（12:50～16:00） 創学館4F、No. 2研究室			
自学自習	予習：教科書を参考にし、キーワードを調べておく。（1時間） 復習：授業の内容をノートにまとめる。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	相談援助における利用者の理解	・ソーシャルワークの概念と定義を理解する
2	相談援助における利用者の理解	・相談援助の対象である個人、家族、集団、地域の捉え方を学ぶ
3	ケアマネジメント①	・ケアマネジメントとは何か、展開過程について理解する
4	ケアマネジメント②	・ケアマネジメントにおけるアセスメント方法を身につける
5	ケアマネジメント③	・ケアプランの作成・実施
6	ケアマネジメント④	・ケアマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する
7	グループワーク①	・グループワークとは何か、意義、援助展開について理解する
8	グループワーク②	・自助グループワークの例を中心に相談援助の在り方を理解する
9	コーディネーションとネットワーク①	・チームアプローチとしての連携の重要性と必要性を理解する ・コーディネーションの目的、意義、方法、技術を理解する
10	コーディネーションとネットワーク②	・コーディネーションの方法と技術を理解し、さらにコーディネーションにおける留意点を知り、実際のコーディネーター業務に応用できるようにする
11	コーディネーションとネットワーク③	・ネットワークの意義、目的、方法を身につけることができる ・コーディネーションが有効に機能するための連携や協働の基盤となる結びつきが理解できる
12	コーディネーションとネットワーク④	・ネットワークを行うにはどのようにしたらよいのか、実際のケースカンファレンスや多職種連携の場面を想定し、理解を深める
13	コーディネーションとネットワーク⑤	・地域包括ケアシステムや、地域トータルサポートシステム等の構築、地域福祉を推進していくための総合的なネットワークの形成とシステム化について理解することができる
14	相談援助における社会資源の活用・調整・開発①	・利用者のもつ福祉課題やニーズを解決するための社会資源の活用、調整、開発の意義や目的、方法について理解することができる
15	相談援助における社会資源の活用・調整・開発②	・社会資源の活用、調整、開発の意義や目的の理解をし、その方法についてさらに理解を深める。地域資源の開発と利用者の生活を充実していく社会開発・ソーシャルアクションの方法について理解をすることができる

平成29年度

科目名	医学一般	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	藤原 建樹		
開講期	前期		
授業概要	高齢者の健康管理に必要な医学知識を概説する。		
達成目標	高齢者の健康にかんする基礎的知識が習得されているか。		
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年	成績評価 方法	授業への参加状況 (50%) レポート提出 (50%)
教科書	人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版株式会社		
参考書	なし		
学生への要望	双方向の授業を期待します。		
オフィスタイム	臨床医学研究室 火曜日 8:30~ 12:00 水曜日 13:00~ 16:00 木曜日 8:30~ 12:00		
自学自習	配布資料ならびに教科書の読み返し。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	健康寿命と平均寿命	主な死因と人口動態
2	高齢者の健康管理	高齢者の健康と死因
3	高齢者の感染症	日和見感染症 院内感染症
4	認知症の諸問題	認知症とは 認知症の疫学 生理的健忘と認知症の健忘の異同 認知症の中核症状と辺縁症状 アルツハイマー病の概要 脳血管性認知症の概要 認知症の経過と予後
5	認知症とライフスタイル	認知症のリスクファクター 認知症とライフスタイル 認知症の予防
6	脳血管疾患 その1	脳卒中の疫学 脳卒中の分類 脳卒中のリスクファクター
7	脳血管疾患 その2	脳梗塞の症状と治療 脳出血の症状と治療
8	呼吸器 その1	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
9	呼吸器 その2	肺結核
10	呼吸器 その3	高齢者と肺炎 嚥下性肺炎 予防とワクチン
11	運動器 その1	ロコモティブ症候群とは 疫学 治療と予防
12	運動器 その2	高齢者と骨代謝
13	運動器 その3	高齢者と骨折 高齢者と易転倒性
14	褥瘡	褥瘡とは 褥瘡はなぜ怖い 予防と治療
15	まとめ	要介護のリスク要因 健康寿命とライフスタイル

平成29年度

科目名	地域福祉論 I	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	菊地 達美		
開講期	前期		
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。		
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。		
受講資格	人間生活学科 2年	成績評価 方法	レポート提出50点、国家模擬試験50点
教科書	「地域福祉の理論と方法」		
参考書	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法 中央法規		
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと		
オフィスタイム	月曜 II or IV限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義	地域福祉の発展過程
2	講義	福祉サービスシステムとしての地域福祉
3	講義	地域福祉の概念と体系化
4	講義	地域自立支援と福祉圏域
5	講義	地域コミュニティと社協・自治体の役割
6	講義	地域福祉推進と福祉教育
7	講義	福祉教育の内容と目標
8	講義	地方分権と地域福祉計画
9	講義	社会福祉協議会と社会福祉法人の役割
10	講義	市民活動とコミュニティビジネス
11	講義	コミュニティソーシャルワーク概念とシステム
12	講義	チームアプローチとコミュニティソーシャルワーク
13	講義	専門職の役割と地域住民の関係
14	講義	地域福祉推進と住民参加
15	講義	市町村自治体と住民参加

平成29年度

科目名	地域福祉論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	菊地 達美		
開講期	後期		
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。		
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。		
受講資格	人間生活学科 2年	成績評価 方法	レポート提出50点、国家模擬試験50点
教科書	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法 中央法規		
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと		
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義	ソーシャルサポートネットワーク
2	講義	ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワーク
3	講義	社会資源の活用
4	講義	福祉サービスの開発
5	講義	まち作りとソーシャルアクション
6	講義	地域生活における福祉ニーズ
7	講義	福祉ニーズの把握
8	演習	地域トータルケアシステムの展開
9	演習	地域トータルケアシステムの展開
10	講義	福祉サービスの評価と背景
11	講義	福祉サービス評価の方法
12	講義	プログラム評価と展開
13	講義	イギリスの地域福祉
14	講義	アメリカの地域福祉
15	講義	地域福祉論のまとめ

平成29年度

科目名	福祉行財政と福祉計画		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	添田 祐司			
開講期	前期			
授業概要	福祉行政の現場には、福祉事務所や児童相談所をはじめとして各種の相談機関があり、私たち国民の生活を支えている。また、国や地方自治体の財政において、社会保障・社会福祉関連の予算が大きな比重を占めている。さらに、1990年代頃から、高齢者、障害者、児童、地域福祉の分野では福祉計画の策定が進み、計画的かつ中長期的な福祉政策の展開が期待されている。この授業では福祉行財政および福祉計画について理解を深める。			
達成目標	①社会福祉の専門職としてふさわしい福祉行財政および福祉計画の基本的知識を習得できたか。 ②福祉行財政および福祉計画を理解し、社会福祉のあり方について自ら考えられるようになったか。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70%、コメントシート30%。 出席状況により減点あり。	
教科書	新・社会福祉士養成講座10 「福祉行財政と福祉計画」中央法規			
参考書	適宜指示する。			
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No. 2研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートにまとめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	福祉行財政と福祉計画 1	オリエンテーション 福祉行財政とは何か、解説する。
2	福祉行財政と福祉計画 2	福祉行財政の歴史①について学ぶ。
3	福祉行財政と福祉計画 3	福祉行財政の歴史②について学ぶ。
4	福祉行政 1	福祉行財政の現場①について理解する。
5	福祉行政 2	福祉行財政の現場②について理解する。
6	福祉行政 3	社会福祉基礎構造について理解する。
7	福祉財政	社会福祉の財政について理解する。
8	福祉行政の組織・団体と専門職の役割	地域の相談システムと専門職について理解する。
9	福祉計画の目的と意義	福祉計画の目的・意義について学ぶ。
10	福祉計画の理論と技法 1	福祉計画の策定方法について学ぶ。
11	福祉計画の理論と技法 2	福祉計画における評価について学ぶ。
12	福祉計画の実際 1	福祉計画の実際（高齢者分野）について理解する。
13	福祉計画の実際 2	福祉計画の実際（障がい者分野）
14	福祉計画の実際 3	福祉計画の実際（児童分野）について理解する。
15	福祉計画の実際 4 / まとめ	福祉計画の実際（地域福祉分野）について理解する。 まとめ

平成29年度

科目名	福祉サービスの組織と経営	対象 単位数 必選		
担当教員	未定			
開講期	後期			
受講資格		成績評価 方法		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

平成29年度

科目名	公的扶助論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	添田 祐司		
開講期	後期		
授業概要	公的扶助は、現代社会が生み出す貧困・低所得者問題に対応する制度的な取り組みを指し、社会保障・社会福祉制度の最後のセーフティネットと位置付けられている。そこで、公的扶助の概念や意義と、生活保護制度や低所得者対策のしくみとその動向を学ぶとともに、貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際を事例を通じて理解し、実践活動に役立てられるようにする。		
達成目標	①公的扶助の概念や意義は理解できたか。 ②生活保護制度や低所得者対策のしくみ、その動向は学理解できたか。 ③貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際を理解できたか。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70%、コメントシート30%。 出席状況により減点あり。
教科書	新・社会福祉士養成講座 16 「低所得者に対する支援と生活保護制度」中央法規		
参考書	適宜指示する。		
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No. 2研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートにまとめること（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	公的扶助の概念	公的扶助の概念と範囲、意義と役割について理解する。
2	貧困・低所得者問題と社会的排除	貧困・低所得とは何か。貧困と社会的排除、貧困・低所得者問題の現代的課題について理解する。
3	公的扶助制度の歴史	海外の歴史・日本の歴史、貧困・低所得者対策の近年の動向について学ぶ。
4	生活保護制度の仕組み1	生活保護法の目的と原理、原則や保護の種類と内容及び方法について理解する。
5	生活保護制度の仕組み2	被保護者の権利および義務、不服申し立てと訴訟について理解する。
6	最低生活保障と生活保障基準	最低生活保障水準の考え方、生活保障基準の考え方について理解する。
7	生活保護の動向1	被保護人員及び被保護世帯数の動向について学ぶ。
8	生活保護の動向2	保護の開始、廃止の動向や医療扶助、介護扶助の動向について学ぶ。
9	低所得者対策の概要	生活困窮者自立支援法と生活福祉資金貸付制度について理解する。
10	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体1	国・都道府県・市町村の役割について理解する。
11	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体2	福祉事務所の役割と実際、福祉事務所専門職の役割について理解する。
12	貧困・低所得者に対する相談援助	生活保護制度における相談援助活動、低所得者対策における相談援助活動について学ぶ。
13	生活保護における自立支援	自立とは何か、自立支援プログラムの位置付けについて理解する。
14	生活保護における自立支援	自立支援プログラムの策定と実際について学ぶ。
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学習する。

平成29年度

科目名	保健医療サービス	対象 単位数 必選		
担当教員	未定			
開講期	後期			
受講資格			成績評価 方法	

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

平成29年度

科目名	権利擁護と成年後見制度		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	鈴木 康元			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する 〔授業全体の内容の概要〕 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する 〔授業全体の内容の概要〕 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解			
受講資格	人間生活学科福祉コース3年	成績評価 方法	ペーパーテストと出席状況	
教科書	その都度指定する			
参考書	その都度指定する			
学生への要望	積極的に授業に臨むこと			
オフィスタイム	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	1 高齢者・障害者の人権と権利擁護	高齢者・障害者の人権と権利擁護
2	2 意思能力とは何か（民法の理解を含む）	意思能力とは何か（民法の理解を含む）
3	3 相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）
4	4 相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	相談援助活動と法（行政法の理解を含む）
5	5 成年後見制度とは何か（基本理解）	成年後見制度とは何か（基本理解）
6	6 成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	成年後見制度の運用実態（問題点も含む）
7	7 日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について
8	8 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）
9	9 権利擁護活動の実際	権利擁護活動の実際
10	10 刑事司法、少年法の基本理解	刑事司法、少年法の基本理解
11	11 更生保護制度の概要（その必要性）	更生保護制度の概要（その必要性）
12	12 更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手
13	13 更生保護制度における関連機関・団体との連携	更生保護制度における関連機関・団体との連携
14	14 医療観察制度の概要	医療観察制度の概要
15	15 更生保護における近年の動向と課題	更生保護における近年の動向と課題

平成29年度

科目名	相談援助演習 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	菊地 達美		
開講期	前期		
授業概要	個人々への総合的・包括的な支援や地域福祉の基盤整備、開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、援助場面を想定した実技指導を中心に授業を進める。		
達成目標	個人々への総合的・包括的な支援や地域福祉の基盤整備、開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、援助場面を想定した実技指導を中心に授業を進める。		
受講資格	人間生活学科 3年	成績評価 方法	支援計画書等の提出60点、演習姿勢40点
教科書	社会福祉士 相談援助演習 中央法規 及びプリント配布		
参考書	介護記録の書き方・読み方・生かし方 中央法規		
学生への要望	PCを使用し各種計画書を作成する。		
オフィスタイム	月曜 II or IV限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義	相談援助演習の概要
2	講義	社会福祉サービス体制について(介護保険サービス)
3	講義	社会福祉サービス体制について(障害者自立支援サービス)
4	演習	対人援助における他者の理解
5	演習	対象者と社会診断
6	演習	他者の「思い」の理解
7	演習	支援記録と実習記録
8	演習	相談援助における面接の目的
9	演習	インテーク面接のあり方
10	演習	面接の基本と展開
11	演習	要介護認定と障害程度区分認定について
12	演習	福祉サービス利用計画と個別支援計画作成
13	演習	地域包括支援における支援計画
14	演習	介護計画と地域密着型介護サービス
15	演習	障害福祉計画と障害者自立支援協議会の役割

平成29年度

科目名	相談援助演習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
担当教員	菊地 達美		
開講期	後期		
授業概要	相談援助における多様性、分野別技術の演習を中心に行い応用能力を向上させ福祉サービス利用者の個別ニーズに柔軟性のある福祉サービス提供者としての専門性を高める。		
達成目標	相談援助における多様性、分野別技術の演習を中心に行い応用能力を向上させ福祉サービス利用者の個別ニーズに柔軟性のある福祉サービス提供者としての専門性を高める。		
受講資格	人間生活学科 3年	成績評価 方法	支援計画書の提出60点 演習姿勢40点
教科書	社会福祉士 相談援助演習 中央法規		
参考書	介護記録の書き方・読み方・生かし方 中央法規		
学生への要望	PCを使用し計画書の作成を行う		
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義	地域生活支援のケアプランの特徴
2	講義	施設ケアプランの特徴
3	演習	地域の支援課題と住民による支援のコーディネーション
4	演習	地域の支援課題と住民による支援のコーディネーション
5	演習	心理社会的アプローチに関する相談支援
6	演習	心理社会的アプローチに関する相談支援
7	演習	入所施設ケアプランと相談支援について
8	演習	入所施設ケアプランと相談支援について
9	演習	触法と与刑者アプローチと相談支援
10	演習	触法と与刑者アプローチと相談支援
11	演習	見えないニーズと権利擁護支援
12	演習	生活目標設定における相談支援
13	演習	個別支援計画の作成
14	演習	グループ支援計画の作成
15	演習	支援会議とモニタリング

平成29年度

科目名	相談援助演習Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	添田 祐司, 熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	①ソーシャルワークの理論、モデルの枠組みについて理解する。 ②人と環境とその相互作用について、ソーシャルワーカー固有の概念に基づいて理解する。 ③理論あるいはモデルに準拠して人と環境とその相互作用を理解し、実際の援助技術の活用について理解する。 第1回～第18回 添田祐司 第19回～第30回 熊田伸子 ※上記のとおりオムニバス型式にするが、演習内容によっては適宜、両名で対応する。			
達成目標	①ソーシャルワークの理論、モデルの枠組みを理解できたか。 ②人と環境とその相互作用について、ソーシャルワーカーとして理解し説明できるか。 ③理論あるいはモデルに準拠して人と環境とその相互作用を理解し、実際に援助技術を活用できるか。			
受講資格	相談援助演習Ⅰ・Ⅱを修了していることを原則とする。	成績評価 方法	演習への参加姿勢70%、コメントシート30%。 出席状況により減点あり。	
教科書	「社会福祉士 相談援助演習」中央法規			
参考書	適宜指示する。			
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	月曜日1時限・II時限 創学館4F、No.2研究室（添田）			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートにまとめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	演習内容の説明
2	オリエンテーション②	相談援助とは
3	地域を基盤とした相談援助演習1	地域福祉計画の策定に関する相談援助演習
4	地域を基盤とした相談援助演習1-②	地域におけるサービス提供に関する相談援助演習
5	地域を基盤とした相談援助演習2	地域におけるネットワーキングに関する相談援助演習
6	地域を基盤とした相談援助演習2-②	地域における権利擁護活動に関する相談援助演習
7	地域を基盤とした相談援助演習3	社会資源の把握、活用、調整、開発に関する相談援助演習
8	地域を基盤とした相談援助演習3-②	住民参加と組織化活動に関する相談援助演習
9	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習1	医学モデル・社会モデル・生活モデルに関する相談援助演習
10	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習1-②	ストレスモデルに関する相談援助演習
11	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習2	心理社会アプローチに関する相談援助演習
12	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習2-②	問題解決アプローチに関する相談援助演習
13	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習3	危機介入アプローチに関する相談援助演習
14	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習3-②	行動変容アプローチに関する相談援助演習
15	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習4	認知行動療法に関する相談援助演習
16	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習4-②	エンパワメントアプローチに関する相談援助演習
17	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習5	ナラティブアプローチに関する相談援助演習
18	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習5-②	家族システム論に関する相談援助演習
19	社会問題を基盤とした相談援助演習1	社会的排除に関する相談援助演習①
20	社会問題を基盤とした相談援助演習1-②	社会的排除に関する相談援助演習②
21	社会問題を基盤とした相談援助演習2	ミクロ・メゾ・マクロ実践に焦点を当てた相談援助演習①
22	社会問題を基盤とした相談援助演習2-②	ミクロ・メゾ・マクロ実践に焦点を当てた相談援助演習②
23	社会問題を基盤とした相談援助演習3	サービス評価に関する相談援助演習
24	社会問題を基盤とした相談援助演習3-②	就労支援（障がい者）に関する相談援助演習

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	社会問題を基盤とした相談援助演習 4	就労支援（母子）に関する相談援助演習
26	社会問題を基盤とした相談援助演習 4-②	病院からの退院に関する相談援助演習
27	社会問題を基盤とした相談援助演習 5	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス：DV）に関する相談援助演習
28	社会問題を基盤とした相談援助演習 5-②	虐待への相談援助演習
29	対象者別にみた相談援助演習	低所得者への相談援助演習
30	対象者別にみた相談援助演習	高齢者（要介護者）とその家族への相談援助演習

平成29年度

科目名	相談援助実習指導Ⅰ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子, 添田 祐司			
開講期	前期			
授業概要	①相談援助実習の意義について理解する。 ②相談援助に係る専門的知識・専門的技術について、具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等への理解を深め、自己に求められる課題を把握して実習に臨むことができるようになる。			
達成目標	①相談援助実習の意義が理解できている。 ②実習施設におけるソーシャルワーカーの役割が説明できる。			
受講資格	社会福祉士課程履修登録者	成績評価 方法	定期試験40%、課題30%、演習30% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	「社会福祉士 相談援助実習」 白澤政和、米本秀仁編（中央法規）			
参考書	適宜紹介します			
学生への要望	相談援助の専門職の実習であることを自覚して、事前の勉強に臨んでください。			
オフィスタイム	熊田 金曜日Ⅲ・Ⅳ時限（12:50～16:00） 創学館4F、No.6研究室 添田 金曜日Ⅲ・Ⅳ時限（12:50～16:00） 創学館4F、No.2研究室			
自学自習	予習：教科書を読み、当日の内容を理解しておく。 専門用語などはあらかじめ調べておく。（1時間） 復習：授業のポイントをノートにまとめる。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士の役割 社会福祉士の資格 社会福祉士の働く領域 相談援助実習の位置づけと相談援助実習の仕組み
2	専門職としての位置づけと相談援助実習	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士の専門性 相談援助実習の意義 実習における学習の概要 実習教育の位置づけ
3	実習の具体的な内容①	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助実習ガイドラインの特徴と構成 実習施設の確認
4	実習の具体的な内容②	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助実習の手引きの配布と内容の確認
5	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士とソーシャルワーカーの関係 社会福祉士の新たな役割と機能 ソーシャルワークの枠組み 社会福祉士の義務
6	契約関係の中にある実習①	<ul style="list-style-type: none"> 実習契約関係の理解
7	契約関係の中にある実習②	<ul style="list-style-type: none"> 実習先機関・施設におけるリスクマネジメント 契約書について
8	相談援助実習の場と形態	<ul style="list-style-type: none"> 法令上の相談援助実習施設 フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワーク実習
9	社会福祉士としての職業倫理	<ul style="list-style-type: none"> 日本社会福祉士会の倫理綱領 社会福祉士の行動規範
10	相談援助実習スーパービジョンの理解	<ul style="list-style-type: none"> スーパービジョンの意味と機能 実習スーパービジョン関係の理解
11	実習計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> 実習目標と課題の設定 実習計画書の作成と提出 個別指導
12	実習先決定後の事前学習①	<ul style="list-style-type: none"> 実習先機関・施設、地域の理解
13	実習先決定後の事前学習②	<ul style="list-style-type: none"> 実習先機関・施設、地域の理解 社会資源エコマップの作成
14	実習先への事前訪問の意義	<ul style="list-style-type: none"> 実習先の様子把握 実習内容に関する共通認識づくり
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 実習直前の最終確認を行う

科目名	相談援助実習指導Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	島野 光正			
開講期	後期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談援助実習の意義や目的を理解することができ、養成校で学ぶ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるよう、また、実践的な技術等を体得できるようにする。 実習体験を通して、大学の講義で学んだソーシャルワークの価値・知識・技術がどのように現場実践で活かされているのかを振り返る。 <p>□</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験した相談援助実習からソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術がどのように現場実践で展開されているか抽出を行いながら振り返ります。 他の学生の実習体験も学びながら、それぞれ違う施設であっても共通の価値や技術を元に社会福祉士が業務を行っていることを学びます。 また実習体験を振り返りながら、あらためて実習計画を立て直し、職場・職種・ソーシャルワーク実習の三段階実習の形に組み立て直します。 上記を通じて社会福祉士としての必要な価値・知識・技術について体験的に理解することを目標にします。 <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力が習得できるようにする。 			
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談援助実習の意義や目的を理解することができ、養成校で学ぶ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるよう、また、実践的な技術等を体得できるようにする。 実習体験を通して、大学の講義で学んだソーシャルワークの価値・知識・技術がどのように現場実践で活かされているのかを振り返る。 <p>□</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験した相談援助実習からソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術がどのように現場実践で展開されているか抽出を行いながら振り返ります。 他の学生の実習体験も学びながら、それぞれ違う施設であっても共通の価値や技術を元に社会福祉士が業務を行っていることを学びます。 また実習体験を振り返りながら、あらためて実習計画を立て直し、職場・職種・ソーシャルワーク実習の三段階実習の形に組み立て直します。 上記を通じて社会福祉士としての必要な価値・知識・技術について体験的に理解することを目標にします。 <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力が習得できるようにする。 			
受講資格	人間生活学科福祉コース3年	成績評価 方法	出席状況とレポートによる100点	
教科書	「社会福祉士相談援助実習」 中央法規出版			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	自己の相談援助実習の振り返りがしっかりとできていること。			
オフィスタイム	月曜日 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉を学ぶにあたっての基本的な理解。 相談援助実習をめぐる諸課題 授業の進め方について
2	実習体験の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 学生による実習先の施設のプレゼンテーション 職場・職種・ソーシャルワーク実習について
3	実習体験の再確認1（職場実習）	<ul style="list-style-type: none"> 実習先分野毎に職場実習についての振り返りと発表 ワークシートの作成 〔キーワード〕 根拠法、施設基準、職員配置な、利用者理解、法人の理念等
4	実習体験の再確認2（職場実習）	<ul style="list-style-type: none"> 実習先分野毎に職場実習についての振り返りと発表 ワークシートの作成 〔キーワード〕 根拠法、施設基準、職員配置な、利用者理解、法人の理念等
5	実習体験の再確認3（職場実習）	<ul style="list-style-type: none"> 実習先分野毎に職場実習についての振り返りと発表 ワークシートの作成 〔キーワード〕 生活相談員、支援相談員等の業務について
6	実習体験の再確認4（職場実習）	<ul style="list-style-type: none"> 実習先分野毎に職種実習についての振り返りと発表 ワークシートの作成と意見交換 〔キーワード〕 生活相談員、支援相談員等の業務について
7	実習体験の再確認5（ソーシャルワーク実習）	<ul style="list-style-type: none"> 実習先分野毎にソーシャルワーク実習についての振り返りと発表 ワークシートの作成 〔キーワード〕 生活相談員、支援相談員等の業務とソーシャルワークについて
8	実習体験の再確認6（ソーシャルワーク実習）	<ul style="list-style-type: none"> 実習先分野毎にソーシャルワーク実習についての振り返りと発表 ワークシートの作成と意見交換 〔キーワード〕 生活相談員、支援相談員等の業務とソーシャルワークについて
9	施設虐待について1	<ul style="list-style-type: none"> 虐待について 施設における虐待の予防と取り組みについて
10	施設虐待について2	<ul style="list-style-type: none"> 実習先施設における虐待の予防と取り組みについて 事例から考える

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	実習計画の再構築 1	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士に求められる価値・知識・技術から再度実習計画を組み直す ・学べき内容とどのような体験を通じて学ぶことができるのかを組み立てる ・ワークシート
12	実習計画の再構築 2	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士に求められる価値・知識・技術から再度実習計画を組み直す ・学べき内容とどのような体験を通じて学ぶことができるのかを組み立てる ・ソーシャルワークを意識した実習プログラムの作成 ・ワークシート
13	実習計画の再構築 3	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士に求められる価値・知識・技術から再度実習計画を組み直す ・学べき内容とどのような体験を通じて学ぶことができるのかを組み立てる ・ソーシャルワークを意識した実習プログラムの作成 ・ワークシート
14	実習計画の再構築 4	<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画の発表と意見交換 ・発表を通じて様々な実習施設での実習体験の再確認を行う
15	・まとめ ・レポート課題 について	<ul style="list-style-type: none"> ・講義のまとめと振り返り ・レポート課題について説明

平成29年度

科目名	相談援助実習指導Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	菊地 達美		
開講期	前期		
授業概要	相談援助実習における積極性と福祉サービスを利用する人の背景を感じ取り理解と共感をもつ体験を得ると共に情報の整理や実習の準備、実習計画の作成、記録のあり方などを体験する。		
達成目標	相談援助実習における積極性と福祉サービスを利用する人の背景を感じ取り理解と共感をもつ体験を得ると共に情報の整理や実習の準備、実習計画の作成、記録のあり方などを体験する。		
受講資格	人間生活学科 4年	成績評価 方法	実習計画書の作成100点
教科書	社会福祉士シリーズ		
参考書	22相談援助演習・相談援助実習指導		
学生への要望	PCを使用し実習計画書の作成		
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義	相談援助実習の意義について
2	講義	相談援助実習までの計画
3	演習	職場・職種実習のための準備
4	演習	実習目標の立て方
5	演習	実習目標の立て方
6	演習	実習計画の内容設定
7	演習	実習計画の内容設定
8	演習	実習計画の内容設定
9	演習	実習記録の意味と必要性
10	演習	実習記録の意味と必要性
11	演習	実習におけるスーパービジョンとその活用
12	演習	実習におけるスーパービジョンとその活用
13	演習	実習自己評価
14	演習	実習他者評価
15	演習	実習報告書の作成

平成29年度

科目名	相談援助実習Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現場体験を通して、社会福祉専門職として仕事をする上で必要な「専門技術」、「専門援助技術」、「関連内容」の理解を深める ・社会福祉援助に必要な資質・能力・技術を習得する。 <p>本科目は、熊田伸子、添田祐司の2名で担当し、週に1回の巡回指導を行う。</p> <p>相談援助実習Ⅰは、1日8時間とし、相談援助実習Ⅱと合わせ、8日間継続して行う。 実習期間中は、1週間に1度以上、巡回教員が巡回指導を実施する。</p>		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の役割や機能が理解できている。 ・実習施設の利用者の特徴が理解できている。 ・実習施設の職種について理解できている。 		
受講資格	人間生活学科福祉コース 社会福祉士課程履修者	成績評価 方法	相談援助実習Ⅱとあわせ、8日間（64時間）の実習を遅刻、早退なしに行うこと 実習施設の評価80% 巡回時の面接による理解度、実習日誌の記載 20%
教科書	社会福祉士 相談援助実習 社団法人 日本社会福祉士養成校協会 中央法規		
参考書	特になし		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・実習には明確な目的を持って臨むこと ・十分な事前学習の上で実習に臨むこと 		
オフィスタイム	月曜日4時限、金曜日3時限 創学館4階 No.6研究室		
自学自習	<p>予習：当日の反省に基づき、翌日の実習目標を確認する。 翌日の実習内容について、キーワード等を調べておく。（1時間）</p> <p>復習：日誌をまとめる。実習指導者への質問内容をまとめる。（1時間）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・実習前指導
2	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・事業・機関の目的と機能を理解する ・生活相談員の仕事内容についての講義
3	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設・事業・機関の概要を理解する ・利用者とのコミュニケーション
4	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の概況を把握する ・ショートステイ送迎の同行
5	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の職種、役割を理解する ・多職種連携について学ぶ
6	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、関係施設などとの連携や関連施設見学などを行う
7	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習計画書の現場での再検討と具体的な内容を考える
8	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・現場が抱えている課題や方向性、実習生としての課題意識を深める
9	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・現場が抱えている課題や方向性、実習生としての課題意識を深める
10	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回教員の助言及びスーパービジョンを受ける
11	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査への同行訪問
12	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアカンファレンスへの同席
13	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に関連する法制度について学ぶ
14	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への働きかけの取り組みについて説明を受ける
15	現場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習課題に関する振り返り

平成29年度

科目名	相談援助実習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	後期		
授業概要	・現場体験を通して社会福祉専門職として仕事をする上で必要な「専門技術」「専門援助技術」「関連内容」の理解を深める 本科目は、社会福祉施設での現場実習である。1日8時間の実習時間とし、相談援助実習Ⅰと併せ、8日間を継続して行う。熊田伸子、添田祐司が担当し、実習中に巡回指導を行う		
達成目標	・実習施設・実習機関における社会福祉士の役割を理解する		
受講資格	社会福祉士課程履修者	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・実習日誌20%
教科書	社団法人日本社会福祉士養成校協会 社会福祉士 相談援助実習		
参考書	なし		
学生への要望	・実習課題が達成できるように、積極的な態度で臨んでください		
オフィスタイム	月曜日の4時限、金曜日の1時限		
自学自習	予習：翌日の実習目標を達成するため、キーワード等について調べ、ノートにまとめておく（1時間） 復習：指導いただいた内容を日誌にまとめる（1時間）		

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	現場実習	現場の生活相談員による業務の説明
2	現場実習	業務内容の観察、同席、同行により、生活相談員の役割を学ぶ
3	現場実習	利用者や家族との援助関係の形成について学ぶ
4	現場実習	現場におけるチームアプローチのあり方を学ぶ
5	現場実習	多職種連携について具体的事例より学ぶ
6	現場実習	事例検討会・ケースカンファレンス等に同席させていただき、関連する専門職の役割や業務内容について学ぶ
7	現場実習	利用者へのアセスメントの方法について学ぶ
8	現場実習	利用者のニーズキャッチ
9	現場実習	実地調査に同行し、相談員の役割を学ぶ
10	現場実習	他機関との連携の在り方を学ぶ
11	事後指導	実習報告書の作成
12	事後指導	実習報告書の作成
13	事後指導	実習報告会
14	事後指導	実習報告会
15	事後指導	実習の反省と振り返り 日誌のまとめ

平成29年度

科目名	相談援助実習Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	<p>現場におけるソーシャルワーカーの役割を個別支援計画の作成、・スーパービジョン・情報公開・第三者 評価・苦情処理・危機管理・運営管理・関連職種との関係の中で体験的に理解する</p> <p>相談援助実習Ⅲは、1日8時間で15日間の学外実習を行う。 同一施設で120時間以上の実習を行うことにより、社会福祉士国家試験の受験資格の要件を満たすことになる。</p>		
達成目標	<p>実習施設・機関における社会福祉士の役割が説明できる。 ソーシャルワーカーの専門知識、専門技術が身についている。</p>		
受講資格	相談援助実習Ⅰ・Ⅱ修了者	成績評価 方法	15日間の実習（64時間）を遅刻・欠席・早退なしに行う 実習施設の評価80% 巡回時の目的達成度の確認20%
教科書	<p>社会福祉士 相談援助実習 社団法人日本社会福祉士養成校協会 中央法規</p>		
参考書	特になし		
学生への要望	実習計画を明確にして、実習に臨むこと		
オフィスタイム	月曜日の3時限目、金曜日3時限目		
自学自習	<p>予習：実習体験でわからない語句の意味や制度等に内容を調べる。（1時間） 復習：指導いただいた内容を含め、実習日誌にまとめる。（1時間）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	現場実習	・ソーシャルワーカーの機能・役割を理解する
2	現場実習	・多職種連携について、具体的な事例により学ぶ
3	現場実習	・苦情処理、情報公開、第三者評価、危機管理、運営管理（アドミニストレーション）などを学ぶ
4	現場実習	・利用者やその関係者と援助関係を作る能力を体得する
5	現場実習	・利用者やその関係者の問題解決能力を高めるように援助する能力を修得する
6	現場実習	・福祉専門職としての職業倫理、施設・事業・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を修得する
7	現場実習	・実習先がコミュニティへの機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を修得する
8	現場実習	・実習で得た課題、問題点などを整理する
9	現場実習	・実習全体の総括を行う
10	現場実習	・反省会を通し、今後のためのスーパービジョン・指導・助言を受ける
11	現場実習	・実習記録をまとめる ・実習総括レポートをまとめる準備をする
12	現場実習	・福祉専門職のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める
13	現場実習	・今後の自分の課題を見つける
14	現場実習	・報告書の作成と提出
15	現場実習	・実習報告会、事後指導

科目名	介護の基本 I	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 4単位 必修
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	介護の歴史や介護問題の背景を理解し、介護を必要とする人の理解を深めるとともに、尊厳ある生活を支援する専門職として基本となる考え方を学ぶ		
達成目標	介護を必要とする方々の生活環境、身体状況の把握から、自立に向けた介護について理解し、介護を提供する際の基本的視点を学ぶ ①介護の専門職として、介護福祉士が果たすべき役割として尊厳のある生活支援がどの程度理解できたか。 ②介護を必要としている人（高齢者・障害者）をどの程度理解できたか。 ③ICFの考え方、ICFの視点に基づく利用者のアセスメントができるようになったか。		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	筆記試験 70% 課題30%
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護の基本 I」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護を展開する際の基本となる理論であることを理解し、積極的に身に付けられるように自学・自習に励むこと。		
オフィスタイム	・水曜日 I 時限 ・木曜日 I 時限 創学館4階 No.1 研究室		
自学自習	予習：当日のシラバスの内容を確認し、テキストを読んで不明な点を明らかにしてください。また、専門用語については調べておいて下さい。(1時間) 復習：授業の内容やテキスト・プリント等で当日のまとめをしておいてください。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	介護を取り巻く状況	①介護の歴史 ②介護問題及び介護が社会化されてきた背景
2	介護を取り巻く状況	①介護の歴史 ②介護問題及び介護が社会化されてきた背景
3	尊厳を支える介護	①QOLの考え方 ②ノーマライゼーションの考え方
4	尊厳を支える介護	①QOLの考え方 ②ノーマライゼーションの考え方
5	尊厳を支える介護	①利用者主体の考え方 ②利用者主体の介護の実現
6	尊厳を支える介護	①利用者主体の考え方 ②利用者主体の介護の実現
7	自立に向けた介護	①自立・自律の考え方 ②自己決定・自己選択についての考え方
8	自立に向けた介護	①自立・自律の考え方 ②自己決定・自己選択についての考え方
9	自立に向けた介護	①自立支援の考え方 ②自立支援の具体的展開 ③生活意欲への働きかけ ④エンパワーメント
10	自立に向けた介護	①自立支援の考え方 ②自立支援の具体的展開 ③生活意欲への働きかけ ④エンパワーメント
11	自立に向けた介護	①個別ケアの考え方 ②個別ケアの具体的展開
12	自立に向けた介護	①個別ケアの考え方 ②個別ケアの具体的展開
13	自立に向けた介護	ICFの考え方、ICFの視点に基づく利用者のアセスメント
14	自立に向けた介護	ICFの考え方、ICFの視点に基づく利用者のアセスメント
15	中間まとめ	尊厳を支える介護、自立に向けた介護の総括
16	介護を必要とする人の理解	人間の多様性、複雑性の理解…その人らしさの理解（生活史、価値観、生活習慣、他）
17	介護を必要とする人の理解	人間の多様性、複雑性の理解…その人らしさの理解（生活史、価値観、生活習慣、他）
18	介護を必要とする人の理解	高齢者の暮らし…健康、生活リズム、生活文化、家族、世帯構成
19	介護を必要とする人の理解	高齢者の暮らし…健康、生活リズム、生活文化、家族、世帯構成
20	介護を必要とする人の理解	高齢者の暮らし…役割、住まいと環境、就労、雇用、収入、生計
21	介護を必要とする人の理解	高齢者の暮らし…役割、住まいと環境、就労、雇用、収入、生計
22	介護を必要とする人の理解	高齢者の暮らし…社会活動、余暇活動、レクリエーション
23	介護を必要とする人の理解	高齢者の暮らし…社会活動、余暇活動、レクリエーション
24	介護を必要とする人の理解	障害のある人の暮らしの実際…障害のある人の生活ニーズ
25	介護を必要とする人の理解	障害のある人の暮らしの実際…生活を支える基盤（各種年金制度、生活保護、介護保険）
26	介護を必要とする人の理解	障害のある人の暮らしの実際…生活を支える基盤（各種年金制度、生活保護、介護保険）
27	介護を必要とする人の理解	障害のある人の暮らしの実際…生活を支えるサービスの現状と課題

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	介護を必要とする人の理解	介護を必要とする人の生活環境の理解…生活、生活環境の考え方
29	介護を必要とする人の理解	介護を必要とする人の生活環境の理解…家族、地域、社会
30	介護の基本 I (まとめ)	介護を必要とする人の理解について補足および介護の基本 I の総括

平成29年度

科目名	介護の基本Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	介護福祉士誕生の社会的背景や社会福祉士及び介護福祉士法の定義を学び専門職としての役割を理解する。介護を必要とする人への理解を深め、介護福祉士として他職種との協働やケアマネジメントの流れやしぐみを学ぶ。また、介護保険のサービスの種類や報酬についても理解を深める。			
達成目標	国家資格である介護福祉士の理解、さらに介護福祉士の働く場と介護実践における多職種連携を学ぶ ①介護福祉士を取り巻く状況や背景を通して、介護福祉士の担う社会的役割が理解できたか。 ②介護保険のサービスの種類と特性について理解できたか。 ③介護福祉士の業務を行うにあたって、多職種連携、地域連携の必要性について理解できたか。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	定期試験70% 課題レポート30%	
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	介護の一つひとつの行為には、根拠があります。行為が行われる意義を常に認識してください。			
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階 No.1研究室			
自学自習	予習：当日のシラバスの内容を確認し、テキストを読んで不明な点を明らかにしてください。また、専門用語については調べておいて下さい。(1時間) 復習：授業の内容やテキスト・プリント等で当日のまとめをしておいてください。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	介護の基本Ⅱ概略説明 評価方法の説明
2	介護福祉士を取り巻く状況	介護問題の背景と介護福祉士制度
3	介護福祉士を取り巻く状況	求められる介護福祉士像
4	社会福祉士及び介護福祉士法①	社会福祉士及び介護福祉士法
5	社会福祉士及び介護福祉士法②	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定
6	介護における専門職脳団体の活動①	専門職脳団体がもつ役割
7	介護における専門職脳団体の活動②	専門職脳団体としての日本介護福祉士会
8	介護サービスの特性①	介護サービスの意味と特性
9	介護サービスの特性②	ケアマネジメントの意味としぐみ
10	介護サービスの特性③	介護サービスの歴史の変遷と時代背景
11	介護サービスの特性④	介護サービスの種類と提供の場
12	介護とリハビリテーション	介護実践におけるリハビリテーションの考え方
13	介護とリハビリテーション	日常生活と社会生活能力の維持・拡大への支援
14	介護とリハビリテーション	リハビリテーション専門職との連携
15	前期まとめ	前期授業の補足と総括
16	介護サービスの提供の場の特性①	高齢者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性
17	介護サービスの提供の場の特性②	高齢者に対する入所系サービスの提供の場とその特性
18	介護サービス提供の場の特性③	障害者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性
19	介護サービス提供の場の特性④	障害者に対する入所系サービスの提供の場とその特性
20	介護サービス提供の場の特性⑤	介護福祉士の働く場 入所施設における介護
21	多職種連携①	多職種連携の意義と目的
22	多職種連携②	協働職種の理解と連携の在り方
23	多職種連携③	利用者を取り巻く多職種連携の実際
24	多職種連携④	体調がすぐれない利用者のための連携 利用者お生活活性化を目指した連携
25	地域連携①	地域連携の意義と目的
26	地域連携②	地域連携にかかわる機関の理解
27	地域連携③	利用者を取り巻く地域連携の実際
28	地域連携④	身近なサービスや機関の所在地
29	地域連携⑤	Mさんの事例でみる介護福祉士の活躍の場
30	介護の基本Ⅱ (まとめ)	後期授業の補足と介護の基本Ⅱの総括

平成29年度

科目名	介護の基本Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	利用者、またその家族の「生活の安全」を実現・確保するための基盤となる理論の理解をする。また介護従事者の安全に関する理念や理論・知識を学ぶ。			
達成目標	介護における安全の確保とリスクマネジメント実践と、介護に携わる人の健康管理を理解する。さらに、生活支援技術、介護過程、介護総合演習、介護実習等に役立てられるようにする。 ①介護におけるリスクマネジメントの考え方を基に、安全の確保と感染症対策の実践について理解できたか。 ②介護従事者の職業倫理と利用者の人権との関係について理解できたか。 ③介護を行う人自身の健康を守るため、こころと体の両面から健康管理に必要な知識と技術について理解できたか。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	定期試験70%、課題のレポート30%	
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	授業での学びをもとに、学生自身の「介護観」を構築できるようにする。			
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階 No.1研究室			
自学自習	予習：当日のシラバスの内容を確認し、テキストを読んで不明な点を明らかにしてください。また、専門用語については調べておいて下さい。(1時間) 復習：授業の内容やテキスト・プリント等で当日のまとめをしておいてください。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護における安全の確保 リスクマネジメント
2	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護における安全の確保 観察、正確な技術、予測、分析
3	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止 安全対策 リスクマネジメントのしくみ
4	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止 安全対策 事故発生時の対応
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止 安全対策 事故後の対応
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止 安全対策 リスクと対策
7	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止 安全対策 誤薬の回避
8	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止 安全対策 防火、防災対策、生活の安全
9	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止 安全対策 転倒への対応
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止 安全対策 転倒予防
11	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染対策 感染予防の意義と目的
12	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染対策 高齢者介護施設と感染対策
13	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染対策 感染予防の基礎知識①
14	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染対策 感染予防の基礎知識②
15	前期のまとめ	前期授業の補足と確認
16	介護従事者の倫理	職業倫理 ・介護従事者の倫理
17	介護従事者の倫理	職業倫理 ・介護従事者の倫理
18	介護従事者の倫理	職業倫理 ・介護実践の場で求められる倫理
19	介護従事者の倫理	職業倫理 ・介護実践の場で求められる倫理

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
20	介護従事者の倫理	職業倫理 ・利用者の人権と介護 身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐待、その他
21	介護従事者の倫理	職業倫理 ・利用者の人権と介護 身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐待、その他
22	介護従事者の倫理	職業倫理 ・利用者の人権と介護 身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐待、その他
23	介護従事者の倫理	職業倫理 ・利用者の人権と介護 身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐待、その他
24	介護従事者の倫理	職業倫理 プライバシーの保護（個人情報保護）
25	介護従事者の倫理	職業倫理 プライバシーの保護（個人情報保護）
26	介護従事者の倫理	介護従事者の倫理まとめ
27	介護従事者の安全	介護従事者の心身の健康管理 こころの健康管理（ストレス、燃え尽き症候群）
28	介護従事者の安全	介護従事者の心身の健康管理 こころの健康管理（ストレス、燃え尽き症候群）
29	介護従事者の安全	介護従事者の心身の健康管理 体の健康管理、感染予防と対策、腰痛予防と対策、労働安全
30	介護の基本Ⅲ（まとめ）	後期授業の補足と介護の基本Ⅲの総括

科目名	コミュニケーション技術A		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	後期			
授業概要	介護現場が必要とされるより良い人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解することにより、コミュニケーションの基本から介護者に求められる実践的技能的修得を目指します。介護福祉士としての対人援助のためのコミュニケーションを、理論と実践を結びつけて学びます。			
達成目標	介護職は、利用者を理解して信頼関係を形成し、利用者家族や他職種との協働・連携をおこなって行きます。それらをのスムーズな遂行のために、3つの目標を掲げます。 ①他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 ②円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。 ③的確な記録・記述の方法を身につける。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	期末試験または期末レポート (75%) 受講態度、発表内容、レポート (25%) 欠席が多い場合の減点あり	
教科書	「コミュニケーション技術」中央法規			
参考書	「介護スタッフのための声かけ表現集」凡人社 「介護応対事例集」日経研など			
学生への要望	この授業では、理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきます。学生は、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使して、グループワークやディスカッションに積極的に参加・発言してください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅱ限、木曜日Ⅰ限。臨床心理学研究室。			
自学自習	事前学習：テキストを読み、キーワードを調べる。参考文献の関連箇所を読んでおく。 事後学習：授業で出てきたキーワード（重要な概念や専門用語）はノートを確認して必ず覚えておくこと。不明な用語は調べてノートに記しておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ
2	介護現場におけるコミュニケーションの意義と役割	介護は対人援助であり、人を人として尊重し、寄り添う心（利用者に心から関心を持ち理解しようとする優しい気持ち）を持って、利用者より良い人間関係を築くことが大切。高齢者など社会的弱者に対するコミュニケーションの意義と役割を考える。
3	実践コミュニケーション (1)・挨拶と声かけ	コミュニケーションの第一歩でありながら、意外と難しいのが挨拶と声かけです。介護施設の利用者は「自分の介護の担当者がどんな人物なのか」と不安と緊張の中で初対面を迎えます。利用者の気持ちをほぐし、その後の信頼関係を築くためにも、心のこもった「あいさつ」「自己紹介」は大切です。好印象を与える「あいさつ」や「自己紹介」の仕方を考えます。
4	実践コミュニケーション (2)・傾聴と共感	相手に寄り添い、相手の立場に立って理解するためには、共感的なスタンスで相手の話を丸ごと受け止める技能が必要です。共感とは何か。受け止めたことをフィードバックするためにはどうしたらよいか、などについて、一般的な対人関係における基本的な理論と技能を学びます。
5	実践コミュニケーション (3)・言語表現と非言語表現	言葉を使うコミュニケーションだけでなく、人は色々な方法で意思を伝えています。表情、声、しぐさ、目の合わせ方、ジェスチャー、沈黙・・・それぞれの意味について考え、相手を理解する方法を学びます。
6	実践コミュニケーション (4)・敬語の基本、介護現場の敬語の使い方	「面倒をみてやる、何々してやる」「子ども扱い、さげすむ」といった情緒的・心理的に影響を及ぼす人権侵害や、広い意味での虐待を防止するために、介護の現場では「利用者への接遇、言葉づかい」について学びます。利用者は人生の先輩であることを理解し、敬う気持ちで高齢者にふさわしい接し方をするための敬語の使い方を習得しましょう。
7	実践コミュニケーション (5)・分かりやすい表現方法	相手が理解しやすい話し方を学びます。利用者の身体機能や理解力を把握し、こちらの意図がよくわかるように伝えるには、どのような工夫が必要かを考えます。また、相手の話を聴くことは、相手の体験や価値観、思いなどのすべてに思いを寄せ、理解することにつながり、人間的信頼関係が生まれます。
8	介護のコミュニケーション・ケーススタディ (1)・基本の声かけ	具体的なケースを使って、利用者への声かけを学びます。喜ばれる表現と嫌がられる表現。難しい言葉と優しい言葉。相手の目線から見える世界。移動や食事、着替えなどのシチュエーションを想定し、適切な声かけを訓練します。
9	介護のコミュニケーション・ケーススタディ (2)・身体機能や感覚機能の低下と対応	障害を持つ利用者への理解と適切な対応について学びます。日常の場面（食事、着替え、移動）で、身体機能や感覚機能の低下、認知機能の障害をもつケースに模擬演習を行ってみましょう。
10	介護のコミュニケーション・ケーススタディ (2)・精神障害・知的・認知障害への対応	障害を持つ利用者への理解と適切な対応について学びます。精神障害や発達障害の特徴と基本的知識、対応の際に注意すべき点について学修します。短い表現、繰り返しの表現、注意のしかた、褒めること、励ますこと、自尊心を支えることなどについて考えます。
11	介護のコミュニケーション・ケーススタディ (3)・居宅介護の対応	居宅の利用者について、その介護過程に沿ったコミュニケーションのあり方を学びます。問題の発見、アセスメント、家族との面談、ニーズの把握、支援計画とフィードバックなどについて。
12	介護のコミュニケーション・ケーススタディ (4)・不安や心配事への対応	利用者の気持ちを理解することは、適切なコミュニケーションにとって最も大切なことです。認知症や精神障害を抱える利用者も、不安や心配があれば心を悩ませ、解決しようとするのは健康な人と同じです。悩みを理解し、不安を受け止め、その人が落ち着いた生活に戻れるようにするために、どのように対応するかを考えます。
13	介護のコミュニケーション・(5)記録の取り方	介護現場における文書の重要性、機能、役割について学びます。インテークと面談、問題の発見、解決のプロセスと記録、会議用資料の作成、適切な伝達のための文章の書き方などを学修します。
14	介護のコミュニケーション (6)会議・他業種との連携、報告・連絡・相談の記録	介護の現場には様々な専門職がいます。また、施設や家族の外にも医療や役所、支援団体などの関係機関が連携して利用者を支えています。利用者や利用者の家族、多職種協働におけるチームのコミュニケーション能力を身につけ、必要な情報を適切に提供するための知識や技能を学びます。
15	まとめと補足	ケース・スタディの掘り下げや、総合問題の練習、補足説明、まとめを行います。

科目名	コミュニケーション技術B		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	佐藤 邦子, 加藤 三保子, 鎌倉 乃ぞみ			
開講期	前期			
授業概要	<p><点字> 視覚障害者の文字である「点字」の基礎を習得する。 視覚障害者の状況について理解する。</p> <p><手話> 聴覚障害者のくらしや歴史・特性を学び、日常生活に必要な手話表現技術を習得し、手話でコミュニケーションする楽しさを体験する。 介護を必要とする聴覚障害者にあつたコミュニケーション方法を学ぶ。</p>			
達成目標	<p><点字> 視覚障害者の文字である「点字」の基礎を習得する。 視覚障害者の状況について理解する。</p> <p><手話> 聴覚障害者のくらしや歴史・特性を学び、日常生活に必要な手話表現技術を習得し、手話でコミュニケーションする楽しさを体験する。 介護を必要とする聴覚障害者にあつたコミュニケーション方法を学ぶ。</p>			
受講資格	人間生活学科福祉コース4年生	成績評価 方法	<点字・手話> 実技及び試験で評価します 学期末テスト：90点 授業中の態度：10点	
教科書	<p><点字> 「初めての点訳第2版」</p> <p><手話> 聴覚・言語障害者とのコミュニケーションろう者との対話のために</p>			
参考書	<点字・手話> 特に指定しない			
学生への要望	<p><点字> 休まずに出席し、点字に関心を持ってほしい</p> <p><手話> 積極的な学習意欲 私語厳禁</p>			
オフィスタイム	<p><点字>木曜日 授業終了後</p> <p><手話>水曜日 授業終了後</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	<点字>視覚障害者の状況、点字の歴史と概要<手話>自己紹介、ビデオ	<点字> 授業の進め方、概要について話します 視覚障害の状況と点字の概要について話します <手話> 自分の名前を覚えて会話する。あいさつの手話を覚える。 「私の大切な家族」感想文を書く <見る力、まねる力、ゲーム>
2	<点字>点字の仮名違い<手話>第1、第2講座	<点字> 点字の仮名違いについて説明と実技を行います <手話> 会話（あいさつ） 「聴覚障害」とは <伝言ゲーム>
3	<点字>数字・アルファベット<手話>第3講座	<点字> 点字の数字・アルファベットの仕組みについて説明し、実技を行います <手話> 会話（数字を使って） 「コミュニケーション方法」について <口形ゲーム>
4	<点字>分かち書き<手話>第4講座	<点字> 点字の文の仕組みや書き方について説明し、実技を行います <手話> 会話（名前、場所） 「手話」とは <名前組み合わせゲーム>
5	<点字>分かち書き<手話>第5講座	<点字> 前回に引き続き、点字の文の仕組みについて学びます <手話> 会話（疑問詞を使って） 「ろう者のくらし」仕事/医療/地域生活

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	<点字>点字の文を読む、 点字で文を書く<手話>第 6講座	<点字> 点字で文を書く練習をします また、実際の点字表示を読んでもみます <手話> 会話（時の流れ） 「ろう教育」について <指文字ゲーム>
7	<点字>まとめ<手話>第 7講座	<点字> まとめと試験に向けて確認を行います <手話> 会話（季節） 「制度、施設」について スピーチの内容を考える
8	<手話>第8、第9講座	<手話> 手話劇や歌にチャレンジ スピーチの練習
9	<手話>まとめ	<手話> スピーチ発表、手話の読み取り、筆記 劇や歌の発表

科目名	生活支援技術A		
担当教員	廣野 正子, 茂木 光代		
開講期	前期		
授業概要	生活支援とはなにかを理解し、生活での「動く」ことは生きることの基本であり、暮らしを支えるために不可欠な移動や移乗の動きを支援する技術を具体的に学ぶ。また、食事は生活の満足度に大きな影響を与えることを理解し、利用者の健康維持、楽しみを支える支援に関する技術を身につける。		
	<授業担当者> 第1回~第8回 : 廣野担当 第9回~第15回 : 茂木担当		
達成目標	「移動」「食事」における生活支援技術の根拠性と、知識・技術の基礎から応用まで学び、現場での実践で活用できる能力を身につける。また、利用者の心身状態を理解し、どのような状態であっても尊厳と自律・自立を考慮した、個別に対応できる能力を修得する。 ①「移動」の意義と目的について理解し、基本的な「移動」介助の技術をどの程度、修得できたか。 ②「食事」の意義と目的について理解し、基本的な「食事」介助の技術をどの程度、修得できたか。 ③「身体機能低下」「嚥下障害」など、利用者の状態に合わせた援助のし方についてどの程度、理解できたか。		
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価方法	実技試験80%、レポート20% (欠席・授業態度で減点あり)
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
参考書	授業の中で、随時紹介		
学生への要望	自学・自習に励み技術については確実に身につけ、介護実習で実践できるようにしておくこと。		
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階No.1研究室		
自学自習	予習：当日のシラバスの内容を確認し、テキストを読んで不明な点を明らかにしてください。また、専門用語については調べておいて下さい。(1時間) 復習：授業での演習を基に、技術の根拠になる理論を整理しておく。(1時間) <input type="checkbox"/>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	①授業概要の説明及び留意点
2	ガイダンス・生活の理解と生活支援の考え方	②「生活支援技術」を学ぶことの意義について。
3	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護について学ぶ。また、移動の介護は、日常生活を送る上で必要不可欠な基本動作を支えることであり、利用者の日常生活の継続に直結した支援であることを学ぶ。
4	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護	移動の意義と目的、自立支援を支える移動の介護について学ぶ。また、移動の介護は、日常生活を送る上で必要不可欠な基本動作を支えることであり、利用者の日常生活の継続に直結した支援であることを学ぶ。
5	自立に向けた移動の介護	体位変換…状態像として、自立度が高い利用者、一部介助が必要な利用者、全介助を必要とする利用者を例に、基本的介護技術と応用技術について学ぶ。
6	自立に向けた移動の介護	体位変換…状態像として、自立度が高い利用者、一部介助が必要な利用者、全介助を必要とする利用者を例に、基本的介護技術と応用技術について学ぶ。
7	自立に向けた移動の介護	①安楽な体位について ②褥瘡の予防について ③安楽な体位の保持におけるアセスメント視点 ④自立に向けた「移動」に関する道具・用具等の福祉機器について ⑤安楽な体位保持の介護技術について学ぶ。
8	自立に向けた移動の介護	①安楽な体位について ②褥瘡の予防について ③安楽な体位の保持におけるアセスメント視点 ④自立に向けた「移動」に関する道具・用具等の福祉機器について ⑤安楽な体位保持の介護技術について学ぶ。
9	自立に向けた移動の介護	車いすでの移動…①車いすの基本構造 ②車いす介助におけるアセスメントの視点 ③介助の実際として…●ベッドから車いすへの介助法 ●車いすからベッドへの介助法 ●車いす介助法(段差越え、階段の昇降、エレベーター)④道具・用具など、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。
10	自立に向けた移動の介護	車いすでの移動…①車いすの基本構造 ②車いす介助におけるアセスメントの視点 ③介助の実際として…●ベッドから車いすへの介助法 ●車いすからベッドへの介助法 ●車いす介助法(段差越え、階段の昇降、エレベーター)④道具・用具など、車いす移動に関する福祉機器について学ぶ。
11	自立に向けた移動の介護	歩行介助…①安全な歩行介助について ②介助の実際として、平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度が高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③道具・用具など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。
12	自立に向けた移動の介護	歩行介助…①安全な歩行介助について ②介助の実際として、平地歩行介助、段差越え、階段の昇降、などについて自立度が高い人、一部介助の必要な人、全介助の必要な人について ③道具・用具など、歩行に関する福祉機器について学ぶ。
13	自立に向けた移動の介護	①感覚機能低下(視覚、聴覚、等)に配慮した移動の介護について学ぶ。
14	自立に向けた移動の介護	②運動機能低下(肢体不自由者、等)に配慮した移動の介護について学ぶ。
15	移動の介護(まとめ)	移動、介護技術に関する授業の補足及び、確認
16	移動の介護(まとめ)	移動、介護技術に関する授業の補足及び、確認
17	食事に関する介護の役割	介護を必要とする人の食事の意義と介護者の役割について学ぶ。
18	食事に関する介護の役割	介護を必要とする人の食事の意義と介護者の役割について学ぶ。
19	自立に向けた食事の介護	「食事」のアセスメント : ICFの視点から利用者の全体像をアセスメントし、適切な食事介助の技法を考え、実践できる。
20	自立に向けた食事の介護	「食事」のアセスメント : ICFの視点から利用者の全体像をアセスメントし、適切な食事介助の技法を考え、実践できる。
21	自立に向けた食事の介護	食事摂取の基本的な知識 : ①栄養状態 ②食行為のメカニズム ③美味しく食べるとは。
22	自立に向けた食事の介護	食事摂取の基本的な知識 : ①栄養状態 ②食行為のメカニズム ③美味しく食べるとは。
23	自立に向けた食事の介護	安全な食事介助の技法
24	自立に向けた食事の介護	誤嚥の予防と対応

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	自立に向けた食事の介護	①運動機能が低下している人の食事介助
26	自立に向けた食事の介護	②視覚障害者の食事介助
27	自立に向けた食事の介護	①認知症高齢者の食事介助
28	自立に向けた食事の介護	②口腔ケア
29	食事の介護（まとめ）	食事、介護技術に関する補足および確認
30	食事の介護（まとめ）	食事、介護技術に関する補足および確認

科目名	生活支援技術B		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	【授業の目的・ねらい】 ①生活空間としての「住まい」の意義・目的を理解し、安全で自立を考慮した住み心地のよい居住環境整備について学ぶ。 ②身じたくの意義・目的を理解するとともに、利用者の状態や状況に応じて安全で自立・自律を尊重した、満足の得られる身じたくの介護について学ぶ。 ③介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 【授業担当者】 担当：藤田 【履修カルテの評価項目】 ①「居住環境」「身じたく」に関する意義・目的をどの程度理解できたか ②安全で自立に向けた、また個人を尊重した「環境整備」「身じたく」の介護がどの程度理解でき、実践できたか ③安全で住み心地よい生活の場づくりのための工夫ができたか			
達成目標	【到達目標】 ①「居住環境」「身じたく」に関する意義・目的を理解できる ②要介護者の状況をICFの視点からアセスメントでき、要介護者が、どのような状況にあっても、安全で自立に向けた個人を尊重した介護が実践できる ③介護福祉士国家試験に必要な知識の習得			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験(筆記・実技)90%、レポート10% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 プリント配布			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと			
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室			
自学自習	予習：当日の内容をテキストで確認しておく(1時間) 復習：実技については自主的に練習すること(30分) 講義についてはテキストとプリントで復習すること(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・自立に向けた身じたくの介護	身じたく(整容、口腔ケアを含む)を整えることの意義と目的について学ぶ。 衣類・寝具の管理について学ぶ。
2	自立に向けた身じたくの介護	衣類・寝具の管理について学ぶ。
3	自立に向けた身じたくの介護	ICFの視点に基づく身じたくに関する利用者のアセスメントの仕方について学ぶ。
4	自立に向けた身じたくの介護	整容の介助におけるアセスメントの視点について学ぶ。(洗面・整髪・髭の手入れ・爪の手入れ・点眼・南港塗)
5	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの意義及び目的について学ぶ。
6	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアにおけるアセスメントの視点について学ぶ。
7	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの基本について学ぶ。：①ブラッシング法 ②口腔清拭法 ③含嗽法 ④義歯の清掃法
8	自立に向けた身じたくの介護	口腔ケアの介助の実際について学ぶ
9	自立に向けた身じたくの介護	障がいのある人の口腔ケアの実際について学ぶ。(片麻痺・認知症) 口腔リハビリテーションについて学ぶ 口腔ケアに用いる福祉用具について学ぶ
10	自立に向けた身じたくの介護	障がいのある人の口腔ケアの実際について学ぶ。(片麻痺・認知症) 口腔リハビリテーションについて学ぶ 口腔ケアに用いる福祉用具について学ぶ
11	自立に向けた身じたくの介護	衣服着脱の意義・目的について学ぶ 衣服の種類と選択について学ぶ
12	自立に向けた身じたくの介護	衣服の着脱介助の実際(和式、前あき二部式、かぶり式)
13	自立に向けた身じたくの介護	実技テスト(和式、前あき二部式、かぶり式) 身じたくに関して、国家試験過去問題を中心に、身じたくの要点について復習する
14	自立に向けた身じたくの介護	身じたくに関する他職種との連携について学ぶ 身じたくに関して、国家試験過去問題を中心に、身じたくの要点について復習する
15	自立に向けた居住環境の整備	居住環境整備の意義と目的について学ぶ
16	自立に向けた居住環境の整備	居住環境整備の意義と目的について学ぶ
17	自立に向けた居住環境の整備	生活空間と介護の視点から人間の暮らしの歴史を振り返る・個人ワーク
18	自立に向けた居住環境の整備	生活空間と介護の視点から人間の暮らしの歴史を振り返る・個人ワーク
19	自立に向けた居住環境の整備	生活空間における生活の行動を理解する 生活空間と介護をふまえて高齢者の行動の特性を理解する 生活空間と介護をふまえて障がい者の行動の特性を理解する
20	自立に向けた居住環境の整備	生活空間における生活の行動を理解する 生活空間と介護をふまえて高齢者の行動の特性を理解する 生活空間と介護をふまえて障がい者の行動の特性を理解する
21	自立に向けた居住環境の整備	ICFの視点に基づく利用者の居住環境のアセスメントについて学ぶ
22	自立に向けた居住環境の整備	ICFの視点に基づく利用者の居住環境のアセスメントについて学ぶ
23	自立に向けた居住環境の整備	安全で心地よい生活の場づくり(光・音・熱などの環境、福祉的室内環境)
24	自立に向けた居住環境の整備	安全で心地よい生活の場づくり(光・音・熱などの環境、福祉的室内環境)
25	自立に向けた居住環境の整備	安全で心地よい生活の場づくり(プライバシー・交流の促進・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・ユニットケ)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
26	自立に向けた居住環境の整備	環境整備の一つとして、シーツ交換の実際を学ぶ
27	自立に向けた居住環境の整備	実技テスト（シーツ交換）
28	自立に向けた居住環境の整備	居住環境に関して、国家試験過去問題を中心に、居住環境の要点について復習する。
29	総括	これまでの授業内容の補足
30	総括	これまでの授業内容の確認

科目名	生活支援技術C		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子, 廣野 正子			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①「入浴・清潔保持」「排泄」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。 また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助法について学ぶ。 ②介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〈授業担当〉 第1回～第16回：藤田担当 第17回～第30回：廣野担当			
達成目標	〔授業終了時の到達目標〕 ①「入浴・清潔保持」「排泄」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。 また、個人のプライバシーを守り、利用者の尊厳を守る援助法について学ぶ。 ②介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する。 【履修カルテの評価項目】 ①「入浴・清潔保持」「排泄」の意義・目的を理解した上で、基本的な介護技術がどの程度理解できたか。 ②利用者の状態や状況に応じた介助がどの程度実践できるか。 ③安全に配慮するとともに、プライバシーを確保し、人間としての尊厳を重視した介護の実践がどの程度できたか。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験（筆記・実技）100% 出席・授業態度で減点あり	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で取り組むこと 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	廣野：創学館No.1 研究室 水曜日 I・II限 藤田：本館1階保健室 月・水曜日 IV限			
自学自習	予習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 復習：講義テキストと配布プリントで復習すること（1時間） 実技については自主的に練習すること（30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・排泄の意義と目的	①授業内容に関する説明。 ②排泄の意義・目的 ③排泄のメカニズム
2	排泄の意義と目的	①自立に向けた排泄介助について学ぶ。
3	自立に向けた排泄の介護	ICFの視点から、排泄介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。
4	自立に向けた排泄の介護	ICFの視点から、排泄介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学び、アセスメントシートを作成する。
5	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。
6	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。
7	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、①トイレ介助、②ポータブルトイレ介助、③尿器・便器の介助の仕方について学ぶ。実技テスト
8	自立に向けた排泄の介護	(1) 安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。
9	自立に向けた排泄の介護	(2) 安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。
10	自立に向けた排泄の介護	安全・安楽・基本的な排泄介助の技法として、オムツの介助について学ぶ。実技テスト
11	自立に向けた排泄の介護	介助を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。
12	自立に向けた排泄の介護	介助を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。
13	自立に向けた排泄の介護	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。
14	自立に向けた排泄の介護	尿失禁について学ぶとともに、尿失禁時の適切な援助法について学ぶ。
15	補足	「排泄」に関する授業の補足
16	補足及び確認	「排泄」に関する授業の補足及び確認
17	清潔保持の意義と目的	清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。 ICFの視点から、入浴介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。
18	清潔保持の意義と目的	清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。 ICFの視点から、入浴介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。
19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくり、介護上の工夫について学ぶ。
20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくり、介護上の工夫について学ぶ。
21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。
22	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として、①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。
24	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として、①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。
25	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として、①全身清拭、②陰部洗浄について学ぶ。
26	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として、①全身清拭、②陰部洗浄について学ぶ。
27	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として、部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。
28	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として、部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。
29	総括	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認
30	総括	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認

平成29年度

科目名	生活支援技術D		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	<p>睡眠のしくみを理解したうえで、介護を必要としている人の生活に目を向け、睡眠障害を軽減し、安眠を図るための援助について学びます。さらに、終末期ケアについて理解し、死を見つめながらも生きている人の日々を意味あるものにするために介護職としてどのような役割があるかについて考察します。</p> <p>【授業担当者】 1回～7回 : 廣野担当 8回～15回 : 藤田担当</p>			
達成目標	<p>睡眠・終末期の介護において利用者の状況のアセスメント、実践、応用へと実践力を身につける。 終末期の介護では家族への配慮ができ、看取りを厳粛に受け止める生活支援技術を身につける。 緊急時における対応法を身につける。</p> <p>①終末期ケアの意義と介護の役割がどの程度、理解できたか ②終末期における心身状態のアセスメントがどの程度理解できたか ③睡眠障害の原因と睡眠における介護の役割についてどの程度理解できたか ④緊急時における対応がどの程度理解できたか</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	試験80%、レポート20% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	中央法規出版 「生活支援技術」			
参考書	授業の中で随時、紹介			
学生への要望	介護の実践の場面において、理論と技術を統合して行為が行えるように積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階No.1研究室			
自学自習	<p>予習：当日のシラバスの内容を確認し、テキストを読んで技術の実践的なイメージトレーニングなどを行い、不明な点を明らかにしてください。また、専門用語については調べておいて下さい。(1時間) 復習：授業の内容やテキスト・プリント等で当日のまとめをしおいてください。(1時間)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	睡眠時の介護	睡眠における介護の意義と目的について学ぶ。
2	睡眠時の介護	睡眠におけるアセスメントの視点について学ぶ。
3	睡眠時の介護	睡眠の介護—不眠の原因と対応のし方について学ぶ。
4	睡眠時の介護	睡眠と薬の関連について学ぶ。
5	睡眠時の介護	安眠が得られるための環境づくりと、ベッドメイキングについて学ぶ
6	睡眠時の介護	睡眠の介護に関して、国家試験過去問題を中心に睡眠介護の要点について復習する。
7	睡眠時の介護 (まとめ)	これまでの授業内容に関する補足と確認。
8	終末期の介護	終末期とは。 終末期ケアの意義と目的、終末期における介護の役割について学ぶ。
9	終末期の介護	終末期におけるアセスメント—終末期における心身状態の観察のポイントと、把握のし方について学ぶ。
10	終末期の介護	・終末期における介護技術—QOLを高める身体生活活動について学ぶ。 ・終末期における介護技術—利用者と家族の心理とサポートについて学ぶ。
11	終末期の介護	・延命治療に対するホスピスケアについて学ぶ。 ・在宅ターミナルケアの多職種との連携について学ぶ。
12	終末期の介護	終末期の介護に関して、国家試験過去問題を中心に、終末期介護の要点について復習する。
13	緊急時の介護	高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を学ぶ。 (・外傷 ・骨折 ・誤嚥 ・やけど ・呼吸困難) 緊急時における連携について学ぶ。
14	緊急時の介護	応急処置の実際について学ぶ。(・外傷 ・骨折 ・誤嚥 ・やけど ・呼吸困難) 一次救命処置の手順について学ぶ。(心肺蘇生法・AED)
15	終末期の介護 (まとめ)	これまでの授業内容に関する補足と確認。

平成29年度

科目名	介護過程Ⅰ		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	熊田 伸子, 藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開ができる思考能力を身につける。 第1回～第8回 熊田 第9回～第15回 藤田			
達成目標	介護過程の意義が理解できている。 アセスメントの方法が理解できている。 介護計画の立案、実施、評価の流れが理解できている。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	筆記試験70%、課題30% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	新・介護福祉士養成講座9『介護過程』 中央法規			
参考書	特になし			
学生への要望	実習を行う上でも重要な科目なので、介護過程の展開の基本的視点を確実に修得してください。			
オフィスタイム	月曜日 4時限目 金曜日 3時限目 創学館4階 No.6研究室			
自学自習	予習：翌週のテキストの範囲を知らせるので、予め読んでおき、演習に対応できるよう理解しておく。 (1時間) 復習：授業で終わらない課題を仕上げる。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・年間授業計画について説明する ・介護過程の展開とは
2	介護過程の意義と目的①	・生活支援の考え方と介護過程の必要性
3	介護過程の意義と目的②	・展開の基本視点
4	介護過程の理解	・根拠に基づく介護過程の展開
5	アセスメントと介護計画	・アセスメントとは
6	アセスメントの方法①	・介護過程におけるアセスメントの重要性
7	アセスメントの方法②	・アセスメントツールの活用
8	アセスメントの方法③	・介護過程の中の事実の捉え方
9	アセスメントの方法④	・情報の解釈と分析
10	アセスメントの方法⑤	・課題の明確化
11	アセスメントの方法⑥	・アセスメントの実際（事例から）
12	介護計画の立案	・目標設定の方法
13	介護計画の実施	・実施の際の留意点
14	介護計画の評価	・評価の目的・内容
15	まとめ	・これまでの授業内容のまとめを行う。

平成29年度

科目名	介護過程Ⅱ		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉 コース 1年 1単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	後期			
授業概要	介護過程の展開方法の理解をもとに、実習の体験を踏まえ個別の生活支援のあり方を考えることができる。 (授業担当者) 第1回～8回：熊田担当 第9回～15回：廣野担当			
達成目標	介護実習Ⅰ-2で介護過程の各様式に情報を整理して記載できるようにする。さらにアセスメント力を身につける。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	筆記試験70%、課題30% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成テキスト 「介護過程」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	介護実習Ⅰ-2に向けて、介護過程の展開方法を確実に実践できるように理解してください。			
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階No.1研究室			
自学自習	予習：当日のシラバスの内容を確認し、テキストを読んでおいてください。演習問題がある場合は、チャレンジしてみてください。(1時間) 復習：授業の内容やテキスト・プリント等で当日のまとめをしておいてください。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	介護過程の基本確認	介護過程の展開に関して、基本的事項の再確認
2	ケアプランの実施	支援内容・方法の設定:事例をもとに、支援内容・方法の設定を行う
3	ケアプランの実施	実施内容の把握:実施のための留意点について学ぶ。また、事例をもとに利用者の反応や状況の変化、チームによる情報の共有について学ぶ
4	ケアプランの実施	記録:①介護における記録の意義 ②介護記録を書く目的 ③介護過程に必要な記録 ④記録を書く時の留意点、等、について事例をもとに学ぶ
5	ケアプランの評価	計画の修正と検討:①介護過程における評価の意義 ②評価を行うために把握すべきこと ③評価の方法について事例をもとに学ぶ
6	再アセスメントの留意点	再アセスメントの留意点について学ぶ。事例をもとに再アセスメントを行い、課題を明確にする。
7	アセスメントツール	アセスメントツールとしてのICFの考え方を学ぶ
8	アセスメントツール	事例をもとに、ICFの視点から利用者のニーズを捉える
9	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表1の項目意義
10	介護過程の展開	フェイスシート、アセスメント表1への記載
11	介護過程の展開	アセスメントシート表2の項目意義と記載
12	介護過程の展開	個別援助計画書・実施評価表の意義と記載
13	介護過程の展開	事例を基に、フェイスシート、アセスメント表1に記載
14	介護過程の展開	事例を基に、アセスメント表2、個別援助計画書の記載
15	介護過程の展開	事例を基に、個別援助計画書の発表。実施評価表記載の留意点

平成29年度

科目名	介護過程Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子, 熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	介護実習Ⅰ－Ⅱでの介護過程の展開を基に、フェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成とパワーポイントにまとめ発表する。			
達成目標	「人間の尊厳と自立」、「こころとからだのしくみ」が介護過程にどのように活かされているかについて事例から学ぶ。また、介護過程の展開事例から適切な評価ができるための視点を身につける。			
受講資格	人間生活学科 介護福祉士課程履修者	成績評価 方法	課題演習70% 発表30%	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護過程」			
参考書	授業の中で、随時紹介			
学生への要望	自学・自習に励み発表では疑問、質問に対しての応答と他者の発表には積極的に質問を発言できるようにする。□			
オフィスタイム	水曜日 1時限・木曜日 1時限 創学館4階No.1研究室 □			
自学自習	予習：事例の情報の整理をする。また、専門用語については調べておいて下さい。(1時間) 復習：授業での発表での質疑を確認し、新たな情報の整理をする。(1時間) □			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・介護過程の実践的展開	①授業の概要について説明
2	ガイダンス・介護過程の実践的展開	②介護実習での介護過程実践事例からの情報整理
3	介護過程の展開①	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成
4	介護過程の展開①	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成
5	介護過程の展開②	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成
6	介護過程の展開②	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成
7	介護過程の展開③	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成
8	介護過程の展開③	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成
9	発表①	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
10	発表①	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
11	発表②	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
12	発表②	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
13	発表③	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
14	発表③	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
15	発表④	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
16	発表④	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
17	発表⑤	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
18	発表⑤	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション
19	介護過程の評価①	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う
20	介護過程の評価①	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う
21	介護過程の評価②	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う
22	介護過程の評価②	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う
23	介護過程の評価③	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う
24	介護過程の評価③	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う
25	最終発表①	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッション
26	最終発表①	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッションをする。
27	最終発表②	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッションをする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	最終発表②	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッションをする。
29	介護過程Ⅲ（まとめ）	介護過程の展開についての実践的な理解度を確認する
30	介護過程Ⅲ（まとめ）	介護過程の展開についての実践的な理解度を確認する

平成29年度

科目名	介護過程Ⅳ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉 コース 2年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子, 廣野 正子			
開講期	前期			
授業概要	介護実習Ⅱで実践した介護過程の視点から、チームアプローチの重要性を理解する。			
達成目標	事例に基づいて、さまざまな利用者の生活と介護過程の展開方法が理解できている。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	課題70%、試験30% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	中央法規出版 介護福祉士養成講座テキスト 「介護過程」			
参考書	特になし			
学生への要望	介護過程の授業の総まとめとして、介護実習Ⅱの介護過程レポートを確実にまとめてください。			
オフィスタイム	熊田 月曜日4時限目、金曜日3時限目 創学館4階 No.6研究室 廣野 創学館4階 No.1研究室			
自学自習	予習：毎時間の課題を確認し、資料を整理する。(30分) 復習：授業で取り組んでいるパワーポイント作成の確認・補足等を行う。(30分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。
2	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。
3	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。
4	アセスメントの実際	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。 ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。
5	発表①	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。
6	発表②	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。
7	発表③	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。
8	発表④	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。
9	発表⑤	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。
10	発表⑥	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。 ・発表内容についてディスカッションを行う。
11	グループワーク	・2つのグループに分かれ、発表内容の検討を行う。
12	グループワーク	・2つのグループに分かれ、発表内容を修正し、仕上げる。
13	発表	・2事例を発表してもらい、介護を学ぶ学生の研究交流会での発表テーマを決定する。
14	発表内容のまとめ	介護を学ぶ学生の研究交流会での発表内容を仕上げる。
15	まとめ	・介護過程の展開についてまとめの解説を行う。

平成29年度

科目名	介護総合演習 I		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 1単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉 コース 1年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	前期			
授業概要	介護実習 I-1 の教育効果を上げるため、実習に必要な知識・技術の具体的な方法を学ぶ。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の学生の持つ関心や疑問・不安などに焦点をあて、自信を持って実習に臨めるようになる。 ・ 様々な生活ニーズを持った利用者に対し、多様なサービス提供の場で実践できるよう応用力を養う。 			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	筆記試験70%、課題30% (欠席、授業態度で減点あり)	
教科書	新介護福祉士養成講座10『介護総合演習』 中央法規			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	・ 自信を持って実習に臨めるように、場面に応じたスキルを確実に身につけること。			
オフィスタイム	・ 水曜日 I 時限 ・ 木曜日 I 時限 創学館 4 階 No.1 研究室			
自学自習	予習：当日のシラバスの内容を確認し、テキストを読んで不明な点を明らかにしてください。また、専門用語については調べておいて下さい。(1時間) 復習：授業での演習を基に、実践の根拠になる理論を整理しておく。(1時間) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	実習の意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護実習の意義と目的を理解する。 ・ 介護実習に臨むにあたり、目標をもつことの大切さを理解する。 ・ 介護実習では、個別ケアの視点をもつことを理解する。 ・ 「実習前→実習中→実習後」という介護実習の流れと、それぞれの時期における学習のポイントを理解する。
2	多様なニーズと介護サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習施設や事業の概要について理解する。
3	施設の理解①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別養護老人ホームのサービス内容や利用者像などを理解する。 ・ 特別養護老人ホームの援助の視点を理解する。 ・ 特別養護老人ホームの実習で学ぶべきポイントを理解する。
4	施設の理解②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護老人保健施設のサービス内容や利用者像を理解する。 ・ 介護老人保健施設の援助の視点を理解する。 ・ 介護老人保健施設の実習で学ぶべきポイントを理解する。
5	施設の理解③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通所介護・グループホームのサービス内容や利用者像を理解する。 ・ 通所介護・グループホームの援助の視点を理解する。 ・ 通所介護・グループホームの実習で学ぶべきポイントを理解する。
6	介護福祉士の職業倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉士としての専門職に求められる福祉の理念と職業倫理について理解する。
7	実習生としての基本的態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習に関わるコミュニケーションの方法 ・ 実習生としてのマナー、接遇
8	記録の方法①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記録の意義と目的 ・ 観察記録の方法
9	記録の方法②	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロセスレコードの説明と活用法
10	記録の方法③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習関連の記録の書き方 ・ 実習記録を書く時の注意点
11	個人票	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習生個人票についての説明と作成
12	実習計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習計画書についての説明と作成
13	実習前オリエンテーション①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習施設の確認 ・ 実習についての心構え、注意点の確認 ・ 実習施設への礼状の書き方
14	実習前オリエンテーション②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習施設職員による講義 ・ 先輩による体験談 ・ 質疑応答
15	実習前オリエンテーション③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習目標の発表 ・ 実習への動機付け

平成29年度

科目名	介護総合演習Ⅱ		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 1単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉 コース 1年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	後期			
授業概要	介護実習Ⅰ-2の教育効果を上げるため、実習に必要な知識・技術の具体的な方法を学ぶ。 〈授業担当者〉 第1、2回：熊田・廣野が担当 第3、4、5、6、13、14回：熊田担当 第7、8、9、10、11、12、15回：廣野担当			
達成目標	①実習施設の役割と機能、施設利用者とその家族の生活ニーズを理解できる。 ②利用者・家族のニーズに対する介護福祉士の役割と自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解できる。 ③授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための学習課題を明確化できる。			
受講資格	介護福祉士課程履修者	成績評価 方法	試験70%、課題30% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	新・介護福祉士養成講座10 『介護総合演習・介護実習』 その他、随時プリントを配布する			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	実習の実践に必要な知識や、実習生としてのマナーを修得してほしい。			
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階 No.1研究室			
自学自習	予習：当日のシラバスの内容を確認し、配布資料や関連するテキストなどを確認し、不明な点を明らかにしておいてください。（1時間） 復習：授業の内容や演習での目的などを整理して、介護実習の実践の際に理解しやすいようにまとめておいてください。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	介護実習Ⅰ-1	・介護実習報告会 ・介護実習の自己評価
2	介護実習Ⅰ-1	・介護実習施設の評価 ・介護実習関係書類の整理
3	介護実習Ⅰ-2の展開①	・介護実習Ⅰ-2が始まるまでの流れと事前学習の内容を理解する。 ・実習Ⅰ-2のねらい
4	介護実習Ⅰ-2の展開②	・介護実習Ⅰ-2の実習施設について調べ、レポートにまとめる。
5	介護実習Ⅰ-2の展開③	・介護実習Ⅰ-1からの課題を明らかにし、自己目標を明確にする。
6	介護実習Ⅰ-2の展開④	・介護実習Ⅰ-2の実習計画を作成する。
7	事前学習の内容と方法①	・実習記録や日誌のまとめ方を学ぶ。
8	事前学習の内容と方法②	・介護実習Ⅰ-2日誌、介護過程の展開レポート ・プロセスレコードの説明
9	事前学習の内容と方法③	・プロセスレコードの実際と活用法
10	演習①	・食事場面における介護技術の展開 ・整容場面における介護技術の展開 ・入浴場面における介護技術の展開
11	演習②	・排泄場面における介護技術の展開 ・認知症の人への介護技術の展開
12	演習③	・テキスト「こんな場面に遭遇したら」を参考に、演習を行う。
13	事前訪問	・実習先の概況、事前訪問について必要事項をまとめる。
14	実習前オリエンテーション	・実習にあたり、最終確認を行う
15	介護総合演習Ⅱの総括	・授業の補足と総括

科目名	介護総合演習Ⅲ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子, 熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	介護実習Ⅰ-1、Ⅰ-2を通して体験した、様々な利用者に対する介護技術、多様なサービス形態の意義を整理し、介護実習Ⅱに向けて統合していく。 【授業担当者】 第1回～5回、第13回：熊田担当 第6回～12回：廣野担当 第14回～15回：熊田・廣野担当			
達成目標	これまでの実習体験を包括的に考察し、体系的に理解する中で自己の課題を明確化する。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース 介護福祉士課程履修者	成績評価 方法	筆記試験40%、課題60% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	新・介護福祉士養成講座「介護総合演習」 介護福祉士養成講座編集委員会			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	・介護実習Ⅰ-2の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、介護実習Ⅱに向けた自身の課題を明確にもってほしい。			
オフィスタイム	・水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 創学館4階 No.1研究室			
自学自習	予習：当日のシラパスの内容を確認し、テキストを読んで不明な点を明らかにしてください。また、専門用語については調べておいて下さい。(1時間) 復習：授業での演習を基に、実践の根拠になる理論を整理しておく。(1時間) □ □ □			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	介護実習Ⅱのねらい	・介護実習Ⅱのねらいを理解する ・介護実習Ⅱのモデル(目的や目標など)を具体的にイメージする
2	介護実習Ⅱの施設	実習先の施設種別の特徴を理解する
3	実習モデル(1)介護技術の実践を軸にした介護実習	・目標① 利用者の状態を観察することができる 目標② 利用者の生活の不自由さを理解することができる 目標③ 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる 目標④ 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる 目標⑤ 実習モデルと関連する他科目の学習内容
4	実習モデル(2)家族、近隣、地域にも目を向ける介護実習	・目標① 利用者を取り巻く家族や近隣との関係に注目できる 目標② 利用者を取り巻く社会の支援体制が理解できる 演習を通して、地域の現実とそこで生活するために必要な支援体制を理解する
5	実習前準備	個別の実習目標を作成する
6	実習前に行う演習①	・食事場面における介護技術の展開 ・整容場面における介護技術の展開 ・入浴場面における介護技術の展開
7	実習前に行う演習②	・排泄場面における介護技術の展開 ・認知症の人への介護技術の展開
8	グループディスカッション	・利用者理解・自己理解の演習
9	グループディスカッション②	・利用者理解・自己理解の演習まとめ
10	記録の確認①	・実習日誌の書き方 体験から考察までの記入方法
11	記録の確認②	・自分の収集した情報の整理の仕方を学ぶ
12	個別ケアとチームケア	・個別ケアとチームケアのありか方について学ぶ ・個別ケアにおける介護過程の重要性について学ぶ
13	演習課題による全体のまとめ	・総合的な演習の目的と目標 ・介護実習Ⅱの目的達成度の評価
14	実習報告	実習の進捗状況を報告
15	実習報告	課題、記録等について個別指導

平成29年度

科目名	介護総合演習Ⅳ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	後期			
授業概要	<p>これまでの介護実習を振り返り、介護とはなにかを考察し介護観を考える。</p> <p>【授業担当】 第2、3回：熊田、廣野担当 第5～9、15回：熊田担当 第1、4、10～14回：廣野担当</p>			
達成目標	<p>1. 介護実習Ⅰで学んだ介護福祉士としての知識・技術の確認 2. 介護実習Ⅱに基づき、介護福祉士の専門性や、介護福祉士として現場に出るにあたっての振り返りや課題を明らかにする。</p>			
受講資格	人間生活学科 福祉コース 介護福祉士課程履修者	成績評価 方法	筆記試験40%、課題60% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 中央法規			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	実習のみならず、これまで学内・学外で学んできた介護福祉に関する学びのまとめとして取り組んでほしい。			
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階No.1研究室			
自学自習	<p>予習：当日のシラバスの内容を確認し、配布資料や関連するテキストなどを確認し、不明な点を明らかにしておいてください。（1時間） 復習：授業での課題を整理し、介護観の構築に役立てる。（1時間）</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	介護実習Ⅱ振り返り①	・介護日誌等の書類整理 ・介護実習の自己評価
2	介護実習Ⅱ振り返り②	・介護実習Ⅱの報告会
3	介護実習Ⅱ振り返り③	・介護実習施設の評価
4	介護実習Ⅱ振り返り④	・プロセスレコードの発表とディスカッション
5	困難事例①	・実習中に体験した困難事例について考察し、ケアのあり方を学ぶ
6	困難事例②	・実習中に体験した困難事例について考察し、ケアのあり方を学ぶ
7	困難事例③	・実習中に体験した困難事例について考察し、ケアのあり方を学ぶ
8	社会生活拡大（参加）への支援技術－協働・連携－	・実習中に多職種と連携ができたか、同時にケアチームの一員としての役割が担えたかを振り返る
9	社会生活拡大（参加）への支援技術－利用者の理解－	・利用者本人はどんな生活を望んでいるのか、家族はどう思っているのか、問題や課題に気づきそれらを解決していくために必要な視点
10	介護観①	・介護観とはなにか
11	介護観②	・介護観の紹介
12	介護観③	・自身の介護観を構築する
13	介護観④	・自身の介護観を構築する
14	介護観⑤	・自身の介護観を発表する
15	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	これまでの授業の補足と総括

平成29年度

科目名	介護実習Ⅰ-1	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	廣野 正子		
開講期	前期		
授業概要	介護を必要とする個人を理解するため、多様な施設での実習を通じ、利用者や家族とのコミュニケーションを実践し、利用者の状況に応じた適切な生活支援技術を学ぶ 介護実習Ⅰ-1は福祉施設での実習となる 実習時間の構成は、1日8時間で11日間、計88時間となる		
達成目標	①学内で学んだ講義、演習からのコミュニケーション技術の実践にて利用者との関わりを深める。 ②利用者が求めている介護の需要に関する理解力、判断力を養う。 ③利用者に応じた食事介助等の生活支援技術を身につける。		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・実習日誌20%
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習		
参考書	実習施設からの提示される資料		
学生への要望	各自の目標を明確にして、実習の臨んでほしい		
オフィスタイム	・水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 創学館4階 No.1研修室		
自学自習	予習：当日の予定を確認し、準備する物や実践内容について不明な点を明らかにしてください。また、実習目標を作成して下さい。（1時間） 復習：本日の目標について振り返り、さらに実習を通して学んだことを実習日誌に記載してください。（1時間） <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	現場実習	オリエンテーション ①
2	現場実習	オリエンテーション②
3	現場実習	オリエンテーション③
4	現場実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する①
5	現場実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する②
6	現場実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する③
7	現場実習	利用者の生活の場である多様な介護現場を理解する④
8	現場実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践①
9	現場実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践②
10	現場実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践③
11	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①
12	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②
13	現場実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察①
14	現場実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察②
15	現場実習	利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの考察③
16	現場実習	生活支援技術の確認①
17	現場実習	生活支援技術の確認②
18	現場実習	生活支援技術の確認③
19	現場実習	生活支援技術の実践①
20	現場実習	生活支援技術の実践②
21	現場実習	生活支援技術の実践③
22	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③
23	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④
24	現場実習	多職種協働の実践①
25	現場実習	多職種協働の実践②
26	現場実習	多職種協働の実践③
27	現場実習	多職種協働の実践④
28	現場実習	実習反省会および振り返り①
29	現場実習	実習反省会および振り返り②
30	現場実習	実習反省会および振り返り③

平成29年度

科目名	介護実習Ⅰ-2		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉 コース 1年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	後期			
授業概要	個別ケアの実施に必要な介護を理解し、多様な施設での多職種協働や連携を通じ、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 介護実習Ⅰ-2は福祉施設での実習となる 実習時間の構成は、1日8時間で23日間、計184時間となる □			
達成目標	・日常生活援助に関する介護技術能力を深めると同時に、各種の介護を助ける住設備機器や福祉用具の知識と活用能力を養う。□			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%	
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習			
参考書	実習施設で配布される資料□			
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい			
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階 No.1研修室			
自学自習	予習：当日の予定を確認し、準備する物や実践内容について不明な点を明らかにしてください。また、実習目標を作成して下さい。 (1時間) 復習：本日の目標について振り返り、さらに実習を通して学んだことを実習日誌に記載してください。(1時間) □ □ □ □			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	現場実習	オリエンテーション①
2	現場実習	オリエンテーション②
3	現場実習	オリエンテーション③
4	現場実習	生活支援技術の実践① 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ
5	現場実習	生活支援技術の実践② 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ
6	現場実習	生活支援技術の実践③ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ
7	現場実習	生活支援技術の実践④ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ
8	現場実習	生活支援技術の実践⑤ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ
9	現場実習	生活支援技術の実践⑥ 介護の実践のための、基本的な生活支援技術を学ぶ
10	現場実習	多職種との連携を学ぶ① 生活相談員、介護援専門員、介護職との連携の実際
11	現場実習	多職種との連携を学ぶ② 医師、看護師、介護職との連携の実際
12	現場実習	多職種との連携を学ぶ③ 栄養士、調理師、介護職との連携の実際
13	現場実習	多職種との連携を学ぶ④ 理学療法士、作業療法士、介護職との連携の実際
14	現場実習	多職種との連携を学ぶ⑤ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の 考察
15	現場実習	多職種との連携を学ぶ⑥ 生活相談員、医師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、介護職との連携の 考察
16	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①
17	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②
18	現場実習	生活支援技術の実践⑦ 基本的な生活支援技術を実践
19	現場実習	生活支援技術の実践⑧ 基本的な生活支援技術を実践
20	現場実習	生活支援技術の実践⑨ 基本的な生活支援技術を実践

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
21	現場実習	生活支援技術の実践⑩ 基本的な生活支援技術を実践
22	現場実習	生活支援技術の実践⑪ 基本的な生活支援技術を実践
23	現場実習	生活支援技術の実践⑫ 基本的な生活支援技術を実践
24	現場実習	介護過程の実践① フェースシート関係の情報収集
25	現場実習	介護過程の実践② フェースシート関係の情報収集
26	現場実習	介護過程の実践③ フェースシート関係の情報収集
27	現場実習	介護過程の実践④ フェースシート関係の情報整理
28	現場実習	介護過程の実践⑤ フェースシート関係の情報整理
29	現場実習	介護過程の実践⑥ アセスメント表 1 関係の情報収集
30	現場実習	介護過程の実践⑦ アセスメント表 1 関係の情報収集
31	現場実習	介護過程の実践⑧ アセスメント表 1 関係の情報収集
32	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③
33	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④
34	現場実習	介護過程の実践⑨ アセスメント表 1 関係の情報収集
35	現場実習	介護過程の実践⑩ アセスメント表 1 関係の情報収集
36	現場実習	介護過程の実践⑪ アセスメント表 1 関係の情報収集
37	現場実習	介護過程の実践⑫ アセスメント表 1 関係の情報収集
38	現場実習	介護過程の実践⑬ アセスメント表 1 関係の情報収集
39	現場実習	介護過程の実践⑭ アセスメント表 1 関係の情報整理
40	現場実習	介護過程の実践⑮ アセスメント表 1 関係の情報整理
41	現場実習	介護過程の実践⑯ アセスメント表 1 関係の情報整理
42	現場実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ
43	現場実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ
44	現場実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ
45	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤
46	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥
47	現場実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ
48	現場実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ
49	現場実習	生活支援技術の実践 利用者の状況を理解し、必要に応じた介護のあり方を学ぶ
50	現場実習	介護過程の実践⑰ アセスメント表 2 の情報整理
51	現場実習	介護過程の実践⑱ アセスメント表 2 の情報整理
52	現場実習	介護過程の実践⑲ アセスメント表 2 の情報整理
53	現場実習	介護過程の実践⑳ アセスメント表 2 の情報整理
54	現場実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成
55	現場実習	介護過程の実践 個別援助計画書の作成
56	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
57	現場実習	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧
58	現場実習	行事、レクリエーションに参加し、企画・実施・評価の過程を学ぶ。可能であれば、企画し、実施する
59	現場実習	生活支援技術の実践 施設のカンファレンス等に参加し、介護をする上で必要な多職種の役割を学ぶことで、生活支援のチームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ
60	現場実習	実習反省会および振り返り

平成29年度

科目名	老化の理解	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	坂野 史明		
開講期	前期		
授業概要	成長・発達の観点から老化を理解し、老人に関する心理や身体機能の変化とその特徴に関する基本的知識を解説する。		
達成目標	老化の定義と共通原則について理解する。 老化に伴う生体の生理的变化について理解する。 高齢者の健康と生活の質（QOL）について理解する。		
受講資格	家政学部 人間生活学科 福祉コース 必修	成績評価 方法	小テスト（50%）および課題（50%）の総合評価
教科書	なし		
参考書	シェパード老年学（ロイ・J. シェパード 著、大修館書店）・発達と老化の理解（長谷川和夫他 編著、建帛社）		
学生への要望	実際に高齢者や障害のある方々に接することを念頭に置いて受講して下さい。		
オフィスタイム	水曜日のI限およびII限、その他適宜対応します。 No. 1栄養学研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容を参考書等で確認しておくこと（1時間） 事後学習：ノートのまとめと復習（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	人間の成長と発達（1）	発達の理解
2	人間の成長と発達（2）	発達の各段階の課題
3	老年期の発達と成熟	老年期の定義、老年期の発達課題
4	老化とは何か	老化の定義と共通原則、老化の事実、老化の学説
5	老化による心身の変化	感覚・知覚の変化と日常生活への影響
6	老化による心身の変化	認知機能の変化と日常生活への影響
7	老化による心身の変化	知的機能の変化と日常生活への影響
8	老年期の人格	人格とは、老年期の人格変容と関連要因
9	老年期の人間関係（1）	高齢者を取り巻く人々との関係
10	老年期の人間関係（2）	高齢者の人間関係の理解
11	高齢者と健康（1）	高齢者の健康と留意点
12	高齢者と健康（2）	高齢者に多い症状と留意点
13	高齢者と健康（3）	高齢者に多い疾患と留意点
14	高齢者と健康（4）	高齢者の検査の意義と結果の解釈
15	まとめ	全体のまとめと復習

平成29年度

科目名	老人の心理	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	影山 彌		
開講期	後期		
授業概要	人間の成長と発達の見点から老化を理解し、老化に関する心理の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する。		
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ①老化による知能の変化について理解できたか ②老化による記憶の変化について理解できたか ③高齢者が老衰をいかに生きるか、時間をいかに生きるかについて理解できたか		
受講資格	家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年	成績評価 方法	受講態度（20%）、レポートあるいはテスト（80%）
教科書	介護福祉士養成講座「老人・障害者の心理」		
参考書	介護福祉士養成講座「老人・障害者の心理」		
学生への要望	授業目標を毎回確認すること。 事前学修：当日の内容を配付資料で確認しておくこと（1時間） 事後学修：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめをする（1時間）		
オフィスタイム	金曜日を除く昼休み（12:00～12:50） 創学館4階No.2研究室		
自学自習	予習：当日の内容を配付資料で確認しておくこと（1時間） 復習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめをする（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	発達の定義	発達は胎児期から老年期までの発達を含む「生涯発達」であることを理解する。
2	発達段階とその特徴	主な発達段階説と各発達段階の特徴を理解する。
3	発達課題	各発達段階特有の発達課題を理解する。
4	老化の定義	老化は誕生や成長や死と同じく人生の当初よりその中に内在しているものであることを理解する。
5	老化による心理の変化と日常生活（1）	結晶性知能と流動性知能、高齢者の知能の特徴—低下するか、維持されるか、高齢者の知能の回復可能性、高齢者の知能と日常生活、高齢者の知能と健康の関係、などを理解する。
6	老化による心理の変化と日常生活（2）	記憶の仕組、記憶の種類、記憶力に対する年齢の影響、高齢者の記憶力と日常生活、記憶力の低下をカバーする方法、などを理解する。
7	老年期における心の変化と日常生活（1）	老年期における健康への不安、子どもの自立や配偶者や友人の死などによる喪失感、悲哀、孤独感、などをとらえ、そうした感情が高齢者の日常生活とどのように関係するかを理解する。
8	老年期における心の変化と日常生活（2）	老年期における社会的地位と役割の喪失感、退職による経済的不安、自己の価値低下の感情、退屈、などをとらえ、そうした感情が高齢者の日常生活とどのように関係するかを理解する。
9	公的年金制度	高齢者の経済的不安に応える支柱である、公的年金制度の仕組について理解する。
10	老年期の発達課題	多様な発達課題に直面する中で、老年期を喪失感としてだけでなく、自己の再建期としてとらえ、新たな価値形成と成熟の過程であることを理解する。
11	加齢に伴う成熟の特徴	高齢者にみられる十分な知的能力、知的発達としての英知、芸術その他の分野にみられる高齢者の創造性、獨創性、円熟した高齢者の人格、などについて理解する。
12	高齢者の人格特徴と適応	高齢者の様々な人格特徴をとらえるとともに、そうした人格特徴が適応とどのように関係するかについて理解する。
13	高齢者の人格と尊厳の尊重	高齢者のそれぞれの人格の尊厳性を深くとらえ、そのことをケアの基本とすることを理解する。
14	老いを生きる（1）	老衰が、それに対する高齢者の態度によって、その速度と範囲、それが人生の総体に及ぼす影響などが変化しうることを理解する。 （1）楽観的態度 （2）遺恨の感情 （3）諦めの態度 （4）不屈の態度
15	老いを生きる（2）	高齢者が過去、現在、未来という時間とどのようにかわり、どのように受け止め、それぞれのなかでどのように生きるか、高齢者の生の内面について理解する。

平成29年度

科目名	認知症の理解A		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症の人が置かれている現状について理解する。 ②認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらにより引き起こされる日常生活への影響について理解する ③認知症の人を正しく理解し、適切な支援のあり方について学ぶ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>認知症を取り巻く社会的な問題について理解する。また、認知症を引き起こす代表的な疾患を理解する。認知症の症状と生活面への影響を理解し、適切な支援のあり方を考察できる知識と技術を学ぶ</p>			
達成目標	<p>授業終了時の到達目標</p> <p>①認知症の原因疾患と生活上の影響を理解する ②認知症が引き起こす症状とその背景について理解する ③認知症の人に対するより良い対応のし方を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕</p> <p>①認知症の原因疾患をどの程度理解できたか ②認知症が引き起こす症状（中核症状とBPSD）をどの程度理解できたか ③認知症の人に対する適切な支援のあり方をどの程度理解できたか</p>			
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験70%、小テスト10% レポート20% 欠席・授業態度で減点有り	
教科書	中央法規出版「認知症の理解」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で取り組んでほしい。 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本科1階保健室			
自学自習	予習：当日の内容をテキストで確認しておくこと 復習：テキストや配布プリントで復習する			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	認知症の人の生きる世界	①ガイダンス・授業内容の説明 ②認知症の人の生きる世界について理解を深める（ビデオ使用）
2	認知症を取り巻く状況	①認知症ケアの歴史について学ぶ ②認知症を取り巻く社会問題について考える
3	医学的側面からみた認知症の理解	①認知症とは ②認知症の主な原因となる疾患の理解
4	医学的側面からみた認知症の理解	①認知症とは ②認知症の主な原因となる疾患の理解
5	認知症の人の心理的理解	①認知症の症状（中核症状・BPSD）の特徴 ②認知症の人の特徴的な心理・行動障害について理解する。また、特徴的なBPSD（混乱、不安、怯え、孤独感、怒り、悲しみ、他）
6	認知症の人の心理的理解	①認知症の症状（中核症状・BPSD）の特徴 ②認知症の人の特徴的な心理・行動障害について理解する。また、特徴的なBPSD（混乱、不安、怯え、孤独感、怒り、悲しみ、他）
7	認知症の診断と治療	①認知症の検査・診断と治療 ②最新薬の種類と特徴
8	認知症の診断と治療	①認知症の検査・診断と治療 ②最新薬の種類と特徴 ③小テスト
9	認知症の人の介護	①認知症ケアの理念と視点について学ぶ ②認知症の人と関わる際の原則について学ぶ
10	認知症の人の生活理解	①環境の変化が認知症の人に与える影響（馴染みの人間関係、住居環境、その他）とケアのあり方について学ぶ ②認知症の人の特徴を踏まえたアセスメント
11	認知症の人の生活の理解	①環境の変化が認知症の人に与える影響（馴染みの人間関係、住居環境、その他）とケアのあり方について学ぶ ②認知症の人の特徴を踏まえたアセスメント
12	認知症の人に対する介護	①初期の認知症の理解と介護について学ぶ ②中期の認知症の理解と介護について学ぶ
13	認知症の人に対する介護	①後期及びターミナル期における認知症の理解と介護について学ぶ ②ユマニチュードによるコミュニケーションの取り方について学ぶ ③小テスト
14	認知症の予防	認知症の予防法について学ぶ
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認

科目名	認知症の理解B		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①認知症の人にとっての適切な環境について理解する ②認知症の人の生活の場である介護老人福祉施設、グループホーム、在宅での介護について理解する ③認知症を取り巻く社会資源について学ぶ思いのほか大きかったです、軽く動きもスムーズです ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 [授業全体の内容の概要] 認知機能障害が及ぼす日常生活への影響や、認知症の人・家族の心の変化や生活面への影響を理解し、その支援のあり方を思考できる知識を身につける			
達成目標	[授業修了時の到達目標] ①認知症の人が住みやすい環境について理解できる ②介護老人福祉施設、グループホーム、在宅での介護の特徴につ ③地域のサポート体制、チームアプローチについて理解できる ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得			
受講資格	人間生活学科福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験80% 小テスト20% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	中央法規出版「認知症の理解」 プリント配布			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと			
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）			
自学自習	予習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 復習：テキストと配布プリントで復習すること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	認知症の人の生活の理解	①ガイダンス・授業内容の説明 ②認知症の人の行動と環境との関係について考える
2	認知症の人の生活の理解	認知症の人の行動と環境との関係を理解し、効果的な環境への働きかけについて理解する
3	認知症の人の生活の理解	認知症の人の生活継続のための要件について理解する 小テスト
4	認知症の人に対する介護	認知症の人の生活の場である介護老人福祉施設、グループホーム、在宅における認知症の人の介護について学ぶ
5	認知症の人に対する介護	認知症の人の関わり方の基本、認知症への気づきについて学ぶ
6	認知症の人に対する介護	認知症の進行に応じた介護：認知症の初期における身体・心理・行動の変化を学ぶ。 また、コミュニケーションの取り方について学ぶ
7	認知症の人に対する介護	認知症の進行に応じた介護：認知症の中期における身体・心理・行動の変化を学ぶ。 また、コミュニケーションの取り方について学ぶ
8	認知症の人に対する介護	認知症の進行に応じた介護：認知症の後期における身体・心理・行動の変化を学ぶ。 また、コミュニケーションの取り方について学ぶ 小テスト
9	地域の力を生かす	地域のサポート体制、チームアプローチについて学ぶ
10	地域の力を生かす	地域のサポート体制、チームアプローチについて学ぶ
11	家族への支援	介護職員としての家族との関わり方について学ぶ
12	家族への支援	家族のレスパイトケア、家族のエンパワメント、アドボカシーについて学ぶ
13	家族への支援	認知症の人と家族の会、介護教室、認知症に関する制度
14	認知症と類似している状態	認知症と類似する状態像として、仮性認知症・せん妄・その他の状態について学ぶ
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認

科目名	障害の理解A		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	岡本 宏二			
開講期	後期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護実践に必要な知識という概念から、からだところのしくみについての知識を養う 2 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害の分野でひつようとされる心理的なケアについての基礎的な知識を養う <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>障害のある人の体験を理解し、心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術に関連付けて考えることができるサポート体制、他職種協働を理解し、実践できる</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①障害のある人の体験を理解したか。 ②心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術に関連付けて考えることができたか。 ③サポート体制、他職種協働を理解したか。 			
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護実践に必要な知識という概念から、からだところのしくみについての知識を養う 2 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害の分野でひつようとされる心理的なケアについての基礎的な知識を養う <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>障害のある人の体験を理解し、心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術に関連付けて考えることができるサポート体制、他職種協働を理解し、実践できる</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①障害のある人の体験を理解したか。 ②心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術に関連付けて考えることができたか。 ③サポート体制、他職種協働を理解したか。 			
受講資格	人間生活学科福祉コース2年生	成績評価 方法	①筆記試験50点（10点×5問） ②小論文50点。	
教科書	特に使用しない			
参考書	<p>「働く幸せ～仕事でいちばん大切なこと～」 大山 泰弘 著</p> <p>「こころの処方箋」河合隼雄 著</p>			
学生への要望	ボランティア活動への参加 （場面や機会は、こちらから沢山提示します。できる範囲で可能な限り選択してください）			
オフィスタイム	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	障害の基礎的理解：傷害に関する基本的な考え方	障害の基礎的理解：傷害に関する基本的な考え方
2	障害の基礎的理解：ノーマライゼーションの考え方	障害の基礎的理解：ノーマライゼーションの考え方
3	障害の基礎的理解：障害受容の過程	障害の基礎的理解：障害受容の過程
4	障害の基礎的理解：障害の捉え方や生活支援のあり方（ICIDHからICFへ）	障害の基礎的理解：障害の捉え方や生活支援のあり方（ICIDHからICFへ）
5	障害の基礎的理解：自立支援に向けた地域における取り組み	障害の基礎的理解：自立支援に向けた地域における取り組み
6	障害の医学的側面の基礎的理解	障害の医学的側面の基礎的理解
7	運動と協働：リハビリテーションの意義及び医療職との運動のあり方	運動と協働：リハビリテーションの意義及び医療職との運動のあり方
8	運動と協働：障害や特性に応じた医療職との運動	運動と協働：障害や特性に応じた医療職との運動
9	家族への支援：家族へのレスパイトケアについての基本的視点	家族への支援：家族へのレスパイトケアについての基本的視点
10	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：知識とアセスメント能力	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：知識とアセスメント能力

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：障害の知識、具体的な症状とその背景から自立に向けてどのような介護が望まれるか	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：障害の知識、具体的な症状とその背景から自立に向けてどのような介護が望まれるか
12	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：本人の意欲や主体的な行動を支え、地域で安心して暮らしていけるような生活支援を考える	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：本人の意欲や主体的な行動を支え、地域で安心して暮らしていけるような生活支援を考える
13	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：日常生活に及ぼす影響を考慮し、残存の力・潜在能力の活用を含めた生活支援を考える	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：日常生活に及ぼす影響を考慮し、残存の力・潜在能力の活用を含めた生活支援を考える
14	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：ライフステージに応じた自立支援のあり方	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：ライフステージに応じた自立支援のあり方
15	まとめ	まとめ

科目名	障害の理解B		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	茂木 光代			
開講期	後期			
授業概要	[授業の目標・ねらい] 障害の医学的側面からの基礎知識を習得し、障害者の体験を理解し、その心理的な影響や障害の受容、日常生活の「生活のしづらさ」を理解し、その自立に向けてのさまざまな支援のあり方をまなぶ。 [授業全体の内容の概要] 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携を中心とした授業。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携の概要を理解し、今後の自らの生活や福祉的な仕事に参考として生かしていけること。			
達成目標	[授業の目標・ねらい] 障害の医学的側面からの基礎知識を習得し、障害者の体験を理解し、その心理的な影響や障害の受容、日常生活の「生活のしづらさ」を理解し、その自立に向けてのさまざまな支援のあり方をまなぶ。 [授業全体の内容の概要] 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携を中心とした授業。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携の概要を理解し、今後の自らの生活や福祉的な仕事に参考として生かしていけること。			
受講資格	人間生活学科福祉コース 2年生	成績評価 方法	筆記試験100%	
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集 13「障害の理解」中央法規			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	積極的の授業に臨むこと。			
オフィスタイム	火曜日 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	序論	「障害者の概論と基本理念」を学び、基礎的理解をする。地域における障害者の生活や医療保健福祉関係者との連携を理解する。
2	序論	「障害者の概論と基本理念」を学び、基礎的理解をする。地域における障害者の生活や医療保健福祉関係者との連携を理解する。
3	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人権、ノーマライゼーション、ICFの概念とリハビリテーション等も含む）
4	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人権、ノーマライゼーション、ICFの概念とリハビリテーション等も含む）
5	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人権、ノーマライゼーション、ICFの概念とリハビリテーション等も含む）
6	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人権、ノーマライゼーション、ICFの概念とリハビリテーション等も含む）
7	「障害のある人に対する介護」を学ぶ	障害者の生活の場における医療保健福祉制度をととして、自分を含めた人間のメンタルヘルス、社会と人間と疾病の関係を理解する。
8	「障害のある人に対する介護」を学ぶ	障害者の生活の場における医療保健福祉制度をととして、自分を含めた人間のメンタルヘルス、社会と人間と疾病の関係を理解する。
9	「障害のある人に対する介護」を学ぶ	障害者の生活の場における医療保健福祉制度をととして、自分を含めた人間のメンタルヘルス、社会と人間と疾病の関係を理解する。
10	障害者の理解と「家族への支援」を学ぶ	障害のある人の家族に対し、どのように働きかけをしたらよいか。等の演習を通じて、これからの家族支援に求められているものを学ぶ。
11	障害者の理解と「家族への支援」を学ぶ	障害のある人の家族に対し、どのように働きかけをしたらよいか。等の演習を通じて、これからの家族支援に求められているものを学ぶ。
12	障害者の理解と「家族への支援」を学ぶ	障害のある人の家族に対し、どのように働きかけをしたらよいか。等の演習を通じて、これからの家族支援に求められているものを学ぶ。
13	医療・保健・福祉制度の概要を理解する。	地域における医療保健職種との連携や協同。また地域の社会資源の利用について学ぶ。
14	医療・保健・福祉制度の概要を理解する。	地域における医療保健職種との連携や協同。また地域の社会資源の利用について学ぶ。
15	医療・保健・福祉制度の概要を理解する。	地域における医療保健職種との連携や協同。また地域の社会資源の利用について学ぶ。

科目名	こころのしくみと機能		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	前期			
授業概要	人は皆こころを持ち、人間らしく生きたいという欲求を持っています。そして、様々な環境で刺激を受け、感情や記憶や知能を働かせ、適応し、あるいは葛藤を抱えて生きていきます。行動の理由、不安の原因、言葉の背景など、こころの働きを理解することにより、介護や福祉で質の高い支援を行っていくことができるでしょう。この授業は、介護福祉士および教職（高等学校福祉科）の資格必修科目に位置づけられ、こころに関する基礎知識を習得します。			
達成目標	【履修カルテの評価項目】 ① 心の働きに関する用語を正しく言える。 ② 学習理論や記憶のしくみなど、学修した理論が日常でどう活用され、福祉や教育の場でどのように役立っているかを理解している。 ③ 加齢による人格や健康への影響と、高齢者の権利、自立と尊厳、欲求と自己実現などについて、理解している。			
受講資格	介護福祉士の資格取得を目指す者（必修） 教職（高等学校1種福祉）を目指す者（必修）	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（75%）、 授業態度・発言内容・レポート（25%）、 欠席が多い場合の減点あり。	
教科書	授業中にプリントを配布。			
参考書	テーマごとに授業で紹介する。			
学生への要望	理解を深めるために、体験的・実践的ワークを取り入れていきます。積極的に参加して、ディスカッションで多めに発言をしてください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ、木曜日Ⅰ・Ⅲ 臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：キーワードを調べてノートする。あるいは、参考文献の関連箇所を読んで理解しておく。 事後学習：授業の中で出てきた重要な概念や用語については、ノートを確認して、必ず覚えておくこと。また、不明な用語は調べてノートすること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ
2	人格理論Ⅰ	対人関係の基礎として、人の心について考えます。まず最初に自分の性格（人格）について考えてみましょう。人格とは何か、人格特性と「自己一致」について。人格テストで何がわかるか、などについて。
3	人格理論Ⅱ	人格のタイプ論、家族や環境と人格形成、人生劇場、性格は変えられる、などについて。
4	他者理解Ⅰ	同じものを見て、聞いて、味わっていても、感じ方は人それぞれ。表現のしかたや伝え方も十人十色でみな違います。ここでは認知と表現の多様性を学び、他者理解について考えます。
5	他者理解Ⅱ	人は皆、違った考えを持っていると知っているはずなのに…つい自分と同じと考えて、誤解や齟齬が生まれます。見方が変わると解釈が変わる。言動や感情には理由がある。ステレオタイプや偏見、差別の心理について学び、対人関係における「思い込み」の問題を考えます。
6	発達理論	主要な理論家による障害発達理論（エリクソン、ハヴィガースト）を学びます。
7	自己概念と尊厳・人間の欲求とは	マズローの欲求階層、自己実現、社会的欲求、心理的欲求。高齢者の権利、自立と尊厳などを学びます。
8	心のしくみに関する諸理論	心の層構造（フロイト、ユング等）、脳の構造、こころの要素（知能、記憶、人格、感覚）などについて。
9	適応のしくみ	フロイトの防衛機制を中心とした人のこころの防衛について、やさしい例題を使って覚えていきます。
10	記憶のしくみ	記憶の貯蔵モデル、短期記憶、長期記憶、長期記憶の種類、作動記憶などについて。
11	感情のしくみ	感情理論、情動の抑制と行動化、気分障害、動機づけ等について。
12	学習理論	古典的条件付け、道具的条件付け、行動療法の基本となる学修理論について。
13	睡眠のしくみ	睡眠の意味、睡眠時間、睡眠のリズム、睡眠に関わるこころの病気などについて。
14	終末介護	「死」のとらえ方、キューブラー・ロスの「死」の受容プロセス、介護する家族などについて考えます。
15	まとめ補足	補足解説、掘り下げ討論、練習問題、まとめを行います。

平成29年度

科目名	医療的ケア I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	藤田 京子, 茂木 光代			
開講期	通年			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①介護職員が「たんの吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する</p> <p>②チーム医療、「たんの吸引」「経管栄養」の概論、具体的な手技、等について理解する</p> <p>③介護福祉士国家試験に必要な知識の習得</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①人間と社会 ②保険医療制度とチーム医療 ③安全な療養生活 ④清潔保持と感染予防 ⑤健康状態の把握 ⑥高齢者及び障害者の「たんの吸引」概論 ⑦「たん吸引」実施手順 ⑧高齢者及び障害者の「経管栄養」概論 ⑨「経管栄養」実施手順</p>			
達成目標	<p>①「たん吸引」「経管栄養」の目的、実施上の留意点、基本的手技、緊急時の対応、を理解する</p> <p>②介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する</p>			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	期末試験80%、小テスト20% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	中央法規出版「医療的ケア」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 国家試験にかかわる復習を行う（小テストで確認） 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	月・水曜日14時30分～16時 本館1階保健室（藤田） 授業終了時に確認（茂木）			
自学自習	予習：当日の内容はテキストで確認しておくこと（1時間） 復習：テキストと配布プリントで復習すること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	人間と社会	①個人の尊厳と自立 ②医療の倫理 ③利用者や家族の気持ちの理解
2	保健医療制度とチーム医療	前回の振り返り小テスト ①保健医療に関する制度 ②医療行為に関する法律
3	保健医療制度とチーム医療	前回の振り返り小テスト ①チーム医療と介護職員との連携 ②たんの吸引や経管栄養の安全な実施
4	安全な療養生活	前回の振り返り小テスト ①たんの吸引や経管栄養の安全な実施 ②救急蘇生法
5	安全な療養生活	前回の振り返り小テスト 救急蘇生法
6	清潔保持と感染予防	前回の振り返り小テスト ①感染予防 ②職員の感染予防 ③療養環境の清潔、消毒法
7	清潔保持と感染予防	前回の振り返り小テスト ①滅菌と消毒 ②身体・精神の健康
8	健康状態の把握	前回の振り返り小テスト ①身体・精神の健康 ②健康状態を知る視点
9	健康状態の把握	前回の振り返り小テスト ①健康状態を知る視点 ②急変状態について ③呼吸のしくみとはたらき ④これまで行ってきた授業内容をまとめるための小テスト
10	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	前回の振り返り小テスト ①呼吸のしくみと働き ②いつもと違う呼吸状態
11	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	前回の振り返り小テスト ①いつもと違う呼吸状態 ②たんの吸引とは
12	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	前回の振り返り小テスト 人工呼吸器と吸引
13	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	前回の振り返り小テスト ①人工呼吸器と吸引 ②子供の吸引について
14	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	前回の振り返り小テスト ①吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 ②呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1～14講義までの確認テスト
16	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	①たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認 ②急変・事故発生時の対応と事前対策
17	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	前回の振り返り小テスト ①たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 ②たんの吸引の技術と留意点
18	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	前回の振り返り小テスト 吸引の技術と留意点
19	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	前回の振り返り小テスト 吸引の技術と留意点
20	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	前回の振り返り小テスト 吸引の技術と留意点
21	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	振り返り小テスト ①たんの吸引に伴うケア ②報告及び記録
22	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	前回の振り返り小テスト 消化器系のしくみとはたらき
23	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	前回の振り返り小テスト ①消化・吸収と、よくある消化器の症状 ②経管栄養法とは
24	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	前回の振り返り小テスト ①経管栄養法とは ②注入する内容に関する知識
25	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	前回の振り返り小テスト ①経管栄養実施上の留意点 ②子どもの経管栄養について
26	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	前回の振り返りテスト 経管栄養に関する感染と予防
27	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	前回の振り返りテスト ①経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 ②経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
28	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	前回の振り返り小テスト 急変・事故発生時の対応と事前対策
29	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	前回の振り返り小テスト ①経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 ②経管栄養の技術と留意点
30	総括	これまでの授業の内容の補足と確認

平成29年度

科目名	医療的ケアⅡ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	藤田 京子, 茂木 光代			
開講期	前期			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①介護職員が「たんの吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行為を行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する</p> <p>②チーム医療、「経管栄養」の具体的な手技、等について理解する</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①保険医療制度とチーム医療 ②安全な療養生活 ③清潔保持と感染予防 ④健康状態の把握 ⑤「経管栄養」の実手順 ⑥救急蘇生法</p> <p>第1回 : 講義形式 第2回～11回 : 講義30分・演習形式60分 第12回～14回 : 演習評価 第15回 : 講義30分・演習形式60分</p>			
達成目標	<p>〔授業終了時の到達目標〕</p> <p>①介護職員が「たんの吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行為を行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する</p> <p>②チーム医療、「経管栄養」の具体的な手技、等について理解する</p> <p>第1回 : 講義形式 第2回～11回 : 講義30分・演習形式60分 第12回～14回 : 演習評価 第15回 : 講義30分・演習形式60分</p>			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	実技試験80%、レポート20% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	中央法規出版「医療的ケア」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	授業終了後に確認（茂木） 月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）			
自学自習	予習：「たんの吸引」「経管栄養」の技術と留意点についてはテキストで確認しておくこと（1時間） 復習：「たんの吸引」「経管栄養」の演習について振り返り、次回に臨むこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」「経管栄養」実施手順	①ガイダンス・授業内容の説明 ②たんの吸引・経管栄養の技術と留意点
2	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	①口腔内吸引の技術と留意点 ②たんの吸引演習
3	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	①口腔内吸引の技術と留意点 ②たんの吸引演習
4	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	①鼻腔内吸引の技術と留意点 ②たんの吸引演習
5	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	①鼻腔内吸引の技術と留意点 ②たんの吸引演習
6	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点 ②たんの吸引演習
7	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点 ②たんの吸引演習
8	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①経鼻経管栄養の技術と留意点 ②経管栄養演習
9	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①経鼻経管栄養の技術と留意点 ②経管栄養演習
10	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①胃ろう・腸ろうによる経管栄養の技術と留意点 ②経管栄養演習
11	基高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①胃ろう・腸ろうによる経管栄養の技術と留意点 ②経管栄養演習
12	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養
13	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養
14	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養
15	基本演習	救急蘇生法

平成29年度

科目名	人体の構造と機能	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択	
担当教員	藤原 建樹			
開講期	前期			
授業概要	解剖学についての基本的な知識を学ぶ 生理学についての基本的な知識を学ぶ 主な疾患の成り立ちについて学ぶ			
達成目標	解剖・生理学の基本をどの程度理解できたか。 主な生活習慣病の成り立ちをどの程度理解できたか。			
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年	成績評価 方法	授業への参加状況 (50%) レポート提出 (50%)	
教科書	人体の構造と機能及び疾病 新・社会福祉養成講座 中央法規			
参考書	なし			
学生への要望	双方向の授業を期待しています。			
オフィスタイム	臨床医学研究室、 水曜日 9:00~12:00 木曜日 13:00~16:00			
自学自習	配布資料ならびに教科書の読み返し。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	栄養と代謝 糖尿病の諸問題	栄養と代謝 糖尿病はいまや社会問題 糖尿病はなぜ怖い 糖尿病とは 糖尿病の分類
2	栄養と代謝 糖尿病の諸問題	糖代謝の動態とインスリンの働き 糖尿病慢性合併症 糖尿病にならないライフスタイル
3	消化器	食道の構造と機能 胃の構造と機能 ピロリ菌感染と消化器疾患 ピロリ菌感染の臨床的意義 予防と治療
4	肝臓の構造と機能 ウイルス性肝炎	肝臓の構造と機能 主なウイルス性肝炎 慢性肝炎と肝臓がん 予防と治療
5	心臓の働きと急性冠症候群	心臓の働きと急性冠症候群 突然死とは 不整脈
6	大脳の構造と機能 脳血管疾患	大脳の構造と機能 脳卒中とは 脳卒中の分類
7	高血圧	高血圧はなぜ怖いか 高血圧の現状 高血圧と減塩
8	動脈硬化 その1	動脈硬化とは 動脈硬化の種類 動脈硬化はなぜ怖い
9	動脈硬化 その2	動脈硬化とライフスタイル
10	認知症	認知症は社会問題 認知症の症状 認知症の分類 認知症とケア
11	運動器の構造と機能 運動器と老齢症候群	運動器の構造と機能 サルコペニア 運動器症候群 廃用症候群の概要と予防

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	感染症	主なウイルス感染症
13	血液	白血病とは 白血病の分類 白血病の治療 分子標的薬の登場と寛解率の向上 成人T
14	腎臓の構造と機能	糸球体の構造と機能 尿細管の構造と機能 急性糸球体腎炎 慢性糸球体腎炎
15	腎臓の構造と機能	慢性腎臓病の概念 慢性腎臓病の病理 慢性腎臓病の臨床 慢性腎臓病の予防

科目名	こころとからだのしくみA		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子			
開講期	前期			
授業概要	【授業の目的・ねらい】 ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②介護上における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「身じたく」「移動」「食事」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 【授業全体の内容の概要】 生活支援技術（身じたく・移動・食事）を完全に、適切に行う上での根拠となる人体の構造や機能について学ぶ			
達成目標	【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①人体の構造と働きを理解する ②「身じたく」「移動」「食事」について、老化や疾患による影響について理解する ③「身じたく」「移動」「食事」について、安全に介助できるための根拠を理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 【履修カルテの評価項目】 ①人体の構造と働きを理解できたか ②「身じたく」「移動」「食事」について、老化・疾患による影響を理解できたか ③「身じたく」「移動」「食事」について、安全に介助できるための根拠を理解する			
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験80%、小テスト20% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）			
自学自習	予習：当日の内容をテキストで確認すること（1時間） 復習：テキストと配布プリントで復習すること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	こころのしくみの理解	①ガイダンス・授業内容の説明 ②人間がもつ（1）基本的欲求（2）社会的欲求について学ぶ
2	こころのしくみの理解	自己概念と尊厳について学ぶ ①自己概念に影響を与える要因について理解する ②自立への意欲と自己概念の関係について理解する ③自己実現、生きがいについて理解する
3	からだのしくみの理解	こころとからだの関係について理解する ①脳、心臓などの基本的な解剖、生理、生命の維持のしくみの理解する ②骨・関節など、からだの動きのメカニズムを理解する （ボディーメカニクス、関節可動域、等） ③小テスト
4	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	①身じたくを整えることの意義・目的 ②身じたくに関連したこころのしくみとからだのしくみ
5	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	①老化による機能低下 ②疾患による機能低下 ③障害による機能低下、これらが身じたくにどのような影響を及ぼすのか、こころとからだの面から学び、よりよい支援について考える
6	身じたくに関連した、こころとからだのしくみ	①老化による機能低下 ②疾患による機能低下 ③障害による機能低下、これらが身じたくにどのような影響を及ぼすのか、こころとからだの面から学び、よりよい支援について考える また、機能低下・障害が及ぼす整容行為への影響を学ぶ ④小テスト
7	移動に関連したこころとからだのしくみ	移動を理解する上で必要な基本的な内容として、 ①良肢位 ②安全な移動 ③歩行のしくみについて学ぶ
8	移動に関連したこころとからだのしくみ	人が移動する必要性や移動の効果について学ぶ ①なぜ移動するのか ②移動に関連したこころのしくみ ③移動に関連したからだのしくみ、等について学ぶ
9	移動に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響として、 ①老化による機能低下 ②病気による機能低下 ③障害による機能低下 ④移動における他職種との連携、等について学ぶ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	移動に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響として、 ①老化による機能低下 ②病気による機能低下 ③障害による機能低下 ④移動における他職種との連携、等について学ぶ
11	移動に関連したところとからだのしくみ	①機能低下・障害が及ぼす移動への影響について学ぶ（骨折・廃用症候群、他） ②小テスト
12	食事に関連したところとからだのしくみ	食事は、活動や生命を維持するために必要な最も基本的な日常生活行為である。 接触のメカニズム、あり方、等について学ぶ ①なぜ食事をするのか ②食事に関連したところのしくみ ③食事に関連したからだのしくみ ④摂食のメカニズム、等について学ぶ
13	食事に関連したところとからだのしくみ	食事は、活動や生命を維持するために必要な最も基本的な日常生活行為である。 接触のメカニズム、あり方、等について学ぶ ①なぜ食事をするのか ②食事に関連したところのしくみ ③食事に関連したからだのしくみ ④摂食のメカニズム、等について学ぶ
14	食事に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響について、 ①老化による機能低下 ②病気による機能低下 ③障害による機能低下 ④食事における他職種との連携、等について学ぶ。 また、食事制限が必要な人の食行為、嚥下障害に気づく観察のポイント、誤嚥を予防するための日常生活での留意点、等について学ぶ ⑤小テスト
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認

科目名	こころとからだのしくみB		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 選択
担当教員	藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	【授業の目的・ねらい】 ①生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について理解する ②介護上における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する ③「入浴・清潔保持」「排泄」「睡眠」について、老化・疾患の特徴を踏まえた適切な援助法について理解する ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 【授業全体の内容の概要】 生活支援技術（入浴・清潔保持、排泄、睡眠、終末期）を安全に、適切に行う上での根拠となる人体の構造や機能について学ぶ 【履修カルテの評価項目】 ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解できたか ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解できたか ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等について、安全に介助できるための根拠を理解できたか ④終末期における介護の役割について理解できたか			
達成目標	【授業修了時に到達目標】 ①入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等における利用者の生活・自立支援に必要な基礎的知識について理解する ②入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等が、老化や疾患により及ぼされる影響について理解する ③入浴・清潔保持、排泄、睡眠、等について、安全に介助できるための根拠を理解する ④終末期における介護の役割について理解する ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識の習得			
受講資格	福祉コースの学生	成績評価 方法	期末試験80% 小テスト20% 欠席・授業態度で減点あり	
教科書	中央法規出版「こころとからだのしくみ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと 授業を欠席しないこと。			
オフィスタイム	月・水曜日 14時30分～16時 本館1階保健室（藤田）			
自学自習	予習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 復習：テキストと配布プリントで復習すること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	入浴・清潔保持	①ガイダンス・授業内容の説明 ②なぜ入浴・清潔保持を行うのか
2	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ ①清潔がもたらす効果 ②高齢者や障害者にとっての清潔保持の意義と楽しみ方について
3	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持に関連したからだのしくみについて理解する ①皮膚の構造としくみ ②発汗のしくみ ③皮膚の汚れのしくみ
4	入浴・清潔保持	心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ①老化による皮膚機能の変化と影響 ②疾患による機能低下：褥瘡・高血圧・心疾患・呼吸器疾患 ③障害による機能低下：視覚機能低下と影響、運動機能低下と影響
5	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持における観察のポイント ①変化の気づきと対応 ②心身の状態に応じた入浴・清潔の方法 ③入浴・清潔保持における医療職との連携
6	入浴・清潔保持	入浴・清潔保持に関する要点を復習および小テスト
7	排泄	排泄に関連したこころとからだのしくみ：なぜ排泄を行うのか、排泄の意義
8	排泄	排泄に関連したこころのしくみ
9	排泄	排泄に関連したからだのしくみ
10	排泄	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響として、 ①老化による機能低下 ②疾患による機能低下 ③障害による機能低下
11	排泄	①排泄における観察のポイント ②排泄における医療職との連携
12	排泄	排泄に関する要点の復習および小テスト
13	睡眠	①睡眠に関連したこころとからだのしくみ ②心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響（老化による機能低下、疾患による機能低下、障害による機能低下）
14	終末期	①死にゆく人のこころとからだのしくみ：死を理解する（1）生物学的な死（2）法律的な死（3）臨床的な死（4）「終末期」から「死」までの変化と特徴、死に対する心の理解 ②医療職との連携のポイントについて学ぶ
15	総括	これまでの授業内容の補足及び確認

平成29年度

科目名	海外生活実習	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 3年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 1単 位 選択
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	通年		
授業概要	諸外国を訪問して様々な文化に触れるとともに、衣・食・住・福祉・経営・情報などの生活に関わる施設や研修先を訪れ、見聞を広げ		
達成目標	諸外国を訪問し、訪問国の文化の理解を深めることを目的とする。		
受講資格	人間生活学科 3年生	成績評価 方法	①訪問前調査20% ②訪問時の観察・交流・行動50% ③レポート30%
教科書	なし		
参考書	関係資料の配布		
学生への要望	訪問国や訪問先について調べ、疑問点を明らかにしておくこと。 また、訪問国の生活や文化について調べておくこと。		
オフィスタイム	住居学研究室 月曜IV時限（14：30～16：00） 水曜IV時限（14：30～16：00）		
自学自習	諸外国の生活や文化について事前に調査し、理解を深める（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	海外生活実習の目的および訪問時期の説明を行う。 またこれまでの海外生活実習の訪問国を提示する。
2	オリエンテーション	海外生活実習の訪問国や訪問地域の候補を提示する。 また視察先の例を示し、これまでの実習先での様子を学ぶ。
3	手続き方法	旅行会社による積立や手続き方法の説明会を実施する。 また海外生活実習を行うための予備調査として参加希望調査・訪問希望地域調査を行う。
4	訪問国の選定	訪問希望調査結果を提示する。 初回の調査で訪問希望地域が多岐にわたっている場合には、 初回の希望調査結果の上位2 か国ないしは3 か国に限定した希望調査を行う。
5	事前学習	旅行会社による説明会を実施する。 訪問予定国の気候・文化・政治などを学び、訪問予定国に関する理解を深める。
6	渡航の意義	渡航に向けての手続きに関する説明会を行い、訪問日程などを確認する。 ビザやパスポートの役割などを理解し、その意味と重要性を認識することとする。 また電圧などが国ごとに違うことを理解し、国ごとに違いがあることを理解する。
7	訪問国の理解 1	渡航直前の説明会を行う。 国際的にどのような問題が発生しているか国際状況を理解する。 また訪問地域と日本の文化・気候等の違いを再度確認する。 これらの確認により、日本が世界の中でどのように位置づけられているか理解を図る。
8	訪問国の理解 2	渡航に際し、これまでの説明会や訪問国・訪問先について調べたことから生じ疑問をまとめる。 また出国時と入国時における手続きの違いや為替などについて学ぶ。
9	海外生活実習 1	車窓から町並み等を観察することで、建築物や道路などの施設の違いを確認する。 とくに日本の建造物と訪問国の建造物の差に注意を払い確認をする。
10	海外実習 2	宿泊ホテル周辺を散策しスーパーマーケットなどで買い物をしてみることで、 販売されているもの、購入方法、通貨の違いを理解する。 訪問国の生活について実体験を通して学ぶこととする。
11	海外実習 3	食文化の違いを理解するため、訪問国のマーケットを訪れ特産品や販売方法を確認する。 日本の食文化と比較することで、国ごとに特色があることを学ぶ。 また販売されている衣料品を観察し、日本との販売方法の違いや商品の違いが何か学ぶ。
12	海外実習 4	福祉施設を訪問し、施設の状況や施設周囲の環境がどのようなものか学ぶ。 また施設の職員から制度や問題点について説明を受けて日本との制度の違いを学び、 日本での改善を行うための一助とする。
13	海外実習 5	宗教と関わる施設（寺院など）を訪れ、建築物としての機能性を確認する。 またこれらの建造物を通して、宗教が文化や習慣及ぼす影響を確認する。
14	海外実習まとめ 1	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。 また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。
15	海外実習まとめ 2	本訪問において学んだことを、衣・食・住・福祉・経営などの観点から整理する。 また訪問前に生じた問題について、どのような回答が得られたまとめる。

平成29年度

科目名	衣生活概論	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	前期		
授業概要	人間が生活していく上で必要不可欠な衣生活に関して、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、衣生活に関わる諸問題への対処が可能となる。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被服の持つ機能・役割について理解できた。 2. 繊維の種類と特徴を理解できた。 3. 被服着用時における安全性上のリスクについて理解できた。 		
受講資格		成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布資料		
参考書	「衣生活論」、小林茂雄他、(株)アイ・ケイ・コーポレーション(2008)他、(N02被服学研究室所蔵図書)		
学生への要望	自分および家族の衣生活上の問題点を抽出しながら受講し、授業内容を実生活に反映させること。		
オフィスタイム	火曜日(2コマ)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室		
自学自習	講義の最初に前回の講義内容や最近のトピックスについての調査結果や感想を発表する時間を設定します。その準備をすること。 事前学習1時間、事後学習1時間踏する。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	シラバスにそって授業の概要や達成目標、進め方や成績評価方法を説明する。授業を受けるにあたっては、身近な毎日の衣生活に関心を持つことが大切であること。そうすることで、講義内容の理解が深まることを解説する。

平成29年度

科目名	被服管理学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子			
開講期	後期			
授業概要	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす。			
達成目標	①被服の生産段階における日本と世界の現状を理解する。 ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ③被服の保管時の問題点を理解している。			
受講資格	特になし		成績評価 方法	①課題レポート：30点 ②期末レポート：70点
教科書	配布プリント			
参考書	「被服整理学」(社)日本衣料管理協会(平成20年)、「衣服管理の科学」片山倫子編(建帛社、平成14年)、N02被服学研究室の参考書			
学生への要望	日常の衣生活を問題意識をもってみつめること。			
オフィスタイム	火曜日(2コマ)：N02被服学研究室 水曜日(全日)：N02被服学研究室			
自学自習	毎講義開始後に前回の授業内容や最近のトピックスについて関心をもった内容や項目について調査し、その結果と感想を発表し、討議する。そのための準備をすること(事前学習と事後学習を合計して2時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。

科目名	衣造形学演習		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	難波 めぐみ			
開講期	前期			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 立体構成（洋裁）学を基に、平面裁断と立体裁断における裁断方法の違いを学び、作品完成の違いについての理解を深める。また、文化式原型、新文化式原型の製図方法を習得することにより、体型変化を理解し、機能にあった快適な着心地の良い作品作り、及び生活空間における衣の重要性を学ぶ。介護福祉士として快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、教員養成対策として、立体構成の基本知識を深め、応用能力、多くの技術修得を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 立体構成と平面構成の違いを理解する。人体の理解を深め、製図方法を学ぶ。ブラウス・女兒服の製作を通し技術の修得及び、快適な衣生活を創造提案できるようにする。</p>			
達成目標	<p>①立体構成（洋裁）とは何かを理解できたか。 ②体の機能や形態を理解できたか。 ③立体構成（洋裁）技術の修得から、衣生活の新たな提案が可能となったか。</p>			
受講資格	上記対象学生及び教職履修、介護福祉士履修学生は必修	成績評価 方法	<p>①平常点（授業への取り組みなど）20点 ②途中課題（袖、衿）20点 ③完成作品（ブラウス、女兒服、刺繍）30点 ④課題（レポートやまめテストなど）30点 ①~④の総合評価60点以上で合格となる。</p>	
教科書	『立体構成（洋裁）』など随時プリント配布。			
参考書	『文化ファッション大系2』文化服装学院、他授業内で随時提示。			
学生への要望	1. 遅刻・欠席をせずに主体的に熱心に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え、完了できるように心掛けること。			
オフィスタイム	月（Ⅲコマ）、木（Ⅱ、Ⅲコマ）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。			
自学自習	<p>予習：次の実習内容を予習（シラバスの確認）し、専門用語の意味を理解しておくこと（1時間） 復習：新たに習得した技法がどこで使用されているのか調査し、ノートにまとめること（1時間） ※授業終了時に、次週までの予習、復習について随時提示する。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	実習内容と留意事項について（9/15）	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。
2	実習内容と留意事項について	1) 実習計画の提示 2) 立体構成について 3) 立体裁断の方法を学び、平面裁断と立体裁断について考える。
3	原型製図—文化式、新文化式—（9/22）	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）
4	原型製図—文化式、新文化式—	1) 採寸方法を学ぶ（正しい原型作りを行うために、正確な採寸方法を学ぶ） 2) 縮尺で製図方法を学ぶ（文化式、新文化式1/4の縮尺製図を行い、原型を変えた意味を知る）
5	新文化式原型（9/29）	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ
6	新文化式原型	1) 新文化式原型（実寸）の製図 2) 原型の修正。最も体にフィットした原型作図を学ぶ
7	ブラウスパターン作図（10/6）	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ
8	ブラウスパターン作図	1) ブラウスのパターンを選定 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出 3) 次回使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ
9	ブラウス製作①—基本を学ぶ—（10/13）	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ
10	ブラウス製作①—基本を学ぶ—	1) パターン修正 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ 3) 接着芯の取り扱いを学ぶ
11	ブラウス製作②—仮縫い—（10/20）	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 襟系について b. ぐし縫いについて ※仮縫いが出来上がり左右することを実習を通して学ぶ。
12	ブラウス製作②—仮縫い—	1) 仮縫いの方法を学ぶ a. 襟系について b. ぐし縫いについて ※仮縫いが出来上がり左右することを実習を通して学ぶ。
13	ブラウス製作③—本縫い—（10/27）	1) 仮縫い後試着しベアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a. 仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a. ジグザグミシンの方法。b. ロックミシン c. 端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り（袖、衿に名札を付けて提出）
14	ブラウス製作③—本縫い—	1) 仮縫い後試着しベアーになり、お互いに補正をし型紙修正をおこなう 2) 本縫い準備。a. 仮縫いした糸を解き、綺麗にアイロンをかける 3) 縫い代始末方法を学ぶ。a. ジグザグミシンの方法。b. ロックミシン c. 端ミシン 4) 袖作り 5) 衿作り（袖、衿に名札を付けて提出）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー(11/10)	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、襟のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ
16	ブラウス製作④ー身頃縫い・ダーツの縫製方法を学ぶー	1) 身頃本縫い まち針の打ち方、襟のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。 a、前身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ b、脇縫い c、肩縫い d、見返しの扱い方を学ぶ e、衿付け 衿付け始末の方法を学ぶ f、裾上げ
17	ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタンー(11/17)	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。
18	ブラウス製作⑤ー袖付け・ボタンー	1) 袖付け 袖付けの方法を学ぶことにより、ブラウスの成り立ちを学び、更に始末の方法も修得する。 2) ボタン a、手縫いによるボタンホールの手法を学ぶ。本授業ではミシンによるボタン穴の制作をし、ボタン穴の開け方を学ぶ。b、ボタンのつけ方を学ぶ。
19	ブラウス製作⑥ー相互評価ー(11/24)	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出
20	ブラウス製作⑥ー相互評価ー	1) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 2) 評価。レポートと共に名札を付け提出
21	子供服ー子どもの体型を考えるー(12/1)	1) 子ども服について学ぶ 2) 子どもの体型、採寸方法を学ぶ(子どもの体型を理解する) 3) 製図。パターンを決め製図 4) 裁断。縫い代などに注意しながら裁断する 5) 縫製
22	子供服ー子どもの体型を考えるー	1) 子ども服について学ぶ 2) 子どもの体型、採寸方法を学ぶ(子どもの体型を理解する) 3) 製図。パターンを決め製図 4) 裁断。縫い代などに注意しながら裁断する 5) 縫製
23	子供服製作①ーファスナー付けを学ぶー(12/8)	1) 様々なタイプのファスナーの付け方を学び、応用出来るようにする
24	子供服製作①ーファスナー付けを学ぶー	1) 様々なタイプのファスナーの付け方を学び、応用出来るようにする
25	子供服製作②ーポケット付けを学ぶー(12/15)	1) ポケット製作方法を学ぶ。パッチポケット、脇ポケット方法等、数種類の製作方法を修得する。
26	子供服製作②ーポケット付けを学ぶー	1) ポケット製作方法を学ぶ。パッチポケット、脇ポケット方法等、数種類の製作方法を修得する。
27	子供服製作③ー刺繍を学ぶー(12/22)	1) 子供服に刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍糸の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりイメージが変化することを学ぶ。
28	子供服製作③ー刺繍を学ぶー	1) 子供服に刺繍し、装飾の方法を学ぶ a、刺繍糸の取り扱い方法について b、技法について ※装飾方法や装飾場所により出来上がりイメージが変化することを学ぶ。
29	総合評価(1/26)	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。
30	総合評価	1) 作品鑑賞会 作品提出と共に、レポート課題の提出 ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。

科目名	食生活概論		対象 単位数 必修	短期大学部 専攻科化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合 コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 1年 2単位 必修
担当教員	緻野 信子			
開講期	前期			
授業概要	望ましい食生活とは、食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などの複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って、「健康」かつ「安全」で「満足」できるような食生活の質の向上を構築することが重要である。本授業では「食」に関わる周辺を包括して学ぶ。			
達成目標	<p>「食生活」の重要性を認識するとともに、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につけること、および、【履修カルテの評価項目】</p> <p>①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。 ②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。 ③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。</p>			
受講資格	家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年	成績評価 方法	①ノートまとめ20% ②課題30% ③期末試験50%	
教科書	①指定の資料を各自コピーして持参する。 ②指示したホームページをダウンロードして、各自印刷して持参する。 ③「はじめてのカラーハンドブック カラー&ライフ」財団法人日本色彩研究所監修 日本色研事業株式会社			
参考書	①授業内で案内する			
学生への要望	1. 私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。 2. 各省庁のホームページを検索する場合があります。パソコンを持参してください。 3. ノートをしっかりとって下さい。 4. 体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。 5. 食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。			
オフィスタイム	月曜日4時限および木曜日5時限目のNo.2食品学研究室			
自学自習	予習：毎回、次週に向けた予習内容を指示しますので、そのことについて事前学習をして下さい（1時間）。 復習：その日の授業内容についてノート整理をしてください（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の目的	「食生活概論」は、「食」に関わる周辺や、「食」に対する心理的、文化的側面についての教養や感性を養うことが目的であることを理解する。併せて、授業の導入として、食品の定義について説明し、「食品」とは何かを理解する。
2	消費者庁と食品表示の目的	食品表示は、食品の履歴書・保証書であることから、「食品表示」の情報を正確に読み取ることが安心・安全な食品を選択するために重要である。ここでは食品表示は消費者庁が一元化して把握していることを理解する。
3	JAS法に基づく食品表示関係の制度	JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。
4	食品衛生法による食品表示	食品衛生法による食品表示の法体系と表示内容、および食物アレルギーの表示制度について理解する。
5	健康増進法による食品表示	特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。
6	食の安全について	食の安全性の考え方について説明し、食品の安全確保には、食品の加工および保存技術の発展が重要であること、および、食の安全については客観的な判断が必要であることを理解する。
7	おいしさの基本理念	「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、価格や商品名などの情報は、心理的においしさに影響を及ぼすことについて学習し、理解する。
8	食嗜好の形成	食物の認知や好き嫌いは、脳の第2次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいのは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。
9	食生活と健康	我が国において、食生活と健康維持・管理に係る取り組みとして2013年度から開始している「第4次国民健康づくり対策：健康日本21（第2次）」について解説し、生活の質の向上と社会環境の質の向上について理解する。
10	日本人の食事摂取基準（2015）	日本人の食事摂取基準は、健康な個人並びに集団を対象として、国民の健康の保持・増進、生活習慣病の予防のために2015年4月より実施する「日本人の食事摂取基準（2015）」について、その概要と改正のポイントについて理解する。
11	食料と環境問題	「快適な環境」、「魅力ある環境」を目指すために、フード・マイレージの低減、食料自給率、地産地消、食べ残しや食品廃棄の低減への取り組み方について理解する。
12	照射食品の安全性とその利用	我が国では、ジャガイモの芽止めのみ、放射線照射が許可されている。放射線照射食品との関連から、放射性物質による食品への移行と健康への影響について考え方を理解する。
13	食空間の基礎	食空間は、人間・時間・空間の3要素を相互作用させて創造しなければならない。色は食空間のイメージを決定づけたり、色の持つ力を意識的に使って料理をおいしく見せたり、食卓を楽しく演出することが出来る。ここでは、色の基本、色と料理のおいしさの関係、色とテーブル・コーディネートの関係について、理解する。
14	店舗、飲食店、キッチンの食空間	食空間は、食物を売るデパート・スーパーマーケット・街の洋菓子店など小売店の売場と、食物を食べる家庭の食卓や飲食店の客席などの食事空間と、調理するキッチンに区別できる。ここでは、いかに分かりやすく楽しく買物できるか、いかに満足し心地よく食事できるか、いかに効率よく環境衛生に即して調理できるかを念頭においた食空間について理解する。
15	授業の総括：確認と授業評価	本授業のまとめとして、ここでは、授業内容に関わる身近な話題を取り上げて解説する。さらに、「アメニティ」と「ホスピタリティ」の精神が、「安全」かつ「健康」で「満足」できるような食生活の質の向上の構築につながることを再確認し、理解する。あわせて、本授業に対し、学生より評価を得る。

平成29年度

科目名	食品栄養学		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	坂野 史明			
開講期	前期			
授業概要	この講義では、健康な生活を送るために重要な栄養学の基礎を学ぶ。 ヒトが身体を維持して生命活動を営んでいくために必要とする栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）が、どのような役割を果たしているかを理解するため、各栄養素の消化・吸収、代謝（体内での分解や合成）とその調節機構について学ぶ。			
達成目標	各栄養素（糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）の消化・吸収とその調節機構を理解する。 各栄養素や水分、電解質の代謝を理解し、それぞれどのような役割を担っているかを理解する。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 選択	成績評価 方法	確認テスト（50%）および課題（50%）の総合評価	
教科書	なし			
参考書	栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学（田地陽一 編、羊土社）・Nブックス 三訂 基礎栄養学（林淳三 監修、建帛社）・栄養科学 イラストレイテッド 生化学（園田勝 編、羊土社）			
学生への要望	食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。			
オフィスタイム	水曜日のI限およびII限、その他適宜対応します。 No.1栄養学研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容を参考書等で確認しておくこと（1時間） 事後学習：ノートのまとめと復習（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	栄養の概念	栄養の定義、栄養素の種類と働き、栄養学の歴史、遺伝形質と栄養
2	食物の摂取	空腹感・満腹感、食欲、摂食量の調節、概日リズムと食事のタイミング
3	消化・吸収と栄養素の体内動態（1）	消化と吸収、管腔内消化、管腔内消化の調節
4	消化・吸収と栄養素の体内動態（2）	膵消化、吸収、栄養素別の消化・吸収
5	消化・吸収と栄養素の体内動態（3）	栄養素の吸収経路、食物繊維・難消化性糖質の作用、消化吸収率
6	たんぱく質の栄養（1）	たんぱく質とアミノ酸、食後・食間のたんぱく質・アミノ酸の代謝、アミノ酸の代謝
7	たんぱく質の栄養（2）	体たんぱく質の代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝の臓器差、たんぱく質栄養状態の評価指標、たんぱく質の栄養価
8	糖質の栄養	糖質の代謝経路、エネルギー源としての役割、糖質の体内代謝、他の栄養素との関係
9	脂質の栄養（1）	脂質の種類、脂肪酸の種類、脂肪酸の代謝経路
10	脂質の栄養（2）	エネルギー源としての役割、多価不飽和脂肪酸の代謝、脂質の体内輸送、脂肪細胞の役割
11	ビタミンの栄養（1）	ビタミンの種類、脂溶性ビタミン
12	ビタミンの栄養（2）	水溶性ビタミン
13	ミネラルの栄養	ミネラルの種類、骨・歯とミネラル、鉄の機能と貯蔵、酵素とミネラル、生体機能調節とミネラル
14	水・電解質の栄養的意義	生体内の水、水の出納、水分量の調節、脱水と浮腫、電解質と酸塩基平衡
15	エネルギー代謝	食物のエネルギー、エネルギー消費量、臓器別エネルギー消費量、エネルギー代謝の測定法

科目名	調理学演習		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子			
開講期	前期			
授業概要	調理の基本的な知識と技術を修得するために、高校家庭科教科書で採用されている料理レシピやスローフード視点から選択した世界各国の代表的な料理をグループワークで演習する。15回の演習を通じて、調理学の基本的な知識と技術の修得と共に食材の栄養価や色・形・味などの調理による変化とその理由を五感で理解する。また、レポートを作成することにより、演習・実習の観察力と科学的レポート作成の基本を身につける。			
達成目標	中高校の家庭科教師としての指導力や家庭での調理を実践するための基本的な知識や技術を修得することを目標とする。 ①代表的な野菜・果物、魚・肉などの食材に対する調理方法の技術を修得し、指導することができる。 ②代表的な和洋中華料理の基本を修得し、教えることができる。 ③調理上必須となる食品衛生、環境負荷削減の知識を修得し、行動できる。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	①授業態度：30点 ②実技：30点 ③レポート：40点	
教科書	プリント配布			
参考書	No. 2被服学研究所蔵図書			
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学演習の一環と考え、積極的に取り組むこと。 また、豊かな食生活は家族団楽を営む基礎となることを理解し、自宅での実践（復習）を実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。			
オフィスタイム	火曜日（2コマ）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室			
自学自習	事前学習：予定のレシピに使用されている食材や調理内容について市場調査や文献調査をすること（1時間）。 事後学習：レポート作成すること、実習した調理を一度は自宅で実習すること（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ、切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。 授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での実践が重要であることを理解する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）を映像を通して学ぶ。
2	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ、切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。 授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での実践が重要であることを理解する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）を映像を通して学ぶ。
3	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方と洗いの基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。
4	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方と洗いの基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。
5	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、ブラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方。米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴
6	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、ブラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方。米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴
7	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、ブレンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーという代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①パイオンの取り方 ②オムレツのつくり方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング
8	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、ブレンオムレツ、グリーンサラダ、カップケーキ、レモンティーという代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①パイオンの取り方 ②オムレツのつくり方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	日本料理 旬の素材のたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめの味噌汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラのつくり方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理法 ②味付け飯の種類とつくり方 ③煮干出しの取りかた、味噌の種類と味噌汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣のつくり方と揚げ方 ⑤和風菓子の代表であるカステラのつくり方
10	日本料理 旬の素材のたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめの味噌汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラのつくり方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理法 ②味付け飯の種類とつくり方 ③煮干出しの取りかた、味噌の種類と味噌汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣のつくり方と揚げ方 ⑤和風菓子の代表であるカステラのつくり方
11	中国料理 日本で食される代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆腐、ジャスミン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた
12	中国料理 日本で食される代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆腐、ジャスミン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた
13	イタリア料理 日本で食される代表的なイタリア料理	ペネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理のつくり方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザのつくり方 ③デザート（パンナコッタ）のつくり方
14	イタリア料理 日本で食される代表的なイタリア料理	ペネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理のつくり方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザのつくり方 ③デザート（パンナコッタ）のつくり方
15	調理理論： 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方の実習と食中毒防止の基本について理解する。 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と防止法
16	調理理論： 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方の実習と食中毒防止の基本について理解する。 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と防止法
17	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルゴギ、チャプチェ、キムチチゲ、チャプサルパブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣
18	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルゴギ、チャプチェ、キムチチゲ、チャプサルパブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣
19	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方
20	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんかけ、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方
21	中国料理 日本で食される代表的な中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープのつくり方 ④中国の代表的なデザートのつくり方

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	中国料理 日本で食される代表的な中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理の作り方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープの作り方 ④中国の代表的なデザート（デザート）の作り方
23	日本料理 いわしの手開きと調理	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、キュウイ寒の作り方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と調理方法 ②卵の花の炒り煮の作り方 ③寒天の使い方
24	日本料理 いわしの手開きと調理	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、キュウイ寒の作り方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と調理方法 ②卵の花の炒り煮の作り方 ③寒天の使い方
25	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮（ラタトゥユ）、手羽中の香り揚げ、フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピで夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチの作り方
26	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮（ラタトゥユ）、手羽中の香り揚げ、フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピで夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチの作り方
27	自由課題（米料理）	米料理をテーマとした夕食献立を実習する。 予算（350円/人）内で献立を作成し、材料の購入から調理までをグループで実施し、実践力を身につける。
28	自由課題（米料理）	米料理をテーマとした夕食献立を実習する。 予算（350円/人）内で献立を作成し、材料の購入から調理までをグループで実施し、実践力を身につける。
29	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん（付け合せとして野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味）の作り方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理の仕方 ②野菜の天ぷら（かきあげ）の作り方 ③和菓子（ずんだ）の作り方
30	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん（付け合せとして野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味）の作り方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理の仕方 ②野菜の天ぷら（かきあげ）の作り方 ③和菓子（ずんだ）の作り方

科目名	調理学演習		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択
担当教員	武井 玲子, 大泉 由美			
開講期	前期			
授業概要	様々な健康状態の高齢者がおいしく楽しめる介護食をつくるための基礎的な調理知識と技術を学修する。そのために、まずは一般的なスローフードに配慮したレシピでの調理を経験し、基礎を修得する。さらに、自宅での実践で応用力を身につける。演習する調理内容は、高校家庭科教科書に採用されている料理レシピやスローフード視点から選択した世界各国の代表的な料理をグループワークで学ぶ。15回の演習を通じて、調理学の基本的な知識や技術修得とともに食材の栄養価や色・形・味・香などの調理による変化とその理由を五感で理解する。また、レポートを作成することにより、観察力とレポートの書き方を学ぶ。			
達成目標	①野菜や魚の様々な切り方を習得し、教えることができる。 ②ダン（和食）の取りかた、煮物、和え物、など料理の基本を理解し実践できる。 ③加熱の仕方、洗い方など基本を理解し実践できる。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	①授業態度：30点 ②実技：30点 ③レポート：40点	
教科書	プリント配布			
参考書	No2被服学研究室所蔵図書			
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学実習の一環と考え、積極的に取り組むこと。 また、豊かな食生活は家族団楽を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。			
オフィスタイム	火曜日（2コマ）：NO2被服学研究室 水曜日（全日）：NO2被服学研究室			
自学自習	事前学習：予定のレシピに使用されている食材や調理内容について市場調査や文献調査をすること（1時間）。 事後学習：レポートを作成すること、実習内容は自宅で実践してみること（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ・切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での復習が重要であることを理解する。 授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオを通して学ぶ。
2	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／ 食材の下ごしらえ・切り方 など（ビデオ学習）	①シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受ける心構えとして、レポート作成と自宅での復習が重要であることを理解する。 授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。 ②調理の基本として野菜・魚介類の下ごしらえ、テーブルマナー（和洋中華・パーティ料理）をビデオを通して学ぶ。
3	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方洗い方の基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。
4	ガイダンス（2） 実習室・調理器具・文化鍋 の使い方／春野菜を使った メニュー	①調理実習室の使い方、調理器具の使い方洗い方の基本を理解する。 ②文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリーのつくり方を学ぶ。
5	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、ブラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方、米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴
6	日本料理 丼物と澄まし汁、和え物	三色丼、菊花豆腐とえのきたけの澄まし汁、青菜のゴマ和え、ブラマンジェの和食料理を学ぶ。 ①丼ものの種類とつくり方、米の種類と調理上の性質、無洗米 ②和風煮出し汁の種類と取りかた、汁の分類 ③野菜の色の発色方法とゆで方 ④和え物料理の種類と特徴
7	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、ブレンオムレツ、グリーンサラダン、カップケーキ、レモンティーの代表的な西洋料理の紀伊本を学ぶ。 ①フィヨンの取り方 ②オムレツのつくり方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング
8	西洋料理 西洋料理の基本	コンソメジュリアン、ブレンオムレツ、グリーンサラダン、カップケーキ、レモンティーの代表的な西洋料理の紀伊本を学ぶ。 ①フィヨンの取り方 ②オムレツのつくり方 ③紅茶の入れ方とサーブ方法 ④西洋料理のテーブルセッティング

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	日本料理 旬の素材であるたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめのみそ汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラのつくり方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理用 ②味付け飯の種類とつくり方 ③煮干し出しのとり方、みその種類とみそ汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣のつくり方と揚げ方 ⑤カステラのつくり方
10	日本料理 旬の素材であるたけのこ料理	たけのこ飯、たけのことわかめのみそ汁、たけのこの味付き天ぷらという代表的なたけのこ料理とカステラのつくり方を学ぶ。 ①たけのこの下ごしらえと部位別料理用 ②味付け飯の種類とつくり方 ③煮干し出しのとり方、みその種類とみそ汁の具の取り合わせ ④天ぷらの材料と下ごしらえ、衣のつくり方と揚げ方 ⑤カステラのつくり方
11	中国料理 代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆、ジャスミン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた
12	中国料理 代表的な中国料理	ピーマンと牛肉の炒め物、わんたんスープ、ナイ豆、ジャスミン茶の代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①中国料理の基本と特徴 ②寒天の扱い方 ③中国茶の種類と入れ方 ④中国料理の配膳のしかた
13	イタリア料理 代表的なイタリア料理	ペネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理のつくり方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザのつくり方 ③デザート（パンナコッタ）のつくり方
14	イタリア料理 代表的なイタリア料理	ペネアマトリチャーナ、ブロッコリーのにんにくソテー、キャベツのスープ、ピザ、パンナコッタという代表的なイタリア料理のつくり方を学ぶ。 ①パスタの種類と調理方法 ②ピザのつくり方 ③デザート（パンナコッタ）のつくり方
15	調理理論 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と予防
16	調理理論 卵の調理上の性質／野菜の切り方／食中毒の種類と予防	卵の性質と調理、野菜の切り方 ①卵の形状と鮮度判定法／卵の調理上の性質 ②各種卵料理（金糸卵、ゆで卵、カスタードプリン）のつくり方 ③マヨネーズのつくり方 ④野菜の切り方 ⑤食中毒の種類と予防
17	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルコギ、チャプチェ、キムチチゲ、チャプサルパブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣
18	韓国料理 代表的な韓国料理	ブルコギ、チャプチェ、キムチチゲ、チャプサルパブ、韓国風サラダ、ホットクという代表的な韓国料理のつくり方を学ぶ。 ①韓国料理の特色、ヤンニョムの特徴と使い方 ②韓国の食習慣
19	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんか、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方
20	日本料理 代表的な家庭料理	五目飯、海老しんじょ汁、蕪のそぼろあんか、蕪の即席漬け、チーズケーキのつくり方を学ぶ。 ①味付け飯（五目飯）のつくり方 ②しんじょのつくり方 ③そぼろあんのつくり方 ④ベイクドチーズケーキのつくり方
21	中国料理 日本で好まれる中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープのつくり方 ④中国の代表的な菓子のつくり方

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	中国料理 日本で好まれる中国料理	八宝菜、春巻、粟米湯、杏仁餅という日本で親しまれている代表的な中国料理の作り方を学ぶ。 ①八宝菜を例として、中国料理の炒め煮の基本 ②イカの下ごしらえ ③とろみのあるスープの作り方 ④中国の代表的な菓子の作り方
23	日本食 旬のいわしの手開き、同じ素材でおかずとお澄しつくり	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、キュウイ寒の作り方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と料理方法 ②卵の花の炒り煮の作り方 ③寒天の使い方
24	日本食 旬のいわしの手開き、同じ素材でおかずとお澄しつくり	いわしの大葉巻き唐揚げ、卵の花、沢煮椀、ご飯、キュウイ寒の作り方を学ぶ。 ①いわしの手開き方法と料理方法 ②卵の花の炒り煮の作り方 ③寒天の使い方
25	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮（ラタトウユ）、手羽中の香り揚げ、フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピで夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチの作り方
26	夏のおもてなし料理	夏野菜の炒め煮（ラタトウユ）、手羽中の香り揚げ、フランスパンのサンドイッチ、パンナコッタのレシピで夏のおもてなし料理を演出する。 ①夏野菜の使い方 ②鶏肉の部位別調理方法 ③簡単サンドイッチの作り方
27	自由課題（米料理）	米料理をテーマとした夕食献立を実践する。 予算（350円/人）内で献立を作成から材料の購入、調理までをグループで実施、実践力を身につける。
28	自由課題（米料理）	米料理をテーマとした夕食献立を実践する。 予算（350円/人）内で献立を作成から材料の購入、調理までをグループで実施、実践力を身につける。
29	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん（付け合せ：野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味）の作り方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理 ②野菜の天ぷら（かきあげ）の作り方 ③和菓子（ずんだ）の作り方
30	日本料理 夏の代表的な日本料理	冷やしそうめん（付け合せ：野菜かき揚げ、酒蒸し鶏、薬味）の作り方を体験する。 ①うどん、そうめん類の種類と基本調理 ②野菜の天ぷら（かきあげ）の作り方 ③和菓子（ずんだ）の作り方

平成29年度

科目名	住生活概論	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 1年 2単位 必修/家政学部 人間生活学科 福祉コース 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	前期		
授業概要	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。		
達成目標	①わが国の住宅におけるMD及び気候風土との関連について理解する。 ②家族と間取りとの関連について考察する。 ③UD住宅の在り方について理解する。 ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。		
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	①定期試験70% ②提出図面30%
教科書	私たちの住居学—サステナブル社会の住まいと暮らし		
参考書	「住宅の計画学入門」鹿島出版会 「ガ・インク・キッチンはどうして誕生した」技報堂出版		
学生への要望	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。		
オフィスタイム	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)		
自学自習	予習：住まいにおける問題について常に興味関心を持ち、問題点を把握する(1時間)。 復習：問題解決に向けての方策を考える(1時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明します。次に、身近な福島の住宅デザインの変遷について学び、建築デザインが決定する要素を考える。

平成29年度

科目名	家庭電気・機械	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	後期		
授業概要	日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができている。しかし、これらの機器は利便性を与えるだけでなく、時には危険性も与える。そこで機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理および構造を学ぶ。		
達成目標	本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2) 機械の動作原理の理解すること、(3) 家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	課題(理解度の確認) 2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。成績評価の観点から、1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996) 小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002) 横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版 (1993) 		
学生への要望	基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 火曜日 12:50-14:20, No.1 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		
自学自習	事前学習: 学習する内容に現れる未知の単語等について調べる (20分) 事後学習: 返却された確認ペーパーのコメントを確認すること。また、内容の確認・整理を行うこと (60分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	講義の目的と内容・成績評価の方法などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習する。

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	阿部 恵利子		
開講期	通年		
授業概要	2年次までに学んだ建築学と個々人の将来を見据えて、興味ある卒業研究テーマを決定する。		
達成目標	研究方法やその進め方、各種分析の方法を把握し、論文構成や文体を学ぶ。		
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	①自主性・積極性などの取り組み姿勢50% ②研究報告・発表50%
教科書	資料を配布する。		
参考書	個々に指導・提示する。		
学生への要望	様々な論文を読み、積極的に調査をすすめること。また、建築に関わることに問題意識を持つこと。		
オフィスタイム	住居学研究室 月曜IV時限 (14:30~16:00) 水曜IV時限 (14:30~16:00)		
自学自習	先行研究を読み、調査をすすめる(毎週3時間)。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	今後のゼミの進め方	研究テーマ決定の際に研究の目的や、独自性、研究結果の仮設が重要であることについて解説する。
2	研究方法について	研究の目的によって、研究方法が多数あることを事例を踏まえて述べる。
3	研究の時間配分	限られた時間の中で研究を達成する為に、研究に要する時間の配分について、各々が考えることを促す。また、この作業が社会に出てからの仕事にも重要であること述べる。
4	章立てについて	予め論文の章立てをすることにより、全体を把握することの重要性について述べる。
5	アンケート調査について	アンケート調査の質問方法について、事例を用いて説明する。質問方法によって回答を導くことの弊害等についても述べる。また、SD法の質問による統計処理について説明する。
6	統計処理 1	統計処理の利点と弊害について述べる。続いてアンケート調査に必要な単純集計の手法について述べる。
7	統計処理 2	クロス集計の手法と意義について述べる。
8	統計処理 3	SD法による調査における、相関関係、相関係数について説明する。
9	統計処理 4	エクセルを用いて因子分析の意味と手法を学ぶ。
10	統計処理 5	例題を与えて因子分析の分析結果を読む学習を行う。
11	統計処理 6	エクセルを用いて主成分分析の意味と手法を学ぶ。
12	統計処理 7	例題を与えて主成分分析の分析結果を読む学習を行う。
13	研究テーマの模索 1	興味のある研究テーマについて考える。
14	研究テーマの模索 2	引き続き、興味のある研究テーマについて考える。
15	研究テーマの決定 1	個々に研究テーマを決定する。
16	先行研究の調査 1	研究の独自性が最も重要であることから、先行研究の調査が必要であることを述べ、先行研究に親しむことを促す。
17	先行研究の調査 2	決定した研究テーマに関する先行研究の調査を進める。
18	先行研究の調査 3	引き続き、先行研究の調査を進める。
19	先行研究の調査 4	引き続き、先行研究の調査を進める。
20	研究方法決定	テーマに対する有効性を検討し、研究方法を決定する。
21	論文構成の検討	論文全体の構成を考える。
22	論文の章立て	論文の章立てについて検討する。
23	研究テーマ発表	個々に研究テーマ・研究方法・章立てについて発表し、その有効性について討論する。
24	研究テーマの決定 2	前回のテーマに関して、改善点を検討する。以後、個人指導とする。
25	研究計画と資料収集 1	研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。
26	研究計画と資料収集 2	継続して、研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。
27	調査研究と資料収集 3	研究計画の基づき、調査研究を開始する。また、テーマに沿った資料を収集する。
28	調査研究と資料収集 4	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。
29	調査研究と資料収集 5	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。
30	研究経過報告	これまでの作業を振り返って、来年度の論文完成に向けての予定を立てる。

平成29年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	小阪 康治			
開講期	通年			
授業概要	自分のテーマを見つけ、論文を書く。			
達成目標	自分のテーマを見つけ、論文を書く。			
受講資格	人間生活学科3・4年生	成績評価 方法	提出物について評価	
教科書	なし			
参考書	その都度指示する			
学生への要望	課題をきちんと提出すること。			
オフィスタイム	火曜日昼休み。研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	論文の書き方説明	
2	書いてきたものを批評す	
3	書いてきたものを批評す	
4	書いてきたものを批評す	
5	テーマに関する文章を読んで分析する。	
6	書いてきたものを批評す	
7	書いてきたものを批評す	
8	書いてきたものを批評す	
9	テーマに関する文章を読んで分析する。	
10	書いてきたものを批評す	
11	書いてきたものを批評す	
12	書いてきたものを批評す	
13	テーマに関する文章を読んで分析する。	
14	書いてきたものを批評す	
15	今学期の反省と来学期の計画	
16	今学期の予定。	
17	書いてきたものを批評す	
18	書いてきたものを批評す	
19	書いてきたものを批評す	
20	テーマに関する文章を読んで分析する。	
21	書いてきたものを批評す	
22	書いてきたものを批評す	
23	テーマに関する文章を読んで分析する。	
24	書いてきたものを批評す	
25	書いてきたものを批評す	
26	書いてきたものを批評す	
27	テーマに関する文章を読んで分析する。	
28	書いてきたものを批評す	
29	卒論提出のための全体の見直し	
30	卒論提出	

平成29年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究は、大学での学修のまとめである。 これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につける。そして論文執筆方法を習得・体得する。			
達成目標	①これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたか。 ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につけることができたか。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	レポート60%、プレゼン40%	
教科書	特になし			
参考書	適宜、提示します。			
学生への要望	1. 進捗状況は細かく報告すること 2. 能動的ではなく積極的に行動			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限 (12:50~14:20) 木曜Ⅱ限 (10:30~12:00) 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：テーマについて多角的に検討すること (1時間) 事後学習：ゼミでの内容を踏まえて、テーマにまとめ (1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 研究とは 2. 今後のスケジュールの検討
2	卒業論文執筆の事始め (1)	1. 論文とレポートの違い 2. 興味・関心のカウンセリング
3	卒業論文執筆の事始め (2)	1. コピペと剽窃 2. 「意見」と「事実」
4	卒業論文執筆の事始め (3)	1. 資料の収集方法
5	卒業論文執筆の事始め (4)	1. 様々な分析方法
6	研究テーマ設定 (1)	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
7	研究テーマ設定 (2)	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
8	研究テーマ設定 (3)	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
9	研究テーマ設定 (4)	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
10	研究テーマ設定 (5)	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
11	訪問調査 (1) □	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
12	訪問調査 (2)	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
13	訪問調査 (3)	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
14	訪問調査 (4)	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
15	中間まとめ	1. 研究テーマの仮報告 2. スケジュール確認
16	研究テーマの決定	1. 研究テーマの決定
17	資料収集・分析 (1)	1. 資料収集 2. 資料分析
18	資料収集・分析 (2)	1. 資料収集 2. 資料分析
19	資料収集・分析 (3)	1. 資料収集 2. 資料分析
20	資料収集・分析 (4)	1. 資料収集 2. 資料分析
21	資料収集・分析 (5)	1. 資料収集 2. 資料分析
22	資料収集・分析 (6)	1. 資料収集 2. 資料分析

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	資料収集・分析（7）	1. 資料収集 2. 資料分析
24	資料収集・分析（8）	1. 資料収集 2. 資料分析
25	資料収集・分析（9）	1. 資料収集 2. 資料分析
26	卒業論文執筆の事始め（5）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
27	卒業論文執筆の事始め（6）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
28	卒業論文執筆の事始め（7）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
29	中間報告（1）	1. 論文執筆状況の報告 2. 今後のスケジュール
30	中間報告（2）	1. 中間報告の批判 2. 研究スケジュールの検討

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	難波 めぐみ, 佐久間 邦友			
開講期	通年			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 卒業研究は、大学の学修の集大成として、総合的に学問を捉え、主体的に新たな発想力をもって物事の本質を見極め、学問への探求を忘れず、専門分野での新たな知見を得られるような人材の育成を目指すことを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 I. 研究テーマの設定1、先行研究論文の収集。2、先行調査の分析。3、テーマの設定。II. 設定テーマを基に、関連書籍、論文などのデータ収集、解析、分析、経過発表、学生間の討論を行う。</p>			
達成目標	<p>〔到達目標〕 ①論文調査方法を学び、自分にあった方法を理解する。 ②論文の構成を理解する。</p>			
受講資格	特になし。	成績評価方法	①平常点30%（卒研に取り組む姿勢）、②報告会及び課題提出状況30%、③途中経過状況40%、①～③の総合評価60点以上で単位認定する。	
教科書	論文課題に対応し提示。			
参考書	随時案内する。			
学生への要望	1. 指定日に必ず出席すること。 次週までに終わらせる（場合により、話し合いで変更する）。 に努力を惜みず積極的に望む。			
オフィスタイム	（前期）木曜日 I、II（9:30～11:30）（後期）月曜日 I、II（9:30～11:30）家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、ゼミ終了後確認して下さい。			
自学自習	予習：関連する分野の新聞記事などをノートにまとめる。また、指定した資料を事前に読みまわめておくこと（1時間） 復習：受講内容や学修した内容などをノートにまとめ論文制作をすすめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1年間の内容と留意事項
2	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査
3	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査
4	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査
5	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ
6	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ
7	テーマ設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ
8	テーマ設定	第2回から第7回までに行った、先行研究分析から、最も興味関心を持ったテーマを取り上げ、書籍収集、先行研究収集等をし、第10回の討論会準備を行う。
9	テーマ設定	第8回に引き続き、討論会準備を行う。
10	仮テーマにおける討論会	仮テーマをもとに調査をおこなった内容を発表する。討論会形式とする。
11	仮論文テーマにおける討論	第10回仮テーマにおける討論会をおこない、論文制作が可能か検討。
12	論文テーマ設定	第11回からテーマ選定。第10回において論文テーマの選定に至らなかった場合は、再度調査発表を行い決定する。
13	論文作成方法を学ぶ	文献調査による調査方法とは。
14	論文作成方法を学ぶ	データ分析による調査方法とは。
15	論文作成方法を学ぶ	調査方法を選定し、進め方を決定する。
16	資料収集	調査方法が決定したのち、論文制作に必要な参考資料等の収集を行う。
17	資料収集	第16回同様に資料等の収集を行う。
18	資料分析調査	第16回から17回までに収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。
19	資料分析調査	第18回同様に、収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。
20	資料分析調査	第19回までに行った調査分析から、論文タイトル（サブの有る場合は、サブタイトルも考える）、論文の章立てを考える。
21	資料分析調査	第20回同様に論文タイトル、章立てを行い指導教員に確認を得る。
22	調査及び資料収集	調査方法として、アンケートを希望（必要）とする場合は、アンケート項目の選定を行う。
23	調査及び資料収集	アンケート内容項目の選定、確認が済み次第、アンケート調査に取り掛かる。
24	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載することを徹底する。
25	調査及び資料収集	第24回同様に、調査及び資料収集に努める。
26	論文制作	第25回目までに、必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。
27	論文制作	第26回同様に、章立て通り分類を行う。
28	論文制作	章立て通りに分類が終了後、論文執筆に取り掛かる。まずは、はじめに（序）を記載し、第29回までに1度提出をすすめる。
29	論文制作	第28回において提示した、はじめに（序）の添削をおこなう。指導教員の指示に従いながら書き方を学んでいく。修正後再度提出することを繰り返す。
30	論文制作	第29回において、はじめに（序）の添削をおこなった結果を受けて、再度提出した内容の確認をする。以降、春休みを使って資料収集及び論文の制作に取り組み卒業研究Ⅱに向けて準備を整えていく。

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	石原 正道			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究の内容は物理・情報に関する研究のみならず、計量文献学・応用統計など非常に多岐に渡ります。卒業研究Iでは主に研究を進めるための基礎的な知識と技術を得ることを目的とします。テーマによって異なりますが、統計処理・数的な処理(数式の演算)・プログラミングなどを学ぶこととなります(建築デザインコース向けの研究では数式は扱うものと考えてください)。			
達成目標	卒業研究では(1)問題を発見する力を養うこと、(2)課題を解決するために、資料を収集し、考察を行い、結論を導く力を得ること、(3)結論を伝達するための、論理的な文章の作成力・発表技術を身につけること、を養成することを目標とします。卒業研究Iでは、これらの目標を達成するための基礎的な知識と技術を得るため、(1) 数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、(2) 大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を目標とします。			
受講資格	なし	成績評価 方法	研究を進める上で必要となる基礎的な知識と能力の習得状況により判定します。 具体的には、統計処理の技術や数的な処理などの研究テーマにより必要とされる知識等の習得上によって判断します。	
教科書	適宜提示する。			
参考書	適宜提示する。			
学生への要望	卒業研究を完了するには自学自習する必要があります。目標を明確にし自学自習を進めてください。 次のページも研究室選択の材料としてください。 http://home.koriyama-kgc.ac.jp/~m_isihar/sotsuken.html			
オフィスタイム	前期 月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 木曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 後期 月曜日 16:10-17:05, No.1 情報処理教育研究室 火曜日 12:50-14:20, No.1 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp			
自学自習	事前学習：次回に学修する内容および前回の授業で指摘された点について文献等にあたり、内容を把握しておくこと。(90分) 事後学習：学修した内容の確認・整理を行うこと(60分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。
2	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。
3	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
4	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
5	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
6	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
7	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
8	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
9	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
10	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
11	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
12	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
13	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
14	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
15	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。
16	基礎事項習得状況の確認	卒業研究前半の基礎事項習得状況を確認します。
17	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
18	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
19	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
20	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。
21	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
23	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
24	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
25	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
26	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
27	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
28	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
29	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。
30	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。 また必要に応じて、更に文献を収集していきます。

平成29年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修や体験、また専門的な知識・技術を基に自らの疑問を明らかにして、研究テーマを確定する。			
達成目標	自らのテーマに対して、その答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得することができる。 1. 明確にしたい解決すべき現象・問題などを絞り込み、研究課題を決定する。 2. 研究目的を明らかにする。 3. 研究目的にそって研究計画をたてる。 4. 研究計画にそってデータを収集し、分析を行う。			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告・演習等の発表50%	
教科書	随時、印刷物の配布			
参考書	授業内で随時紹介			
学生への要望	疑問をどのようにもつのか、そのプロセスを認識して主体的に発表すること。			
オフィスタイム	・水曜日 I 時限 ・木曜日 I 限 創学館4階 No.1 研究室			
自学自習	予習：テーマに関係した課題について、情報収集からアセスメントまでを毎回実施して発表の準備を行うこと（2時間） 復讐：発表時の質疑を受けて、さらに調査し理論的に整理しておくこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究の意義、進め方について学ぶ。
2	テーマ設定に向けて (1)	研究テーマの設定についての方向性を明確にする。
3	テーマ設定に向けて (2)	学生が関心を持っている研究内容についてディスカッション
4	論文の書き方 (1)	卒業論文の書き方について解説する。 ・論文のきまり ・引用文献 ・専門用語の定義のしかた
5	論文の書き方 (2)	文献の必要性 ・文献などの探し方 ・データの収集方法 ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用
6	論文の書き方 (3)	参考文献の活用法 ・参考文献の読み方 ・データのまとめ方
7	研究手法について (1)	量的研究 ・アンケート調査に関する基本的知識について
8	研究手法について (2)	量的研究 ・アンケート調査の方法について
9	研究手法について (3)	質的研究 ・面接調査に関する基本的知識
10	研究手法について (4)	質的研究 ・面接調査の方法について学ぶ
11	テーマ設定に向けて (3)	研究テーマを決定する。
12	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。
13	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。
14	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。
15	研究計画 (1)	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。
16	研究計画 (2)	研究テーマにおける、研究方法を決定する。
17	研究計画 (3)	策定した研究計画の妥当性を検討する。
18	調査内容の検討	調査内容の検討及び調査項目の作成
19	調査内容の検討	調査内容の検討及び調査項目の作成
20	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
21	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
22	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
23	研究の実施	研究計画に基づき、調査を実施する。
24	情報処理	データのとりまとめ
25	情報処理	データのとりまとめ
26	情報処理	データのとりまとめ
27	情報処理	データの分析
28	情報処理	データの分析
29	情報処理	データの分析
30	研究計画の確認	4年次にむけ、研究の進捗状況を確認する

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	佐藤 典子			
開講期	通年			
授業概要	<p>大学での学びの集大成として、意欲的、主体的に研究に挑戦することをとおして、自分の研究したいテーマの方向性を絞り込むことを目的とする。</p> <p>1年目（3年生）は、自分の興味・関心のあることについて、研究計画書を作成し、ゼミを通して研究テーマの絞り込みを行い、研究の基本的な手法（先行研究の整理、論文の収集法、アンケート調査の方法等）を修得する。</p> <p>2年目（4年生）は、絞り込んだテーマに基づいてアンケート調査、インタビュー調査、論文執筆（論文の書き方、執筆要項の順守など）を行う。夏休みには、10月末の卒業研究発表会を踏まえて、効果的なプレゼンテーションを意識したパワーポイントの作成を行うことで、学会等での口頭発表の基礎力を培う。1月末までに論文執筆を終えることを目指す。</p>			
達成目標	<p>大学での学びの集大成として、意欲的、主体的に研究に挑戦することをとおして、自分の研究したいテーマの方向性を絞り込むことを目的とする。</p> <p>1年目（3年生）は、自分の興味・関心のあることについて、研究計画書を作成し、ゼミを通して研究テーマの絞り込みを行い、研究の基本的な手法（先行研究の整理、論文の収集法、アンケート調査の方法等）を修得する。</p> <p>2年目（4年生）は、絞り込んだテーマに基づいてアンケート調査、インタビュー調査、論文執筆（論文の書き方、執筆要項の順守など）を行う。夏休みには、10月末の卒業研究発表会を踏まえて、効果的なプレゼンテーションを意識したパワーポイントの作成を行うことで、学会等での口頭発表の基礎力を培う。1月末までに論文執筆を終えることを目指す。</p>			
受講資格	主体的に「自分の研究」を切り拓いて進めることができる者	成績評価 方法	研究計画書の作成10点、アンケート調査・インタビュー調査20点、卒業研究発表会20点、論文50点の総合評価とする。	
教科書	研究内容によって、指導の中で紹介する。			
参考書	研究指導の中で、必要に応じて紹介する。			
学生への要望	<p>受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨んで欲しい。</p> <p>卒業研究を論文にまとめる際は、章立てをよく考え、説得力のある文章構成を目指し、何度も推敲し完成させて欲しい。</p> <p>事前学修：次の授業までの課題を自己学修し、疑問点を確認しておくこと。（60分）</p> <p>事後学修：授業を踏まえて、課題に取り組み、論文を作成していくこと。（60分）</p>			
オフィスタイム	<p>前期：火（I・IIコマ）、木（I・IIコマ）</p> <p>後期：火（II・IVコマ）</p> <p>場所：教職課程推進室</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 研究とは 2. 研究の進め方 ～今後のスケジュール～
2	卒業研究の進め方 その①	1. レポートと論文のちがいは 2. 論文の章立てについて
3	卒業研究の進め方 その②	1. 研究計画書の作成のしかた
4	卒業研究の進め方 その③	1. 研究ノートの作成方法について
5	卒業研究の進め方 その④	1. 研究論文や資料の収集方法について
6	卒業研究の進め方 その⑤	1. 研究方法について 2. 研究の分析方法について
7	研究テーマの設定 その①	1. 興味・関心のあることについて検討する
8	研究テーマの設定 その②	1. 興味・関心のあることについて検討する
9	研究テーマの設定 その③	1. 先行研究の検討 2. テーマの検討
10	研究テーマの設定 その④	1. 先行研究の検討 2. テーマの検討
11	訪問調査 その①	1. テーマに関する見学等 2. 関係者へのインタビュー等
12	訪問調査 その②	1. テーマに関する見学等 2. 関係者へのインタビュー等
13	訪問調査 その③	1. テーマに関する見学等 2. 関係者へのインタビュー等
14	訪問調査 その④	1. テーマに関する見学等 2. 関係者へのインタビュー等
15	中間まとめ	1. 研究計画書のプレゼンテーション
16	研究計画書の完成	1. 研究テーマの決定 2. 研究のスケジュール確認
17	研究資料の収集と分析 その①	1. 資料の収集 2. 試料の分析
18	研究資料の収集と分析 その②	1. 資料の収集 2. 試料の分析
19	研究資料の収集と分析 その③	1. 資料の収集 2. 試料の分析
20	研究資料の収集と分析 その④	1. 資料の収集 2. 試料の分析
21	研究資料の収集と分析 その⑤	1. 資料の収集 2. 試料の分析

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	研究資料の収集と分析 その⑥	1. 資料の収集 2. 試料の分析
23	研究資料の収集と分析 その⑦	1. 資料の収集 2. 試料の分析
24	研究資料の収集と分析 その⑧	1. 資料の収集 2. 試料の分析
25	研究資料の収集と分析 その⑨	1. 資料の収集 2. 試料の分析
26	卒業論文執筆に向けて その①	1. 執筆の決まりごと
27	卒業論文執筆に向けて その②	1. 執筆の決まりごと
28	卒業論文執筆に向けて その③	1. 執筆の決まりごと
29	中間報告 その①	1. 論文要旨の作成 2. 文章表現法
30	中間報告 その②	1. 論文要旨の修正 2. 後半に向けてのスケジュール確認

平成29年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	熊田 伸子,			
開講期	通年			
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている 卒業研究 I では、先行研究を調査、分析することで、自身のテーマ・目的を明確にし、テーマに即した研究手法を習得する 			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> テーマに関する基礎的な知識が理解できている テーマに即した研究手法が習得できている 			
受講資格	人間生活学科学生	成績評価方法	出席40%、課題30%、経過報告・演習等の発表30%	
教科書	特になし			
参考書	地域福祉情報、月刊福祉 その他、随時紹介する			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関するテーマについて、日常生活においても常に意識を持っていることが大切です。 自主的に取り組んでください 			
オフィスタイム	月曜日及び金曜日の3時限、 創学館4階No.6 研究室			
自学自習	予習：テーマに関する情報の収集等（1時間） 復習：指導内容の確認（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の意義 卒業研究の進め方 研究室のこれまでの論文の紹介
2	卒業研究のテーマについて	<ul style="list-style-type: none"> 学生が問題意識や関心を持っているテーマについてディスカッションを行う
3	卒業研究のテーマについて	<ul style="list-style-type: none"> 福祉分野の問題や課題について学ぶ
4	研究手法① 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> 文献などの探し方 データの収集場所 新聞記事の切り抜きと辞書の活用
5	研究手法② 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> 参考文献の活用法 参考文献の読み方 データのまとめ方
6	研究手法③ 文献研究	<ul style="list-style-type: none"> 文献検索の方法について学ぶ
7	研究方法Ⅳ④ 量的調査	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査に関する基本的知識について
8	研究方法⑤ 量的調査	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の方法について
9	研究方法⑥ 質的調査	<ul style="list-style-type: none"> 面接調査に関する基本的知識
10	研究方法⑦ 質的調査	<ul style="list-style-type: none"> 面接調査の方法について
11	テーマの検討	<ul style="list-style-type: none"> 地域における福祉の問題や課題について学ぶ
12	テーマの検討	<ul style="list-style-type: none"> 地域における福祉の問題や課題の中から関心のあるテーマや問題意識を持っているテーマについてまとめ、発表
13	先行研究調査	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する先行研究について調べる
14	研究計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> おおよその研究計画を立てる
15	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究 随時、進捗状況を報告する
16	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
17	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
18	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
19	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
20	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
21	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
22	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
23	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
24	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
25	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
26	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
27	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
28	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
29	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究
30	基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 卒論執筆のための基礎研究 4年次にむけ、研究計画を再検討する

科目名	卒業研究 I		
担当教員	長田 城治		
開講期	通年		
対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択		
	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行う。 2年次までに学んだ建築に関する知識を活かし、ゼミ内で実施する各種調査活動に参加することで、自身が興味ある卒業研究テーマを決定する。 具体的な課題を通して、研究方法やその進め方、各種分析の方法を習得し、論文の書き方を習得する。		
達成目標	①各種調査活動に参加し、自身が興味を持つテーマを設定しする。 ②先行研究を調査し、自身のテーマの新規性を把握する。 研究テーマにおいて、自身の研究が「対象」・「視点」・「方法」のうち、どの部分が新しいのかを把握して、研究目的を執筆すること。 ③論文の書き方を習得すること。		
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	提出課題80%、作業姿勢や対応20%
教科書	資料を配布する		
参考書	個々に指導する		
学生への要望	積極的に調査活動をすすめること。関連する様々な論文を読破し、建築に関わることに問題意識を持つこと。		
オフィスタイム	通年：月曜日 8：50～10：20 木曜日 8：50～10：20 創学館4F No.3研究室		
自学自習	予習・復習：自身の課題を整理し、ゼミで指導を受けた内容を基に研究を進めること。（各1時間）		

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	卒業論文作成のための手引き1	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1.論文とレポート・報告の違いについて 2.論文に必要な新規性を有すには 対象・視点・方法
2	卒業論文作成のための手引き2	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1.先行研究の探し方と要点の把握について
3	卒業論文作成のための手引き3	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。 1.文章の書き方について 2.資料の収集方法について
4	実地課題1	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
5	実地課題2	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
6	実地課題3	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
7	実地課題4	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
8	実地課題5	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
9	実地課題6	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
10	実地課題7	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。
11	実地課題発表	機器を用いて実地課題をビジュアルに発表します。
12	文献・史料課題1	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
13	文献・史料課題2	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
14	文献・史料課題3	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
15	文献・史料課題4	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
16	文献・史料課題5	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
17	文献・史料課題6	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
18	文献・史料課題7	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。
19	文献・資料課題発表	機器を用いて文献・資料課題をビジュアルに発表します。
20	テーマ設定のための基礎調査1	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
21	テーマ設定のための基礎調査2	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。
22	テーマ設定のための基礎調査3	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。
23	テーマ設定のための基礎調査4	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。
24	テーマ設定のための基礎調査5	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査を行う。
25	卒業論文テーマ発表	これまでの調査・検討内容を踏まえ、研究の目的と方法について発表する。 これから行う卒業研究が対象・方法・視点のうち、どの点に新規性を有すのか、他の研究との比較を通して発表する。
26	先行研究の整理と研究計画の決定1	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
27	先行研究の整理と研究計画の決定2	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
28	先行研究の整理と研究計画の決定3	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
29	先行研究の整理と研究計画の決定4	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。
30	先行研究の整理と研究計画の決定5	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定する。

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	堀 琴美			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] このゼミでは、学生にとって身近な問題意識や「知りたい」気持ちを大切にテーマ設定を心がけています。堀の専門は臨床心理学なので、指導可能な内容は、虐待関連問題、施設の相談支援の在り方、女性の生き方や家族の問題、大学生の友人・恋愛・家族関係、電子メディアとメンタルヘルス、各種意識調査など。			
達成目標	[授業修了時の達成課題（到達目標）] 3年次は、周辺の問題を俯瞰しながら、漠然としたテーマをどんどん絞り込んでいき、4年次の少し前にはテーマが設定される（仮タイトルができる）ことが目標です。そのための文献探索、資料あつめ、先行研究の把握がこのゼミの主な柱となります。			
受講資格	なし	成績評価 方法	ゼミにおける調査・発表内容（40%）、3年終了時「研究計画」の具体性・独自性・論理性等（40%）、文献・資料探索調査努力（30%）	
教科書	テーマ別に提示			
参考書	テーマ別に提示			
学生への要望	テーマを絞り込む過程では、迷ったり、壁にぶつかったり、戻ったりしながら、1年をかけて自分の知りたいことをクリアカット（明確化）していきます。3年生の主な学習方法は、文献探索。なるべく多くの資料に触れ、良い文献を見つけ出してください。ゼミは定期的に関講しますので、必ず出席してください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、木曜日Ⅰ限、臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：ゼミで発表する前には、重要キーワードや重要な概念をよく調べ、トピックや人物を紹介する再にはその背景や歴史的意味などについて説明ができるようにすること。 事後学習：ゼミの中で補足された事柄や、修正が必要になった事柄、反論や問題点の指摘を受けた点などについて、必ずあとで調査し、ノートあるいはレポートにまとめておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究ゼミの進め方、卒業研究の発表時期と方法、テーマ設定のプロセスや、3年次に行くことなどについて。
2	仮テーマ設定（1）	自分にとって興味関心のある分野、知りたいこと、掘り下げたいテーマ等について発表または討論し、文献を探
3	仮テーマ設定（2）	文献にあたり、調べてきたことを報告・発表する。
4	仮テーマ設定（3）	文献探索の中で分かったことを整理し、もっと知りたいことを探究する。
5	仮テーマ設定（4）	さらに文献探索を続け、対象分野その周辺を俯瞰し、キーワードを整理する。
6	仮テーマ設定（5）	文献探索を重ねながら、研究目的を絞り込んで、焦点化する。
7	論文の書き方（1）	論文とは何か。論文のスタイルについて（文章の書き方、主語述語、言葉の定義、構成、要約、謝辞についてのポリシーなど）。
8	論文の書き方（2）	論文とは何か。論文のルールについて（引用方法と盗用、一次資料二次資料、個人情報保護、守秘義務と開示の了承など）。
9	論文の書き方（3）	論文とは何か。いろいろな分野・スタイル・手法の論文を見て、テーマ設定の方法や研究のプロセスを吟味し、論文のイメージを収集していく。
10	資料の探し方（1）	図書館の使い方（文献複写のルール、資料請求、貸し出しルール、貸し禁の資料など）
11	資料の探し方（2）	資料検索エンジン、政府省庁公開資料、自治体公開資料など
12	研究方法（1）	量的分析について（統計資料、アンケート調査、統計処理、初歩的な統計概念など）
13	研究方法（2）	質的分析について（事例研究、構造化・半構造化面接の方法、記述式データの分類・分析方法など）。
14	研究方法（3）	文献レビュー、メタ分析について
15	進捗報告 I	ここまで調べてきた内容をレポートにして報告する。
16	文献探索（1）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
17	文献探索（2）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
18	文献探索（3）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
19	文献探索（4）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
20	文献探索（5）	研究対象に関する文献や資料を探してどんどん読んでいく。知識・知見を収集し、疑問・批判を書き出して研究ノートを作る。
21	先行研究の調査（1）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
22	先行研究の調査（2）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
23	先行研究の調査（3）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
24	先行研究の調査（4）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
25	先行研究の調査（5）	研究テーマに関連する論文を探索し、内容・方法・新知見を整理して、保管・分類する。
26	研究テーマの決定（1）	研究目的、仮説、研究方法を構成する。
27	研究テーマの決定（2）	データの収集方法（アンケート、インタビュー、新聞記事収集等）、収集内容を決定する。
28	研究テーマの決定（3）	データ収集の具体的準備（施設見学やインタビューの対象選定、調査依頼、質問紙・面接票・分類表などの作成）と作業計画。
29	研究テーマの決定（4）	タイトル（仮）の決定。データ収集の開始。
30	レポート報告	タイトル（テーマ）、目的、仮説、調査方法などのアウトラインと次年度計画の発表または報告する。

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	武井 玲子		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究は、大学での学修成果を総合化することが目的である。1年目は、卒業研究テーマの絞り込みと共に、調査研究の手法（市場調査、インターネット調査、統計解析手法など）や研究論文の書き方（シナリオ、著作権、パソコンの使い方、など）を学ぶ。		
達成目標	①調査研究のシナリオ作成や研究の進め方を学ぶために、先輩の卒業論文、関連の学会誌（日本家政学会誌、など）を多数読みこむ。 ②自分の卒業論文テーマを多数ピックアップし、オリジナリティー性や社会貢献度、興味・関心など様々な視点から絞り込みを行う。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	研究態度 : 60点 学術的レベル : 40点
教科書	特になし		
参考書	N02被服学研究室所蔵図書		
学生への要望	自分自身の大学での学修の総まとめであることを意識し、自主的に積極的に進めることを期待する。		
オフィスタイム	火曜日（2コマ）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室		
自学自習	講義以外の時間は、卒業研究の時間と考え、自主的に研究を推進すること。卒研ゼミの時間には、進捗状況の報告を実施できるように心がける。卒研ゼミ時間以外でも指導が必要な時は、相談に応じることができる。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	2年間にわたる卒業研究を実施するための心構え、研究室の使用方法、卒業研究のスケジュール管理について説明を行う。
2	卒業研究の進め方、卒業論文作成の基本について（1）	卒業研究の進め方と卒業論文作成の基本について学ぶ。 先輩の卒業論文を参考としながら、概要を説明する。 ①研究の基本（論文のオリジナリティー・独創的な研究とコピー） ②テーマの選択と決定
3	卒業研究の進め方、卒業論文作成の基本について（2）	卒業研究の進め方と卒業論文作成の基本について学ぶ。 先輩の卒業論文を参考としながら、概要を説明する。 ①調査方法について 情報源（単行本、文献、インターネット等）と調査方法 ②引用方法と著作権の問題
4	卒業論文の書き方	卒業論文の書き方の基本を学び、卒業研究を進める方向づけをする。 先輩の卒業論文を参考としながら、概要を説明する。 ①論文構成とそれぞれの書き方 ②引用文献の書き方
5	研究テーマの設定とワードの使い方	研究テーマの設定を模索しながら、論文作成と発表のための技術（ワード）を修得する。
6	研究テーマの設定とエクセルの使い方（1）	研究テーマの設定を模索しながら、論文作成と発表のための技術（エクセル）を習得する。
7	研究テーマの設定とエクセルの使い方（2）	研究テーマの設定を模索しながら、論文作成と発表のための技術（エクセル：表・グラフ作成、など）を習得する。
8	研究テーマ（案）をパワーポイントで説明	設定した研究テーマについてパワーポイントを用い、テーマ設定の理由、目的について発表する。
9	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査（例えば、テーマが「生活者の節水の課題」であれば、地球上の水資源、世界の水事情、生活と水、など）を調査する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性等を考えながら調査を推進する。
10	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査を実施する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性等を考えながら調査を推進する。
11	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査を実施する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性等を考えながら調査を推進する。
12	関連論文の調査の推進	テーマに関連する周辺状況調査を実施する。その際、自分の設定したテーマで進めることが可能かどうか、視点の変更の可能性等を考えながら、調査を推進する。
13	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
14	論文のシナリオ作成	周辺調査を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
15	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
16	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
17	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
18	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
19	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
20	論文のシナリオ作成	周辺調査結果を参考として、自分の設定テーマにて卒業論文のシナリオを作成する。
21	論文のシナリオの評価・検	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
22	論文のシナリオの評価・検	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
23	論文のシナリオの評価・検	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
24	論文のシナリオの評価・検	研究室のゼミ生と共に、自分の論文のシナリオについて発表し、お互いに意見交換を実施する。
25	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、必要に応じて変更あるいは再構築を試みる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
26	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、必要に応じて変更あるいは再構築を試みます。
27	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、必要に応じて変更あるいは再構築を試みます。
28	論文シナリオの再構築	次年度に向けて、現時点のシナリオで研究を進められるかどうか検証し、必要に応じて変更あるいは再構築を試みる。その結果を、発表する。
29	研究調査の推進	研究方法に従って、調査研究を推進する。
30	研究調査の推進	研究方法に従って、調査研究を推進する。

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	山形 敏明		
開講期	通年		
授業概要	これまで学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、研究テーマを指導教員と相談の上決定し、自主的に実験・調査を行い、論文としてまとめる基礎力を修得する。		
達成目標	卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了している。		
受講資格	建築デザインコース3学年	成績評価 方法	毎週のレポート提出並びにプレゼンテーションに対し、評価する。
教科書	適宜、資料配付		
参考書	適宜、紹介する。		
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。		
オフィスタイム	月曜日12:50~14:20、14:30~16:00 住居学研究室		
自学自習	予習 研究指導に基づき、ゼミ発表準備(1時間) 復習 指導に基づく研究、調査(2時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究に関する概論。 研究テーマの設定についての方向性を明確にする。
2	テーマ設定に向けて(1)	研究テーマについての相談。
3	テーマ設定に向けて(2)	研究テーマについての相談。
4	研究テーマ決定	卒研究テーマ(仮)を決定する。
5	論文の書き方について	卒業論文の書き方について解説する。
6	論文の書き方について	卒業論文の書き方について解説する。
7	論文の書き方について	梗概集等の論文の書き方について解説する。
8	既往論文の研究(1)	研究テーマにおける既往論文、先行研究について研究する。
9	既往論文の研究(2)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。
10	既往論文の研究(3)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。
11	既往論文の研究(4)	継続して、既往論文、先行研究について研究する。
12	研究方法について(1)	研究テーマに沿って、既往研究の研究方法について研究する。
13	研究方法について(2)	継続して、研究テーマに沿った既往研究の研究方法について研究する。
14	研究方法について(3)	研究テーマにおける、研究方法を決定する。
15	研究計画(1)	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。
16	研究計画(2)	継続して、研究テーマに沿った研究計画を策定する。
17	研究計画(3)	策定した研究計画の妥当性を検討する。
18	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を開始する。
19	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
20	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
21	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
22	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
23	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
24	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
25	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
26	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
27	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
28	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。
29	プレゼンテーション	これまでの、実験及び調査研究結果について、プレゼンテーションを行い、討論する。
30	実験及び調査研究の評価	卒業研究I全般の、研究結果を評価し、改善等を加える。

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	大泉 由美		
開講期	通年		
授業概要	これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につける。そして論文執筆方法を習得・体得する。		
達成目標	①明確にしたい、または解決したい問題などをとりあげ、研究テーマを決めたか。 ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につけることができたか。		
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告及び発表50%
教科書	必要に応じて資料を配付		
参考書	授業内で随時紹介		
学生への要望	1. 主体性を持って参加すること 2. 途中経過を報告すること		
オフィスタイム	水曜 I 限 木曜 I 限 場所：創学館 4 階No.2 研究室		
自学自習	事前学習：テーマについて文献や調査を基に検討すること（1時間） 事後学習：授業での内容を踏まえて、テーマについてまとめ（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 卒業研究の意義、進め方について 2. 今後のスケジュールの検討
2	卒業論文の書き方（1）	・卒業論文の書き方についての解説
3	卒業論文の書き方（2）	・文献の探し方、データの収集について
4	卒業論文の書き方（3）	・参考文献の活用方法（1）
5	卒業論文の書き方（4）	・参考文献の活用方法（2）、データのまとめ方
6	研究テーマ設定（1）	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
7	研究テーマ設定（2）	1. 研究テーマの検討 2. 研究テーマへの批判
8	研究テーマ設定（3）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
9	研究テーマ設定（4）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
10	研究テーマ設定（5）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマへの批判
11	訪問調査（1）口	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
12	訪問調査（2）	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
13	訪問調査（3）	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
14	訪問調査（4）	1. 見学 2. 関係者へのインタビューなど
15	中間まとめ	1. 研究テーマの仮報告 2. スケジュール確認
16	研究テーマの決定	1. 研究テーマの決定
17	資料収集・分析（1）	1. 資料収集 2. 資料分析
18	資料収集・分析（2）	1. 資料収集 2. 資料分析
19	資料収集・分析（3）	1. 資料収集 2. 資料分析
20	資料収集・分析（4）	1. 資料収集 2. 資料分析
21	資料収集・分析（5）	1. 資料収集 2. 資料分析
22	資料収集・分析（6）	1. 資料収集 2. 資料分析
23	資料収集・分析（7）	1. 資料収集 2. 資料分析
24	資料収集・分析（8）	1. 資料収集 2. 資料分析

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	資料収集・分析（9）	1. 資料収集 2. 資料分析
26	卒業論文執筆の事始め（5）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
27	卒業論文執筆の事始め（6）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
28	卒業論文執筆の事始め（7）	1. 執筆のルール 2. 文章表現法
29	中間報告（1）	1. 論文執筆状況の報告 2. 今後のスケジュール
30	中間報告（2）	1. 中間報告の批判 2. 研究スケジュールの検討

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択	
担当教員	添田 祐司			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究の意義を理解したうえで、研究テーマを明確にする。また、テーマに即した研究手法を習得する。			
達成目標	①研究テーマを設定すること。 ②研究目的に沿った研究計画を立てること。 ③研究計画に沿って資料収集を行うこと。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	課題50%、経過報告・演習等の発表50%。	
教科書	特になし			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	月曜日 I 時限・II 時限 創学館 4F、No.2 研究室			
自学自習	事前学習：示された課題等に取り組んでくること。 事後学習：指摘された点についてノート等にまとめておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究の意義、卒業研究の進め方について学ぶ。
2	卒業研究テーマについて	学生が関心をもっている研究内容についてディスカッションを行う。
3	卒業研究テーマについて	学生が関心をもっている研究内容についてディスカッションを行う。
4	研究手法① 文献研究	文献の検索方法、データの収集、参考文献の活用法等について
5	研究手法② 文献研究	文献の検索方法、データの収集、参考文献の活用法等について
6	研究手法③ 文献研究	文献の検索方法、データの収集、参考文献の活用法等について
7	研究方法①	量的研究について
8	研究方法②	量的研究について
9	研究方法③	質的研究について
10	研究方法④	質的研究について
11	テーマの検討①	関心のあるテーマについてまとめる。
12	テーマの検討②	関心のあるテーマについてまとめたことを発表する。
13	先行研究の調査	研究テーマに関する先行研究を調べる。
14	研究計画書の作成①	研究計画書の構想を立てる。
15	研究計画書の作成②	おおよその研究計画書を作成する。
16	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
17	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
18	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
19	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
20	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
21	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
22	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
23	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
24	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
25	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
26	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
27	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
28	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
29	研究の実施	研究計画に沿って基礎研究を進め、進捗状況を報告する。
30	研究計画の確認	4年次に向け、研究の進捗状況を確認し、必要に応じ研究計画を修正する。

平成29年度

科目名	卒業研究 I	対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	ダニエル ホーナー		
開講期	通年		
授業概要	A. Express succinctly research themes and personal career information. B. Demonstrate comprehension of terminology for career choice. C. Write terminology and career information in contemporary formats.		
達成目標	1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) pertaining with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers.		
受講資格	大3年	成績評価 方法	1. Participation and Attitude 2. Demonstration of Four Skills in Research 3. Documents and Reports
教科書	(none)		
参考書	Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.		
学生への要望	1. Please keep all appointments and research deadlines. 2. Conduct and continue research on a daily basis. 3. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!		
オフィスタイム	Regular research hours (Wednesday 8:30 ~ 12:00), Thursday 5th period (16:10 ~ 17:40), and by appointment.		
自学自習	Advisable to partake in research and self-study every day. Each task completed should be thoroughly checked and confirmed by the student and professor.		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Guidance	Preliminary Guidance.
2	Guidance	Second Guidance Session.
3	Preliminary Research	Discussion of preliminary research.
4	Preliminary Research	Continued discussion of preliminary research.
5	Defining Objectives	Define the objectives for the first semester of the year.
6	Defining Objectives	Define the objectives for the second semester of the year.
7	Research Themes	Brainstorm potential research themes to be completed.
8	Additional Research Themes	Brainstorm more potential research themes to be completed.
9	Career Objectives	Correlate research themes to career objectives.
10	Career Objectives	Continue to correlate research themes to career objectives.
11	Career Terminology	Plan the initial research report on career terminology.
12	Additional Career Terminology	Submit the initial research report on career terminology.
13	Career Parameters	Define in-depth career parameters and related themes.
15	Career Parameters	Define additional in-depth career parameters and related themes.
16	Report on Parameters	Write and submit the rough draft of report on career parameters.
17	Report on Parameters	Submit the final document of the report on career parameters.
18	Initial Consultation of Four Skills	Have the initial consultation on ways of improving the four skills needed for career success.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
19	Consultation on Listening Skills	Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.
20	Consultation on Speaking Skills	Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.
21	Consultation on Reading Skills	Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success.
22	Consultation on Writing Skills	Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.
23	Report on Four Skills	Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.
24	Report on Four Skills	Submit the report on the four skills needed for success in careers.
25	Current Technologies	Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.
26	Research Current Technologies	Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice.
27	Report on Current Technologies	Report on current technologies that pertain to the student's career choice.
28	Consultation on Final Research Report	Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.
29	Consultation on Final Research Report	Continue consultation with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.
30	Final Research Report	Submit the final, cumulative research report. Report includes a comprehensive summation of research conducted throughout the year and decisive conclusions on the students career choices.

平成29年度

科目名	卒業研究 I		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	安田 純子			
開講期	通年			
授業概要	各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していく。探究することのおもしろさを知って研究を進める。			
達成目標	各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方を学び、発表できるようにし、また、文章で表現できるように仕上げていく。			
受講資格	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 4単位	成績評価方法	研究過程（態度・発表準備等）（60%）、発表（10%）、研究論文等まとめ（30%）	
教科書	特になし（必要に応じて指示する。）			
参考書	各自その都度必要な文献			
学生への要望	積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。			
オフィスタイム	前期：水曜日と木曜日の午前 後期：月曜日の午後と火曜日・金曜日の午前 創学館N o. 1 研究室			
自学自習	課題を見つけ、調べながら次のステップに進む。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	テーマを見つける	興味のあるテーマを探す
2	図書館の使い方	図書館の使い方、資料の探し方
3	テーマを見つける	調べてみたいテーマ探し
4	資料集め	必要な資料の探し方・集め方
5	資料集め	資料を集める
6	資料を読み取る	論文に向けて参考となる資料の読み取り
7	必要資料集め	再び不足資料を探す
8	資料を読み取る	資料中の表やグラフを読み取る
9	論文構想①	論文構想の大枠を考える。
10	論文構想②	論文構想を模索
11	論文構想③	書ける論文のための骨組みの決定
12	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成①
13	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成②
14	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成③
15	プレゼンテーションのため	プレゼンの練習
16	プレゼンテーションのため	プレゼンの練習
17	論文要旨集	論文要旨集作成
18	論文執筆①	論文の書き方
19	論文執筆②	論文執筆
20	論文執筆③	論文執筆
21	添削	論文添削指導
22	添削	論文添削指導
23	追加資料集め	足りない資料など
24	追加資料集め	足りない資料など
25	論文執筆④	論文執筆・添削指導
26	論文執筆⑤	論文執筆・添削指導
27	論文執筆⑥	論文執筆・添削指導
28	論文のまとめ	まとめと確認
29	論文提出用作成	提出原稿と体裁
30	卒研全体のまとめ	全体のまとめ

平成29年度

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
担当教員	小阪 康治			
開講期	通年			
授業概要	本年度は募集しない。			
達成目標	自分でテーマを考え、自分で調べ、自分で考え、自分で書く。これらのことを体験することを目標とする。卒論はできるだけ多くの枚数を書く。それは就職後の組織の中でのレポート等の練習にもなる。			
受講資格	人生の学生であること	成績評価 方法	提出物と授業時の発表、出欠による。	
教科書	なし			
参考書	学生とその都度相談する			
学生への要望	毎回、きちんと課題を提出すること。 このシラバスは一応の方針なので、詳細は受講生と話し合って決める。また、途中で進度を見ながら、修正して進めていく。			
オフィスタイム	火曜日昼休み			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	今年度の方針	方針について話し合う。
2	話し合い	各自のテーマを話し合いによって決める。
3	講義	文章の書き方についての諸注意。実際に良い文章を分析する。
4	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
5	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
6	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
7	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
8	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
9	講義	先生が書いている本についての批評
10	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
11	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
12	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
13	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
14	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
15	まとめ	前期のまとめ、と後期についての宿題
16	話し合い	後期の方針と、各自の計画の点検
17	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
18	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
19	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
20	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
21	小論文	テーマを出されてすぐに書く時の、文章の書き方。入社試験などの対策も含む。
22	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
23	講義	先生の現在の研究の文章を批判的に検討する。
24	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
25	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
26	小論文	テーマを出されてすぐに書く時の、文章の書き方。入社試験などの対策も含む。
27	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
28	発表	書いてきた物の発表と、それについての各自の意見。
29	講義	各自が良いと思った文章を持ってきて分析、批評する。
30	まとめ	本年度を振り返って

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
担当教員	難波 めぐみ			
開講期	通年			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 卒業研究は、大学での学修の集大成として総合的に学問をみつめ、そこから、新たに創意工夫しようとする自主的な取り組みが出来るようにすることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 3年次の進捗状況から、更に調査分析を進め、中間発表の手法を学ぶ。また、1月の本発表に向けての発表手法や論文の完成を目指す。</p>			
達成目標	<p>[到達目標] ①論文構成を理解し、論文を完成させる。 ②PCを活用しての発表方法を学ぶ。 ③発表原稿の作成を通して、表現する力を身につける。</p>			
受講資格	特になし。	成績評価 方法	①平常点（主体的な取り組み状況）30点 ②中間・本発表状況 30点 ③論文の完成度 40点 ①～③の総合評価60点以上で合格とする。	
教科書	特になし。論文課題に対応し資料配布。			
参考書	随時紹介。			
学生への要望	論文制作は、主体的な取り組みが重要となる。決められた日程問わず、常に前向きに取り組み、理解が困難な場合などは、次週にまわさず進んで質問できるように努力する。			
オフィスタイム	(前期)火(Ⅱ、Ⅲ)、木(Ⅱ、Ⅲ)、(後期)月(Ⅲ)、木(Ⅱ、Ⅲ) 家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、ゼミ終了後確認して下さい。			
自学自習	予習：関連記事を新聞などで探し、疑問点や課題を抽出する。(1時間) 復習：事前学修や授業で調べた内容を、ノートにまとめ論文作成をすすめること。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	論文制作	3年次の資料収集及び分析調査結果を踏まえ、論文の作成方法を学ぶ。
2	論文制作	論文の章立てを行い、執筆をスタートさせる。
3	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ
4	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ
5	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ
6	論文制作	執筆した内容を提出し添削。執筆指導後、執筆を進める。
7	論文制作	執筆を進める。随時添削。
8	論文制作	途中経過報告会及び討論会
9	論文制作	執筆を進める
10	中間報告の内容を決める	中間報告会での報告内容を決める
11	中間報告の準備	目的、方法、結果(途中経過)の記入方法を学ぶ
12	中間報告の準備	第11回で学んだことを活かして、目的、方法、結果(途中経過)を記入提出
13	中間報告の準備	第12回に提出した発表原稿の指導内容をもとに、修正後提出
14	中間報告の準備	発表ppの制作方法を学ぶ
15	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作方法の提示。発表PPの制作に取り掛かる。
16	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作。生活総合コースは、中間発表までにタイトル及びサブタイトルの提出となるので、最終タイトル及びサブタイトルを決定する。
17	中間発表の準備	タイトル及びサブタイトルの決定。中間報告の原稿及びPP準備。
18	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。原稿の提出及び添削、修正。来週完成を目指す。
19	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。ゼミ生同士で発表の練習を行い、より良い発表方法を学んでいく。
20	発表終了後の反省報告会	中間発表会を終えて、今後の進め方や反省などを学生及び教員間で確認をする。
21	論文制作	中間発表会での指摘や指導やアドバイスを受けて、論文修正などを行っていく。
22	論文制作	12月上旬をめどに、論文の完成を目指す。
23	論文制作	各章ごとに、論文執筆状況を提出し確認を受ける。
24	論文制作	論文執筆状況を提出確認完了後、修正に入る。
25	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の制作方法を学び、目的・方法・結果に分けて記入する(提出添削)
26	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の修正。来週完成を目指す。
27	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨集原稿の完成を目指す。
28	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。
29	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。
30	論文制作	論文提出方法を学ぶ。

平成29年度

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	研究テーマに関しての疑問に対して、調査を実施し考察することで自らの答えを導き出す。			
達成目標	研究テーマに対する答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得すること。 1. 研究計画にそってデータを収集し調査、分析を行う。 2. 研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成し、口頭発表を行う。			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題80%、発表20%	
教科書	随時、印刷物の配布			
参考書	授業内で適宜紹介する			
学生への要望	諦めないで、研究をやり遂げること。			
オフィスタイム	・水曜日 I時限 ・木曜日 I時限 創学館4階 No.1研究室			
自学自習	予習：テーマに関係した課題について、情報収集からアセスメントまでを毎回実施して発表の準備を行うこと（2時間） 復習：発表時の質疑を受けて、さらに調査し理論的に整理しておくこと（1時間） □			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	調査内容の検討及び作成	調査内容の検討及び調査項目の作成
2	調査内容の検討及び作成	調査内容の検討及び調査項目の作成
3	調査依頼及び集計	調査依頼
4	調査依頼及び集計	調査結果の集計
5	調査依頼及び集計	調査結果の集計
6	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
7	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
8	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
9	調査内容のまとめ及び考察	調査結果の集計及び考察
10	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成
11	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成
12	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成
13	卒業論文の作成	卒業論文の作成
14	卒業論文の作成	卒業論文の作成
15	卒業論文の作成	卒業論文の作成

平成29年度

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
担当教員	長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行う。研究の意義や目的意識をしっかりと持ち、4年間の集大成としての論文をまとめることにより文章力や分析力を養う。			
達成目標	①客観性のある分析と論理的な文章構成を習得し、卒業論文を製作する。 ②地域に貢献に寄与する研究を実施し、研究成果を地域に公表および還元すること。			
受講資格	建築デザインコース4年生	成績評価 方法	論文完成度60% 研究への取り組み40%	
教科書	適宜、資料を配布する			
参考書	特になし			
学生への要望	研究に対する目的意識や問題意識をもつこと。 論理的に考察する能力や順序立てて説明するプレゼンテーション能力を身につけるよう努力すること。			
オフィスタイム	通年：月曜日8：50～10：20 木曜日8：50～10：20 創学館4F No.3研究室			
自学自習	予習・復習：自身の課題を整理し、ゼミで指導を受けた内容を基に研究を進めること。（各1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	テーマ決定	卒業論文のテーマを明確にし、研究活動をはじめると共に、10月の中間発表、1月の本発表にむけた研究計画を策定する。
2	先行研究の整理1	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
3	先行研究の整理2	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
4	先行研究の整理3	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
5	先行研究の整理4	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
6	先行研究の整理5	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。
7	進捗状況発表1	研究目的を明確にすることを目的に、口頭発表を行う。自身の研究の新規性のある部分について、先行研究と比較しながらまとめ、何をどんな方法で明らかにするのか、研究の骨子となる部分を明瞭にする。また、これまでの進捗状況を整理し、今後の研究計画について発表する。
8	調査活動1	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
9	調査活動2	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
10	調査活動3	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
11	調査活動4	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
12	調査活動5	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
13	調査活動6	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
14	調査活動7	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。
15	進捗状況発表2	調査などで得られた情報を整理し、今後の研究計画について発表する。
16	進捗状況発表3	夏季休暇中に行った内容について発表する。
17	プレゼンテーション作成	中間発表会に向けたプレゼンテーションを作成する。
18	中間発表練習	中間発表に向けた練習を行う。
19	研究計画の整理1	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。
20	研究計画の整理2	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。
21	論文の執筆1	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
22	論文の執筆2	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
23	論文の執筆3	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
24	論文の執筆4	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
25	進捗状況発表4	これまでの進捗状況について発表する。
26	論文の執筆5	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
27	論文の執筆6	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
28	論文の執筆7	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。
29	発表練習	本発表に向けた発表練習を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	本発表と論文投稿	本発表に向けて、発表データを作成し、投稿にむけて論文を完成させる。

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
担当教員	堀 琴美			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 卒業研究Ⅰ（3年次）で作成した研究計画に沿って、調査を行い、データを処理し、論文を書いています。このゼミでは、心理学的手法（アンケート調査、統計処理、個人インタビュー、集団討論等）を使って研究する方法も必要に応じて指導します。			
達成目標	[授業終了時の達成課題（到達目標）] ①論理的で分かりやすい文章を丁寧に書き上げること。 ②研究のために必要な良質な文献を見つけ出し、十分に読み込んでいること。 ③調査やデータ処理を適切に行い、誠実な態度で結果の考察を行っていること。 ③引用の約束事を理解し、引用・参考文献の書き方を習得していること。 なお、福祉コースの学生は、他のコース学生よりも3か月早い10月末に本発表が行われますので、この時期までに論文の完成を目指します。			
受講資格	なし	成績評価 方法	論文の完成度（テーマ、構成、調査力、文章力、独自性、発想力、論理性、データ処理、文献資料の質と量など） （80%）、発表会への参加態度（10%）、ゼミの参加態度（10%）	
教科書	テーマ別に提示			
参考書	テーマ別に提示			
学生への要望	4年生は、定期的にゼミに出席して、研究の進捗を報告してください。そして、毎回のゼミで次の目標を設定し、コツコツと作業を積み上げていきましょう。進め方（計画作成）は、国家試験対策や就活とも合わせて、ひとりひとり自分で作ってもらいます。なるべくはやい時期から書き始めるようにしてください。			
オフィスタイム	火曜 I 限、水曜Ⅳ限 臨床心理学研究室			
自学自習	事前学習：ゼミで発表する前には、重要キーワードや重要な概念をよく調べ、トピックや人物を紹介する再にはその背景や歴史的意味などについて説明ができるようにすること。 事後学習：ゼミの中で補足された事柄や、修正が必要になった事柄、反論や問題点の指摘を受けた点などについて、必ずあとで調査し、ノートあるいはレポートにまとめておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	論文作成タイムスケジュールを作成する。
2	テーマやアウトラインの確認	仮タイトル、研究目的、仮説、研究方法、データ収集の進捗などを確認する。
3	データ処理（1）	アンケートデータの回収・集計・分類、あるいはインタビューデータの文字起こしなど
4	データ処理（2）	アンケートデータの回収・集計・分類、あるいはインタビューデータの文字起こしなど
5	データ処理（3）	アンケートデータの回収・集計、あるいはインタビューデータの文字起こしなど
6	データ処理（4）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など
7	データ処理（5）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など
8	データ処理（6）	アンケートデータの分類、統計処理、あるいはインタビューデータの再構成・記述など
9	データ処理（7）	集計結果の表し方、グラフの作成、あるいは事例の表記法、年表、ジェノグラムの書き方など
10	データ処理（8）	集計結果の表し方、グラフの作成、あるいは事例の表記法、年表、ジェノグラムの書き方など
11	考察（1）論文の執筆	データの分析結果から考察を行う。
12	考察（2）	データの分析結果から考察を行う。
13	考察（3）	データの分析結果から考察を行う。
14	考察（4）	データの分析結果から考察を行う。
15	考察（5）	データの分析結果から考察を行う。
16	論文の執筆（1）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
17	論文の執筆（2）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
18	論文の執筆（3）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
19	論文の執筆（4）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
20	論文の執筆（5）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
21	論文の執筆（6）	実際に論文を書いていく。言葉の使い方、表記の方法、引用方法、論理の筋道などをチェックし、修正しながら進めていく。
22	中間発表（または本発表）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成）
23	論文の執筆（7）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす。
24	論文の執筆（8）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす
25	論文の執筆（9）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす
26	論文の執筆（10）	実際に論文を書いていく。参考文献・資料の探索を続けながら、引用の方法に注意して、より分かりやすい文章の記述をめざす
27	論文の仕上げ（1）	引用文献の記載方法を確定し、そのルールに従って丁寧に文献表記を行う。
28	論文の仕上げ（2）	用語や訳語の統一、表・グラフ等の表記ルールに従った記載、引用文献の表記法、内容のチェックなど。
29	論文の仕上げ（3）	発表用データ作り（要旨作成、プレゼンテーション用資料作成）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	本提出	完成した論文を最終チェック。特に27回、28回めの時に学んだチェックポイントを再点検し、誤字脱字、全体の統一性、さらに落丁のないことを確認して提出する。

平成29年度

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必修	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活 学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単 位 必修
担当教員	武井 玲子			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究は、大学での学修成果を総合化することを目的としている。 1年目（3年生）は、卒業研究テーマの絞り込みを目標としつつ、卒業研究の基本的な進め方や研究手法（文献調査、インターネット調査、市場調査、統計解析手法など）や研究論文の書き方（シナリオ、著作権、パソコンの使い方、など）を修得してきた。 2年目（4年生）は、絞り込んだテーマのシナリオに沿って研究を推進し、10月の中間報告会、1月の最終報告会での発表、仮論文提出、最終的な卒業論文を完成させ冊子として提出するスケジュールで進める。			
達成目標	1年目に修得した研究の基本的な進め方により研究を推進し、10月開催の中間報告会、1月開催の最終報告会での発表と仮論文提出に続き、最終的な卒業論文を完成させ冊子として提出する。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	研究態度 : 30点 学術的レベル : 70点	
教科書	特になし			
参考書	N02被服学研究室所蔵図書			
学生への要望	自分自身の大学での学修の総まとめであることを意識し、自主的に積極的に進めることを期待する。			
オフィスタイム	火曜日（2コマ）：N02被服学研究室 水曜日（全日）：N02被服学研究室			
自学自習	講義以外の時間は、卒業研究を推進すること。卒研ゼミ学生同士あるいは同級生との卒研テーマに関する議論を深めることは有用であり、積極的に実施すること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究Ⅱの1年間のスケジュールの確認と研究を進めるにあたっての心構え、などの説明を行う。
2	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
3	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
4	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
5	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
6	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
7	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
8	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
9	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
10	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
11	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
12	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
13	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
14	研究調査の継続と論文作成	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。
15	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
16	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
17	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
18	研究調査の継続と論文作成・中間報告会の準備	シナリオに従って、調査研究を推進する。 随時、進捗状況を報告し、相談・指導を受ける。 中間報告会の準備も合わせて実施する。
19	中間報告会の予行と発表	パワーポイントを用いて、持ち時間内で発表できるように繰り返し練習をし本番に臨む。 質疑応答対策も合わせて実施する。
20	研究調査の継続と論文作成	中間報告会でいただいた質疑応答やご意見内容は論文に反映させ、論文の完成をめざす。
21	論文作成・最終報告会の準備	論文作成と最終報告会のパワーポイント原稿を作成する。
22	論文作成・最終報告会の準備	論文作成と最終報告会のパワーポイント原稿を作成する。
23	論文作成・最終報告会の準備	論文作成と最終報告会のパワーポイント原稿を作成する。
24	卒業論文発表会の予行と発表、卒業論文仮提出	パワーポイントにて時間内で卒業論文発表を行えるように練習し、本番に臨む。 発表でいただいた質疑応答、ご指導点はメモをしておき、必要に応じて調査研究を実施して最終論文に反映させる。 また、この時点までに作成した論文を指定時間・指定場所に仮提出する。
25	卒業論文仮提出後のチェック	仮提出論文の最終チェックを行い、追加修正する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
26	卒業論文仮提出後のチェック	仮提出論文の最終チェックを行い、追加修正する。
27	卒業論文製本印刷	製本化に向けて印刷作業を実施する。
28	卒業論文製本印刷	製本化に向けて印刷作業を実施する。
29	卒業論文製本発注納品受理	製本された論文の最終チェックを行う。
30	製本化した卒業論文を提出	指定時間までに論文を提出し、最終審査を受ける。

平成29年度

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
担当教員	佐久間 邦友			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究は、大学での学修のまとめである。 卒業研究Ⅰの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを向上させる。そして論文執筆方法を習得・体得し、卒業論文を完成させる。			
達成目標	①これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決め、卒業論文をまとめることができたか。 ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキル、プレゼンに関する技法を身につけることができたか。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	卒業論文70%、プレゼン30%	
教科書	特になし			
参考書	適宜、提示します。			
学生への要望	1. 進捗状況は細かく報告すること 2. 能動的ではなく積極的に行動			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限 (12:50~14:20) 木曜Ⅱ限 (10:30~12:00) 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：テーマについて多角的に検討すること (1時間) 事後学習：ゼミでの内容を踏まえて、テーマにまとめ (1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 研究とは 2. 今後のスケジュールの検討
2	中間報告 (1)	1. 論文執筆状況の報告 2. 今後のスケジュール
3	中間報告 (2)	1. 中間報告の批判 2. 研究スケジュールの検討
4	資料収集 (1)	1. 資料の収集方法
5	資料収集 (2)	1. 資料の収集方法
6	執筆作業 (1)	1. 執筆 2. 添削
7	執筆作業 (2)	1. 執筆 2. 添削
8	執筆作業 (3)	1. 執筆 2. 添削
9	執筆作業 (4)	1. 執筆 2. 添削
10	執筆作業 (5)	1. 執筆 2. 添削
11	執筆作業 (6)	1. 執筆 2. 添削
12	執筆作業 (7)	1. 執筆 2. 添削
13	執筆作業 (8)	1. 執筆 2. 添削
14	執筆作業 (9)	1. 執筆 2. 添削
15	執筆作業 (10)	1. 執筆 2. 添削
16	執筆作業 (11)	1. 執筆 2. 添削
17	執筆作業 (12)	1. 執筆 2. 添削
18	プレゼン練習 (1)	1. プレゼン練習と質疑への対応
19	プレゼン練習 (2)	1. プレゼン練習と質疑への対応
20	中間発表への準備	1. 中間発表への準備
21	中間発表	1. 中間発表にて発表
22	執筆作業 (13)	1. 執筆 2. 添削
23	執筆作業 (14)	1. 執筆 2. 添削
24	執筆作業 (15)	1. 執筆 2. 添削
25	執筆作業 (16)	1. 執筆 2. 添削
26	プレゼン練習 (3)	1. プレゼン練習と質疑への対応
27	本発表への準備	1. 本発表への準備
28	本発表	1. 本発表にて発表

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	論文再校	1. 本発表での質疑への応答 2. 論文の再校
30	論文提出	1. 論文提出 2. 口頭試問

平成29年度

科目名	卒業研究Ⅱ		対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 必修
担当教員	熊田 伸子			
開講期	通年			
授業概要	・卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている			
達成目標	・卒業研究Ⅱでは、10月末の発表会で報告し、2年間の成果として論文をまとめる			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	出席30%、報告・発表30%、論文40%	
教科書	特になし			
参考書	随時プリントを配布する 適切な論文を適宜紹介する 地域福祉情報、月刊福祉等を参考とする			
学生への要望	・研究計画に沿って、主体性を持って進めてください			
オフィスタイム	月曜日及び金曜日の3時限 創学館4階 No.6 研究室			
自学自習	予習：テーマに関する文献を読む。調査を行った場合、分析を行う。(2時間) 復習：指導に沿って、まとめる。(1時間～2時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	演習	・テーマに即した内容を調べ、発表し、ディスカッションを行う
2	研究計画書の作成	・研究計画書を作成する ・論文の構成を考える
3	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う
4	論文の作成	・テーマに関連する研究会等に参加する
5	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う
6	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う
7	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる
8	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる
9	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
10	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
11	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
12	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
13	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
14	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
15	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
16	論文の作成	・論文の執筆 ・経過報告
17	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
18	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
19	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
20	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
21	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する
22	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成
23	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成
24	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成
25	発表	・卒業研究発表会で発表する
26	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
27	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
28	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
29	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる
30	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる